

ひがし は ぎ ま
東狭間遺跡

— 緊急避難塔整備に伴う試掘調査報告書 —

2021.3

香南市教育委員会

序

高知県香南市は豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古くから先人たちが歴史を創ってきた地域です。

東狭間遺跡のある吉川町は物部川河口東岸に位置しています。太平洋に面して田園地帯が広がり、鰻やラッキョウなどの特産品が知られています。吉川から東の赤岡、岸本、夜須へ続く砂丘上には街道が延び、集落を営んできました。

この美しい海岸線には、南海地震のたびに繰り返される津波被害の記憶が刻まれています。野市町上岡、香我美町岸本、夜須町坪井には、江戸時代安政南海地震の津波の記録が刻まれた石碑が遺されており、土佐湾に面した自治体にとって南海地震対策、とりわけ津波に対する備えは喫緊の課題となっています。

平成23年3月11日の東日本大震災を機に、香南市では近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えて津波避難タワーの建設に取り組んできました。また市が実施する避難施設以外にも、農村地域の防災・減災対策として早急に避難場所を確保する必要があり、今回の調査のきっかけとなった吉川町大八幡宮東側の津波避難タワー建設は、高知県の整備計画によるものです。

東狭間遺跡は、津波避難タワー建設に伴う事前の試掘調査で新たに確認された遺跡です。建設予定地には弥生時代終り頃の集落跡や奈良時代の建物跡などが発見され、吉川町吉原地区の歴史に新しく貴重な成果を得ることができました。本書は香南市の歴史を広く知って頂くとともに、埋蔵文化財に対する一層のご理解を願って刊行するものです。地域の歴史を考える資料として活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力頂きました吉川町吉原地区の地元の皆様、高知県中央東農業振興センター、高知県教育委員会をはじめとする関係諸機関および関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

香南市教育委員会
教育長 入野 博

例 言

1. 本書は、高知県が平成28・29年度に実施した香南南部地区農村災害対策整備古川工区緊急避難塔建設工事に伴う、試掘調査報告書である。
2. 調査対象地は、高知県香南市吉川町吉原字東扶(旧)間1984番地1、1985番地に所在する。
3. 試掘調査は、香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係(香南市文化財センター)が主体となつて平成29年3月17日～5月2日に実施し、一部は本発掘調査時に精査した。
4. 調査対象面積 約1,540㎡ 試掘調査面積 約170㎡
5. 試掘調査時(平成28・29年度)の調査体制は以下の通りである。

事務担当	寺内より子	香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係係長			
〃	松村信博	〃	〃	〃	主監調査員
調査担当	宮地啓介	〃	〃	〃	埋蔵文化財調査員
6. 報告書刊行時(令和2年度)の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。

課長	猪原加江	埋蔵文化財調査員	松井喬行	宮地啓介	
係長	竹中ちか	整理作業員	齋藤美幸	高橋由香	高橋加奈
再任用主査	澤田秀幸		藤原ゆみ	山崎佐世	依光美佐子
主査調査員	横山藍	補助員	松田克純	神澤朱里	/会計年度職員
7. 本書の編集・執筆は宮地が行った。
8. 本報告書中で使用する方位は真北(方眼北)を基準とし、公共座標は世界測地系第IV系に拠った。掲載した地形図等は、特に表示のない場合は上方が北である。
9. 試掘箇所の調査に際しては下記の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略)

[現場作業員]	川村正廣	植田秀夫	大野久雄	
	(宗岡良一)	満洲進一郎	金田稔	依光諒 宮本幸子)
10. [重機オペレーター] 清藤勝秀
[機械・器具] (株)東部レントオール 香南営業所 (株)ジッタ 高知支店

遺物整理・報告書作成等に際しては下記の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略)
藤原ゆみ 齋藤美幸 高橋由香 高橋加奈 土居初子 宮本幸子 松木富子 山崎佐世
吉本由佳 依光美佐子

11. 遺構の略号は、S T(竪穴住居状遺構)・S B(掘立柱建物跡)・S K(土坑状遺構)・S X(性格不明遺構)・P(ピット状遺構)等と表記し、本報告書において包括的な総称として用いている。
12. 掲載した遺物実測図は便宜上既刊の本発掘調査報告書からの通し番号で表示し、挿図・写真図版とも同一番号を使用している。出土遺物は「16-15 H G」(平成28年度)、「17-1 H G」(平成29年度)及び「17-4 H G」(本発掘調査)と注記し、假番号を付して関連図面・写真と共に香南市文化財センターで保管している。
13. 調査に当たっては高知県中央東農業振興センター(基盤整備課)の協力を得た。また地元住民の方々には埋蔵文化財保護に対する御理解と御協力を頂き、厚く感謝の意を表したい。
14. 本報告書作成に際して、吉成承三氏、池澤俊幸氏、久家隆芳氏(公益財団法人高知県文化財団 高知県立埋蔵文化財センター)、宮里 修氏(高知大学人文社会科学部准教授)、松村信博氏、藤方正治氏ら諸氏に貴重な御教示・御助言を頂いた。記して謝意を表する次第である。

※ 登記簿に記載(登録)されている本地番における表記である。通常の当該字名は「狹」の文字を使用しており、本遺跡の名称もこれに倣っている。

本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査対象地の概要	3
第Ⅱ章 香南市域の地理・歴史的環境	
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第Ⅲ章 調査の成果	
第1節 調査の方法	11
第2節 試掘坑検出の遺構と遺物	14
第3節 小括	79

挿図目次

第1図 香南市及び東狭間遺跡位置図	1
第2図 香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔整備工事図面	2
第3図 東狭間遺跡包蔵地範囲及び調査対象地位置図 (S=1/5,000)	3
第4図 東狭間遺跡周辺の主な遺跡及び地形分類図 (S=1/45,000)	7
第5図 調査区位置及び公共座標 (S=1/500)	11
第6図 遺構配置図 (S=1/180)	13
第7図 調査対象地 表探遺物実測図 (S=1/3)	14
第8図 TR 1 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)	15
第9図 TR 2 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)	16
第10図 TR 3 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)	16
第11図 TR 4 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)	17
第12図 TR 5 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)	18
第13図 TR 6 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)	20
第14図 SD 1 出土遺物実測図 (S=1/3)	21
第15図 P 211 遺構平面図・断面図 (S=1/40) 出土遺物実測図 (S=1/3)	21

第16図	TR 7	遺構平面図・土層断面図 (S=1/80)	出土遺物実測図 (S=1/3)	22
第17図	ST 1	上面遺構平面図・断面図 (S=1/50)	出土遺物実測図 (S=1/3)	23
第18図	ST 1	遺構平面図・土層断面図 (S=1/50)		25
第19図	ST 1	礫群検出状態図・断面図 (S=1/60)		26
第20図	ST 1	出土遺物分布図 (S=1/40)		27
第21図	ST 1	出土遺物分布図：南半 (S=1/10・20)		29
第22図	ST 1	出土遺物分布図：北半 (S=1/10・20)		31
第23図	ST 1	出土遺物分布図：東半 (S=1/10・20)		33
第24図	ST 1	出土遺物分布図：西半 (S=1/10・20)		35
第25図	ST 1	出土遺物実測図 1 (S=1/3)		37
第26図	ST 1	出土遺物実測図 2 (S=1/3)		38
第27図	ST 1	出土遺物実測図 3 (S=1/3)		39
第28図	ST 1	出土遺物実測図 4 (S=1/3)		40
第29図	ST 1	出土遺物実測図 5 (S=1/3)		41
第30図	ST 1	出土遺物実測図 6 (S=1/3)		42
第31図	ST 1	出土遺物実測図 7 (S=1/3)		43
第32図	ST 1	出土遺物実測図 8 (S=1/3)		44
第33図	ST 1	出土遺物実測図 9 (S=1/3)		45
第34図	ST 1	出土遺物実測図 10 (S=1/3)		46
第35図	ST 1	出土遺物実測図 11 (S=1/3)		47
第36図	ST 1	出土遺物実測図 12 (S=1/3)		48
第37図	ST 1	出土遺物実測図 13 (S=1/3)		49
第38図	ST 1	出土遺物実測図 14 (S=1/3)		50
第39図	ST 1	出土遺物実測図 15 (S=1/3)		51
第40図	ST 1	出土遺物実測図 16 (S=1/3)		52
第41図	ST 1	出土遺物実測図 17 (S=1/3)		53
第42図	ST 1	出土遺物実測図 18 (S=1/3)		54
第43図	ST 1	出土遺物実測図 19 (S=1/3)		55
第44図	ST 1	出土遺物実測図 20 (S=1/3)		56
第45図	ST 1	出土遺物実測図 21 (S=1/3)		57
第46図	ST 1	出土遺物実測図 22 (S=1/3)		58
第47図	ST 1	出土遺物実測図 23 (S=1/3)		59
第48図	ST 1	出土遺物実測図 24 (S=1/3)		60

第49図	ST 1	出土遺物実測図25 (S=1/3)	61
第50図	ST 1	出土遺物実測図26 (S=1/3)	62
第51図	ST 1	出土遺物実測図27 (S=1/3)	63
第52図	ST 1	出土遺物実測図28 (S=1/3・1/4)	64
第53図	ST 1	出土遺物実測図29 (S=1/3)	65
第54図	ST 1	出土遺物実測図30 (S=1/3)	66
第55図	ST 1	出土遺物実測図31 (S=1/3)	67
第56図	ST 1	出土遺物実測図32 (S=1/3)	68
第57図	ST 1	出土遺物実測図33 (S=1/3)	69
第58図	ST 1	出土遺物実測図34 (S=1/3)	70
第59図	ST 1	出土遺物実測図35 (S=1/3)	71
第60図	ST 1	出土遺物実測図36 (S=1/3)	72
第61図	ST 1	出土遺物実測図37 (S=1/3)	73
第62図	ST 1	出土遺物実測図38 (S=1/3)	74
第63図	ST 1	中央土坑 遺構平面図・他 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	75
第64図	ST 1	P 2 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	76
第65図	ST 1	P 4 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	77
第66図	ST 1	P 9 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	78
第67図	ST 1	Pit状遺構 出土遺物実測図 (S=1/3)	78
第68図	ST 1	土坑状遺構 出土遺物実測図 (S=1/3)	78
第69図	ST 1	出土遺物一括資料 (S=1/6)	79
第70図	ST 1	出土遺物資料 (S=1/6・1/9) 組成比率 (壺・甕・鉢・高坏・支脚形土器)	80

表目次

第1表	TR 3	ピット状遺構 計測表	17
第2表	TR 5	土坑・ピット状遺構 計測表	19
第3表	TR 6	ピット状遺構 計測表	21
第4表	ST 1	上面ピット状遺構 計測表	23
第5表	ST 1	主要ピット状遺構 計測表	25
第6表	ST 1	ピット状遺構 計測表	78
第7表	ST 1	土坑状遺構 計測表	78

第 8 表	遺物觀察表 1	83
第 9 表	遺物觀察表 2	84
第 10 表	遺物觀察表 3	85
第 11 表	遺物觀察表 4	86
第 12 表	遺物觀察表 5	87
第 13 表	遺物觀察表 6	88
第 14 表	遺物觀察表 7	89
第 15 表	遺物觀察表 8	90
第 16 表	遺物觀察表 9	91
第 17 表	遺物觀察表 10	92
第 18 表	遺物觀察表 11	93
第 19 表	遺物觀察表 12	94
第 20 表	遺物觀察表 13	95
第 21 表	遺物觀察表 14	96
第 22 表	遺物觀察表 15	97
第 23 表	遺物觀察表 16	98
第 24 表	遺物觀察表 17	99
第 25 表	遺物觀察表 18	100
第 26 表	遺物觀察表 19	101
第 27 表	遺物觀察表 20	102
第 28 表	遺物觀察表 21	103
第 29 表	遺物觀察表 22	104
第 30 表	遺物觀察表 23	105
第 31 表	遺物觀察表 24	106
第 32 表	遺物觀察表 25	107
第 33 表	遺物觀察表 26	108

写真図版目次

- 図版 1 調査対象地
- 図版 2 TR 1 / TR 2 / TR 3
- 図版 3 TR 4
- 図版 4 TR 5
- 図版 5 TR 6
- 図版 6 TR 6 / TR 7
- 図版 7 TR 7
- 図版 8 TR 7
- 図版 9 TR 7
- 図版 10 ST 1 遺物出土状態 (壺形土器)
- 図版 11 ST 1 遺物出土状態 (甕形土器)
- 図版 12 ST 1 遺物出土状態 (甕形土器)
- 図版 13 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 14 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 15 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 16 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 17 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 18 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 19 ST 1 遺物出土状態 (高坏形土器)
- 図版 20 ST 1 遺物出土状態 (支脚形土器)
- 図版 21 ST 1 遺物出土状態 (礫石器) / 津波避難タワー
- 図版 22 調査日誌抄 3月17日～3月24日
- 図版 23 調査日誌抄 3月27日～3月30日
- 図版 24 調査日誌抄 4月3日～4月13日
- 図版 25 調査日誌抄 4月14日～4月21日
- 図版 26 調査日誌抄 4月24日～4月28日
- 図版 27 調査日誌抄 5月1日～5月2日 / 現場写真1
- 図版 28 現場写真2

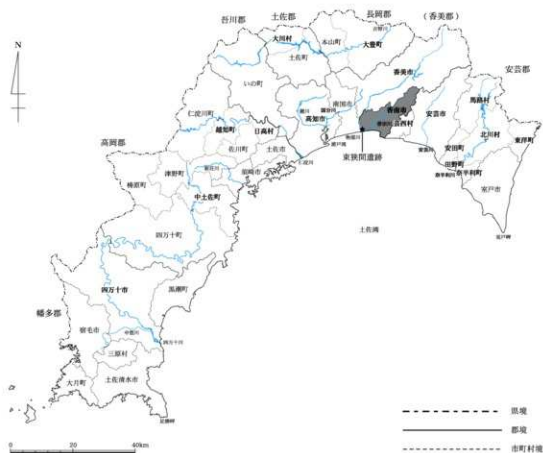
第1章 調査の経緯

第1節 調査の経緯

本調査は、高知県香南市吉川町吉原字東狭間に計画されている緊急避難塔建設工事に伴う、記録保存を視野に入れた試掘調査である。

香南市吉川町吉原字東狭間において、平成29年度に「香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔建設工事」が計画されている。本事業は県の防災対策事業の重点施策として、住民避難の安全性を図り、地域の防災・減災対策に資するものとした県営による農村防災施設整備事業である。事業対象地周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかったが、地理的・歴史的環境を鑑み、埋蔵文化財が遺存している可能性が考えられた。これに伴い、事前に事業計画区内の埋蔵文化財の有無を確認し、埋蔵文化財の保護と事業の円滑な調整を図ることを目的として、平成28年度に高知県中央東農業振興センター（基盤整備課）と協議を行い、市教育委員会（生涯学習課 文化振興保護係 / 香南市文化財センター）が主体となって試掘調査を実施した。

試掘調査は平成29年3月17日から同月30日（平成28年度）及び平成29年4月3日から5月2日（平成29年度）にかけて、調査対象面積約1,540㎡の内約170㎡を調査した。



第1図 香南市及び東狭間遺跡位置図

農村地域防災減災事業計画概要書(抜粋)

- 事業実施主体 高知県
 事業の種類 農村防災施設整備事業
 事業内容 農村防災施設整備事業(農村防災施設整備)
 施設の種類 緊急避難路整備、緊急避難施設整備事業内容
 主要工事 避難誘導標識、避難誘導灯、緊急避難塔(タワー)

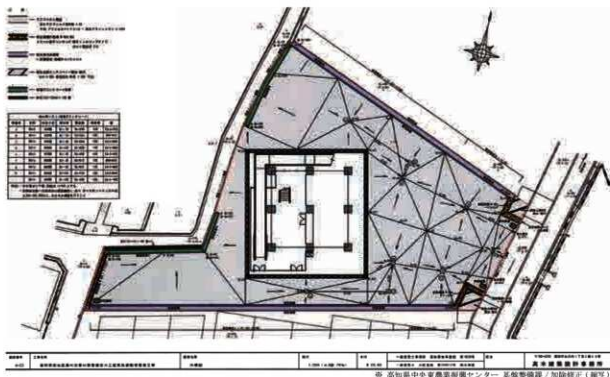
当該地域及び当該施設の特徴並びに事業の必要性

本地区は香南市南部、土佐湾に面した海岸線が12kmに広がる、東は手結山から西は物部川左岸域に開けた海拔5m程度と非常に低い場所に位置する農村地帯である。また、本地区の北側の内陸部には広大な水田地帯が広がっている。

本地区においては、近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震発生時には、避難場所として周辺に高台や避難場所がないため直接津波の被害を受けてしまう地域であるため住民の速やかな避難が重要課題となっている。

本地区では、平成24年12月10日に公表された「高知県版第2弾の津波浸水予測」により、津波浸水並びに津波浸水エリアが大幅に見直され、現行の指定避難場所である高台や津波避難ビルでは対応できない地域があり、そこで平成24年5月10日に公表された高知県版第1弾の津波浸水予想地域を対象にした地域ワークショップを開催し、住民自ら新たな避難場所や避難路、また要援護者対策等についての協議検討を行った結果、市が実施する避難施設以外にも、農村地域の防災・減災対策として早急に実施する必要があると思われる。

よって、地震発生後の津波から人命を守るためには、津波浸水区域からの安全で速やかな避難を可能とする必要があることから、本事業により早急な対策を講じる必要がある。



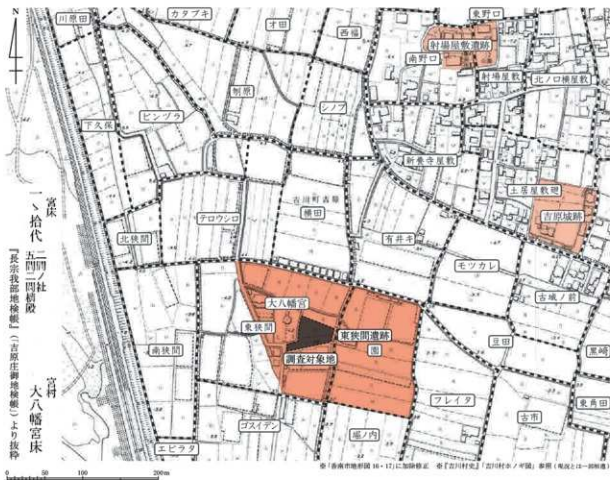
第2図 香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔整備工事図面

第2節 調査対象地の概要

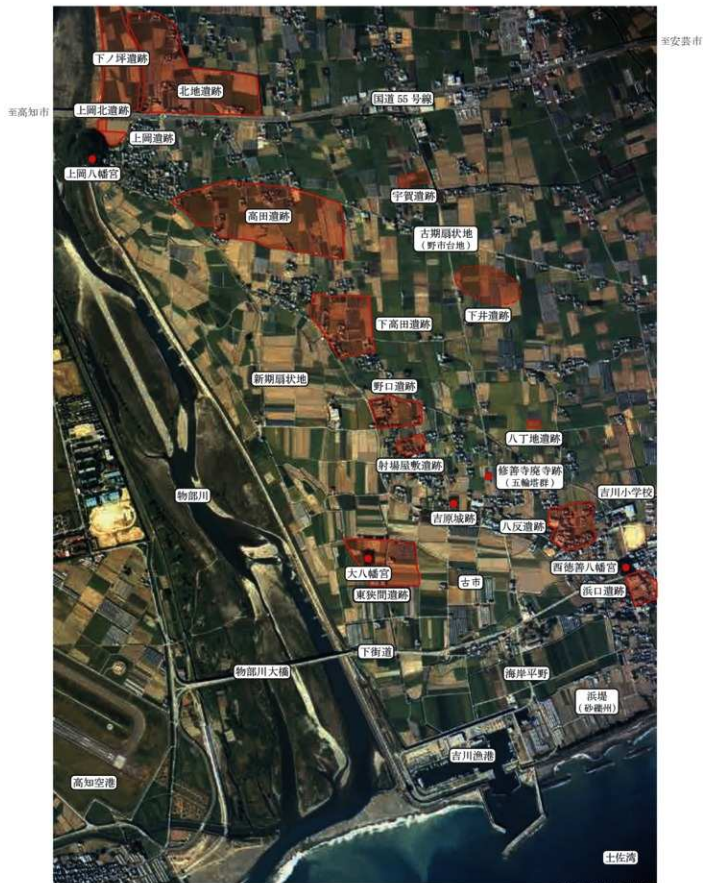
調査対象地の所在する香南市古川町古原は、西に流域の基幹を成す物部川が貫流し、瀬戸川(古原溝)の小流を境として東に同町古川、北に沃野の広がる同市野市町下井と接する低平な田園地帯で、米作や施設園芸農業などの第一次産業が盛行している。南に土佐湾を臨んで複数列の浜堤(砂堆)が旧汀線を示し、海成複式堆積低地による堤間湿地(堤列低地)の発達により、背後に潟湖性の低湿地が認められる。対象地は物部川旧河道による河成堆積扇状地(古期)を開析する沖積扇状地(新期)の自然堤防に位置しており、標高4m前後を測る沖積低地から三角州(低湿地)へと漸次的に移行する地形的特性に立地している。

当該地には鎌倉初期に立荘したとされる吉原庄(『壬生家文書』)の歴史が伝えられている。同庄は高倉院法華堂に寄進後、室町期には細川氏の守護領国となり、長宗我部氏の抬頭に及びその支配領域となる。段丘上には中世屋敷群・寺堂等を示唆する小字や吉原城跡が所在し、周辺には「堀ノ内」「古市」等の中世(前期)に遡る遺称地が散見される。『長宗我部地檢帳』に記載されたホノギの多くが現地比定されるなど、当庄に由来する中世村落の景観的様相を地籍図等により傍証しながら復原し得る環境が遺されている。

対象地近傍に「大(田井)八幡宮」が鎮座しており、『地檢帳』には「宮床」として馬場を附帯した社殿が造営され、4町4反余の社領(神田)が記されている。社は周辺集落の産土神であり、城八幡宮等を合祀している。地内の社寺は宝永地震(1707)の津波被害で古記録を流失しており、縁起(創建年代)や権力構造等については不明であるが、関連する埋蔵文化財が遺存している可能性が予察される区域である。



第3図 東狭間遺跡包蔵地範囲及び調査対象地位置図 (S=1/5,000)



東狭間遺跡周辺の地理・歴史的環境

第Ⅱ章 香南市域の地理・歴史的環境

第1節 地理的環境

東狭間遺跡は高知県香南市吉川町吉原に所在し、県中央部に拡がる高知平野の東半に位置している。

平成18年(2006)3月に旧香美郡の香南5町村(赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村)が合併し、面積126.5km²、人口約3万3,000人(令和2年12月現在)の香南市が発足した。市域の西端には剣山山系白髪山(香美市物部町)に源を発して香南市吉川町吉原で土佐湾に注ぐ物部川(流路延長71km)が縦貫し、同市香我美町別役峠を源流とする香宗川(流路延長20.2km)と共に流域の基盤を成している。これらの河川により形成された扇状地や沖積平野(河成堆積低地)には沃野が拡がり、最下流域の低湿な海岸平野は圃場整備が成され、米作や施設園芸農業などの第一次産業が盛行している。平野部には標高100m未満の小起伏丘陵(残丘)が点在し、山裾及び現・旧河道周辺に断続的に分布する自然堤防沿いに集落が発展している。

調査対象地の所在する香南市吉川町は物部川河口東岸に位置し、明治期の市町村合併で近世の吉原村と吉川村の頭尾を採って村名とした面積4.25km²の旧吉川村域を承継している。東は迂曲する香宗川を中分して同市赤岡町と町域を区画し、西は物部川を隔てた西岸に字「西大境」などの飛地を有して南国市との境界を成す。南に土佐湾を臨んでドロマ(シラス)漁や當ては養鰻業などが活況を呈し、北は香宗川支流島川や古川山(九六山・下田山・大石山・八幡山・篠部山の総称)、瀬戸川の小流を境に同市野市町と接している。近世には高知城下から下田(南国市)を経て東進する旧下街道(県道春野赤岡線)が村域を横断し、隣接する町には県部高知市と県東部を結ぶ主要国道55号線が東西に開通するなど、県中心部からの交通・輸送の便も申し分無く、高知龍馬空港(南国市)と目黒の間において他地域への利便性にも優れている。

香南市は野市町域を中心に開発・都市化が進行し、高規格道路である南国・安芸道路の建設や、平成14年(2002)には第3セクターによる鉄道「ごめんなはり線」が開通するなど、社会基盤の整備も進みつつある。一方、市内では山北をはじめとする「棒踊り」や「手結盆踊り」(県保護無形民俗文化財)などの伝統的な祭礼が継承されている地区も多く、民俗文化を次世代に伝える地域社会が残っている。

南部は太平洋(土佐湾)に面する海岸地帯(急深海浜)である。外洋性の高い波浪や沿岸流が海岸に作用して形成された複数列の浜堤(砂堆)が弓状に伸びて旧汀線を示し、海成複式堆積低地による堤間湿地の発達により、背後に潟湖性の低地が認められる。この浜堤上に連櫓する赤岡と岸本は在郷町として商圏を確立し、旧観の町並みに昔日の盛業を追懐する。また一帯の海岸は當て製塩業が盛行し、赤岡から物部川上流の大筋(香美市物部町)へ続く峠越えの往還路が、現在「塩の道」として整備されている。

東部には夜須川が南流し、河口付近に位置する手結内港は往時の景観を今に伝える藩政期の掘り込み港である。手結港の東には地質区分による四万十帯の露頭(横浪―手結住古メランジュ:県指定天然記念物)が観察できる古海岸(香南市夜須町一安芸郡芸西村)が所在する。海洋底移動により遠隔地の枕状溶岩や層状チャート・多色凝灰岩などが混在する岩石群が分布し、また同帯の走行に対して上・下盤の剪断方向が異なり、その規模から地殻変動によるものと考えられるなど、プレート理論を実証している。

地理的にみた当遺跡の立地は、浜堤や砂州を形成する現海岸線から約0.9kmの扇状地性低地に所在し、周辺は平均傾斜区分3'未満の暖低地帯が拡がっている。沖積低地から三角州へと移行する当該地は標高4m未満の低平な地形であり、象徴的景観を帯びた山容を遠景に眺望できる自然環境に在る。

秋葉山(標高490m)を主峰とする秋葉山山系は香我美町の北に位置する間楽山(標高368m)より南西方向

に標高を減じ、三宝山(金剛山 標高265m)の南西方向で野市台地(扇状地性中位段丘)に埋没する。その秋葉山山系の北方に平行して烏ヶ森の山列があり、同じく南西に向かって標高を減じて物部川にその山裾を侵蝕されている。三宝山の尾根上には仏像構造線が北東—南西の方向性を示して走向しており、尾根中腹に連なる急斜面(断崖:傾斜角30~40°)は、同地質構造線の衝上断層によるものである。

西南日本外帯に属する高知県地域の基盤は、四国脊梁山地をほぼ東西方向に走る御荷鉾構造線及び仏像構造線によって、北から三波川変成帯(御荷鉾緑色岩帯)・秩父累帯及び四万十帯に分類され、大観的には南ほど新しい地層が層状に累重して分布する覆瓦状構造を成している。当該地周辺は地帯構造的には四万十帯北帯に属しており、安芸構造線によって南帯と分けられる。北帯北部は断層帯が狭間隔で併走する白亜紀前期の地層(付加体)から成り、当地域は新莊川層群に属する須崎層に該当する。主に暗灰色の泥岩から形成され、珪質岩を含む海底堆積物(混濁流)によるタービダイト層(砂泥互層)を主体に構成されており、半山層(葉山層)の分布地域で南側に整合・漸移関係で上位に重なる地層である。当遺跡の北約4.0kmにある山嶺が三宝山で、中生代の地質構造帯「三宝山帯」の名前の由来となった峰であり、尾根上より北部が秩父帯南帯(三宝山帯)である。構造線の北側に沿って石灰岩(トリアス期)が散在しており、北東約8.3kmには我が国有数の石灰鍾乳洞穴として奇勝に富む龍河洞(香美市土佐山田町)が存在する。

裾野に広がる野市台地は物部川下流域に発達した開析扇状地(古開析扇状地)であり、海拔約40~10mと北から南へ緩傾斜し、香長平野(香美・長岡郡南部の河成堆積低地)の東半を形成している。この台地は、秋葉山山系西端の三宝山山麓部で遮られた物部川旧河道が東南東へ流下したためできた扇状地性堆積物(砂礫層)によって形成されたものである。また物部川に面した台地の西端部は5mほどの段丘崖と成り、下段に沖積扇状地(新期扇状地)が広がっている。野市台地は長岡台地(南国市・香美市土佐山田町)を含む段丘中位面と地形的に連続性がみられることから、ほぼ同時期に離水したと推測されている。降灰時期が約7,300年前とされるK-Ah火山灰(鬼界アカホヤ)の堆積(濃集層帯)が段丘上に認められ、AT(始良-Tn)火山灰(約25,000年前)の降灰層帯が不明瞭なことから、氷河性海面移動に基づく世界規模の海水準変動(海退)がみられた最終氷期(ヴルム氷期)極相期(約20,000年前)以前に形成されたと考えられている¹¹⁾。

野市台地(扇状部)は粗粒砂岩礫層を呈して透水性が高く、伏流による低地下水位の乏水地であり、原野の広がる非条里地域と考えられていた。物部川は下刻作用により河床が低下し、台地への灌漑は容易ではなかったが、近世初期以降の大規模な水利事業の展開により、今日にその遺産を見ることが出来る。

第2節 歴史的環境

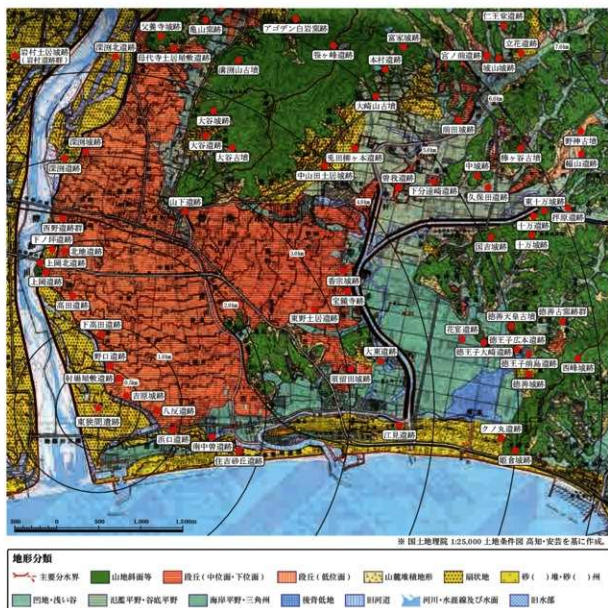
東伏間遺跡の所在する香南市は、北部に開葉山山系の山塊を背負い南に平野部と土佐湾が開けている。中央附近を香宗川(二級河川)が流下して恵みを齎し、西は一級水系物部川が市域を分轄している。

物部川は野市町をはじめ高知平野東部(香長平野)に灌漑の余蘊を与えているが、現在の流路を形成したのは近世初頭に堤防が築堤されて以降のことであり、それ以前に西偏していた複数の旧河道や凹地列の派流が緩勾配の扇状地上に微地形として遺されている。下流域は旧河道地形に沿って断続的に自然堤防が形成され、遺跡の分布を把握する。その中でも当遺跡から約3.0km西に位置する田村遺跡群¹²⁾(南国市)は地勢的な優位性もあり、弥生時代における南四国最大級の拠点(母村)集落として知られている。

香南市域における縄文時代以前の遺跡は、有舌尖頭器(草創期)が採集された手結遺跡、後期(宿毛・片柏・松ノ木式)の土器片を出土した押原遺跡¹³⁾、晩期の貯蔵穴が確認された十万遺跡¹⁴⁾、晩期末の突帯土器が

採集された深淵遺跡⁵⁵の例が知られていたが、何れも断片的な出土状況でしかなかった。これまでは縄文・旧石器の空白地帯と謂われるほど縄文時代以前の遺跡の例は僅少であったが、平成23年(2011)に確認された庭ヶ淵遺跡⁵⁶において、香長平野では初の事例となる縄文晩期の集落遺跡が発見された。近來の調査により旧石器時代ナイフ形石器文化期から細石器文化期・縄文早期にかけての岩陰遺跡である奥谷南遺跡⁵⁷(南国市)、小型のナイフ形石器が確認された新改西谷遺跡⁵⁸(香美市土佐山田町)、西日本有数の縄文早期の定住跡を検出した刈我野遺跡⁵⁹(同香北町)、無文厚手土器・押型文土器(縄文早期)を出土した開キ丸遺跡⁶⁰(同土佐山田町)など、香長平野周辺に縄文後期を遡る遺跡の存在が明らかになりつつあり、香南市域から該期の遺跡が更に確認される可能性は高いと期待されている。

平成20年(2008)、高規格道路建設に伴う発掘調査で、物部川以東において確認例の無かった弥生前期前半の遺構(土坑跡)が、香宗川下流域の海岸平野微高地(丘陵部)に立地する徳王子大崎遺跡⁶¹で発見された。出土した土器は前期前半の西見当Ⅰ式(畿内Ⅰ様式古段階併行)であり、前期の早い段階でも物部川左



第4図 東狭間遺跡周辺の主な遺跡及び地形分類図(S=1/45,000)

岸に集落が展開していたことを示す遺跡として注目されている。庭ヶ淵遺跡でも弥生前期前葉から中葉の土器片(遠賀川式)の出土がみられ、移行期の遺跡として田村遺跡群の影響(伝播)が考察されている¹²⁷⁾。

弥生前期末になると上岡遺跡¹²⁸⁾・北地遺跡¹²⁹⁾・下分遠崎遺跡¹³⁰⁾・扨原遺跡¹³¹⁾・十万遺跡など集落数が急増してくる。物部川右岸に所在する田村遺跡群からの分村による集落数の増加だと考えられている。下分遠崎遺跡ではカツオの脊椎骨(腹椎骨)をはじめツキノワグマ・シカ・イノシシ・イヌなど様々な魚骨・獣骨類や、農工具を含む多様な木製品、また遺構出土の炭化米から熱帯ジャポニカのDNAが検出されるなど、自然科学分析により多くの知見が齎された。

下分遠崎遺跡や北地遺跡など幾つかの遺跡では、集落が弥生前期末から中期前葉・中葉にかけて継続して営まれるが、前期末のみの一時的な遺跡もみられる。香南市域において中期中葉から後葉(Ⅲ様式中段階～Ⅳ様式古段階)にかけての遺跡は殆ど確認されていない。

中期末から後期の初めにかけては、当遺跡の北東約5.3kmの地点に高地(丘陵)性集落的な要素を持つ本村遺跡¹³²⁾が所在している。この遺跡からは竪穴住居(建物)跡や段状遺構など当該期の高地性集落の典型的な遺構群と共にガラス製の勾玉も出土している。同遺跡は標高約30m前後を測る低丘陵斜面部に立地しており、土器は凹縁土器が主体である。遺跡の北東に連なる山稜上に所在する笹ヶ峰遺跡や、日本屈指の鍾乳洞である龍洞洞内で発見された龍洞洞遺跡(香美市土佐山田町)などがほぼ同時期に営為されるなど周辺一帯の土器の分布状況から、当該期には標高の高い地点を利用していただと考えられており、成立の背景として中部瀬戸内地方の影響を受けた可能性が指摘されている。

物部川と香宗川に挟まれた野市町域は、青銅器についても注目される地域である。当遺跡の北方約4.3kmの地点には絵画銅剣(国指定重要文化財)で知られる兎田八幡宮が鎮座し、物部川段丘上段には銅鏡(破鏡)の出土した北地遺跡と、銅製の再加工品が出土した西野ルノ丸南A遺跡¹³³⁾(西野遺跡群)が所在している。この段丘崖の下段面からも後期前半の竪穴住居跡(下ノ坪遺跡¹³⁴⁾・上岡遺跡)が確認されており、下ノ坪遺跡では高知平野最大級の竪穴住居跡1棟から多数のガラス小玉が出土している。段丘崖の上下段に分布するこれらの遺跡は、弥生後期前半に一連の集落を形成していたものと考えられている。

弥生後期後半から古墳時代初期にかけては、深淵遺跡・西野ルノ丸遺跡・東野土居遺跡¹³⁵⁾・幅山遺跡¹³⁶⁾・射場屋敷遺跡¹³⁷⁾・東欽間遺跡¹³⁸⁾など集落数も更に増加する。深淵遺跡・東野土居遺跡・幅山遺跡では竪穴住居跡と土器棺墓が確認され、兎田柳ヶ本遺跡¹³⁹⁾では「方形周溝墓」の可能性を残す遺構を検出しているなど、当地域において当該期の墓制や祭祀空間などの様相を把握する資料の蓄積は漸増しており、今後の調査結果に期待したい。これらの集落は物部・香宗両河川流域に展開しており、他地域からの搬入土器(庄内式土器・東阿波型土器)の存在からも、河川が当時の交通に果たしていた役割を推察することができる。

古墳時代前期の古式土師器Ⅱ期以降、高知平野では遺跡の確認例がほぼ無くなるなど遺跡数急減の可能性が指摘されている。その中で扨原遺跡では古式土師器Ⅲ期(4世紀)の竪穴住居跡を2棟検出しており、県内でも数少ない調査事例として注目されるが、県央での前期古墳は殆ど確認できていない。丘陵先端部に立地していた徳善天皇(花散里)古墳は5世紀代の古墳とされているが、それ以外は6世紀後半以降に築造された後期古墳が大半であり、存在が伝えられるが形態を存していないものも少なくない。大谷古墳¹⁴⁰⁾・大崎山古墳¹⁴¹⁾など発掘調査の実施された古墳もあるが、詳細な時期特定のできないものも多く、古墳時代については4～5世紀前後の様相は殆ど解明されていないのが実情である。6世紀後半～7世紀初めにかけての古墳時代後期の竪穴住居跡が、深淵遺跡・下ノ坪遺跡・西野ルノ丸遺跡・東野土居遺跡などで確認されているが、古墳被葬者の帰属集落との関連性については検討を要すると思われる。

古代(律令期)の遺跡としては、下ノ坪遺跡が白眉である。8世紀前半～9世紀中葉頃に盛行し、該期の出土遺物は硯や丸柄、全国的にも例の少ない四仙騎獣八稜鏡などが出土している。コの字状に配置された南四国最大級の規模を持つ総柱建物跡を検出しており、物部川に面した立地から奈良時代及び平安時代にかけて川津として機能していた遺跡だと考えられている。深洲遺跡も同様に官衙としての役割を果たしていたと考えられており、二彩陶器・緑釉陶器・黒書土器・陶硯・蛇尾などが出土している。対岸に位置する岩村遺跡群²⁸⁶(南国市)からも畿内・近江・東海産の緑釉陶器が出土しており、9世紀後半～10世紀中葉頃に盛期を迎えている。中世には城館(岩村土居城跡)の出現がみられ、長期に亘る拠点として存続した要因として、物部川(旧河道)に臨む川津としての水運掌握が背景に有ると考えられる。

香宗川流域にも曾我遺跡²⁸⁷や十萬遺跡など官衙関連と考えられる遺跡が点在している。また条里地割(「香長条里」)の可能性を持つホノギ(一ノ坪・四ノ坪・中ノ坪・大坪など)が随所にみられる。

古代の窯跡として野市町佐古地区周辺に亀山窯跡・アゴデン/白岩窯跡、香我美町徳王に徳善古窯跡群(7世紀後半～8世紀初頭頃)が確認されている。亀山窯跡で生産された瓦は平安京大極殿や藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていた記録が遺っており、古代における土佐と中央との関係を窺知する上で重要な遺跡と考えられている。物部川に面して深洲北遺跡²⁸⁸が9世紀末～12世紀代にかけて成立していたとみられ、周辺には亀山窯跡関連集落の可能性を有する母代寺土居屋敷遺跡²⁸⁹が所在している。

古代末から中世初頭にかけて各地で荘園の成立がみられ、香美郡内に立荘された大忍庄(荘)は、土佐湾に面した岸本(クノ丸遺跡²⁹⁰)から山間部の奥物部に跨る広大な荘域を有していた。「和(倭)名類聚抄」(10世紀前半頃成立)にみえる大忍郷が荘園化したものと考えられ、鎌倉時代の後期には鎌倉の律宗寺院極楽寺が、次いで南北朝には紀州の熊野新宮が荘領主となり、15世紀には室町幕府管領で土佐守護でもあった細川氏の所領となるなど、権門による支配の動向が当該地域に影響を与えてきた。

中世には香美郡南部において香宗我部氏の抬頭をみる。香宗我部氏は鎌倉時代初頭に西遷した中原秋通が香美郡宗我部・深洲両郷の地頭職に補任したのに始まるとされている。地名を姓氏として宗我部氏を名乗ったが、長岡郡の宗我部(秦)氏と截然するため、郡名を冠して香宗我部氏を稱したとする。香宗城を居館とし、室町時代(戦国期)には土佐守護細川氏の権力を背景に大忍庄へ進出するが、安芸氏との抗争で衰退する。長宗我部国親の三男親泰を後嗣として迎え局面を打開し、以後長宗我部氏の勢力拡大に貢献する。慶長5年(1600)主家の改易に伴い、地域権力としての香宗我部氏は終焉するが、本流は中山田氏として土佐に家名を遺している。現在香宗城跡は市史跡に指定され、八幡社と土塁の一部を存しており、香宗我部氏菩提寺の宝鏡寺跡(県指定史跡)には観音堂や五輪塔などが遺している。周辺の遺跡(東野土居遺跡)からは中世の土師質土器や瓦質土器の他に貿易陶磁器などの広域流通品の出土がみられ、字「野々土居」からは堀跡と考えられる2条の溝状遺構を検出するなど、同氏との関連が指摘されている。

また香宗川左岸の標高13m前後を測る丘陵縁辺部の微高地に立地している十萬遺跡でも、環濠屋敷跡と考えられる二重の溝跡を検出している。大忍庄内において名主層などの在地勢力が構造的変質を遂げる時期の遺構として注目されており、当該地域が緊張状況下にあった可能性を示唆している。

近世前期になると、物部川(上井・下井)からの分水(引水)により高燥な野市台地の開墾が進み、豊かな穀倉地帯へと景観を変えた。上岡北遺跡²⁹¹からは、物部川の治水を手がけた野中兼山(土佐山内家執政家老)による築堤と推測される17世紀頃の石積み遺構が確認されている。東狭間遺跡の所在する吉川町は臨海平野地帯に位置しており、地形的な観点から津波の常襲地帯としての側面も有している。宝永4年(1707)に発生した地震の被害として西徳善八幡宮や大八幡宮の古記物等が流失した記録(「亥の大変」)が

残り、住古神社には民話として伝承されている。段丘中位面に位置する野市は物部川西岸の後免(南国市)に対する東岸の開発拠点として西野(東町)周辺に街村集落が形成され、民家・商家が発展する。明治以降の近代化に伴う町村制度施行による合併を経て、香南地域の行政・経済・文化の中心地となり今日に至る。

【註】

- (1) 研川英征 「河岸段丘の形成と、地形学見地からみる物部川および高知平野」 『土佐山田史談』 2004年
- (2) 前田光雄・吉成承三 他 『田村遺跡群Ⅱ 第1～9分冊』 香高知県埋蔵文化財センター 2004・2006年
- (3) 出原恵三 『拝原遺跡』 香我美町教育委員会 1993年
- (4) 高橋啓明・出原恵三・古原達生 『十万遺跡発掘調査報告書』 香我美町教育委員会 1988年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・古原達生 『深淵遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (6) 宮地啓介 『庭ヶ淵遺跡』 香南市教育委員会 2012年
- (7) 松村信博・山本純代 『奥谷南遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 香高知県埋蔵文化財センター 1999・2000・2001年
- (8) 中山泰弘 『新改西谷遺跡・勝楽寺跡』 土佐山田町教育委員会 2002年
- (9) 松本安紀彦 『刈谷我野遺跡Ⅰ・Ⅱ』 香北町・香美市教育委員会 2005・2007年
- (10) 小林麻由・薬村哲夫 『開キ丸遺跡』 土佐山田町教育委員会 2002年
- (11) 下村 裕・島内洋二 他 『徳王子大崎遺跡』 香高知県埋蔵文化財センター 2009年
- (12) 出原恵三 『南国土佐から問う弥生時代像 田村遺跡』 新泉社 2009年
- (13) 更谷大介・溝淵真紀 『上岡遺跡』 野市町教育委員会 2005年
- (14) 松村信博・宮地啓介 『北地遺跡』 香南市教育委員会 2011年
- (15) 高橋啓明・出原恵三 他 『下分遠崎遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ』 香我美町・香南市教育委員会 1989・1993・2010年
- (16) 坂本志昭 『本村遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1993年
- (17) 更谷大介 『西野遺跡群ルノ丸地区南・ルノ丸地区南A』 『埋文こうち 第21号』 高知県教育委員会 2008年
- (18) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋 他 『下ノ坪遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 野市町教育委員会 1997・1998・2000年
- (19) 久家隆芳・筒井三菜・矢野雅子 他 『東野土居遺跡Ⅱ～Ⅳ』 香高知県埋蔵文化財センター 2015・2016・2018年
- (20) 岡本 修 『幅山遺跡』 香我美町教育委員会 1999年
- (21) 宮地啓介 『射場屋敷遺跡』 香南市教育委員会 2016年
- (22) 宮地啓介 『東狭間遺跡』 香南市教育委員会 2019年
- (23) 松村信博・宮地啓介 『兔田柳ヶ本遺跡』 香南市教育委員会 2010年
- (24) 山本哲也 『大谷古墳』 香高知県文化財団 1991年
- (25) 山本哲也 『大崎山古墳』 香南市教育委員会 2013年
- (26) 三谷民雄 『岩村遺跡群Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 南国市教育委員会 1997・1998・1999年
- (27) 高橋啓明・古原達生 『曾我遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (28) 吉成承三・佐竹 寛 『深淵北遺跡』 野市町教育委員会 1996年
- (29) 松村信博・宮地啓介 『母代寺土居屋敷遺跡』 香南市教育委員会 2010年
- (30) 松本安紀彦・外田龍也 他 『クノ丸遺跡』 香高知県埋蔵文化財センター 2010年
- (31) 更谷大介・溝淵真紀 『上岡北遺跡』 香南市教育委員会 2009年

【参考文献】

『高知県の地名 日本歴史地名体系 40』 山本大(監修) 平凡社 1983年

第Ⅲ章 調査の成果

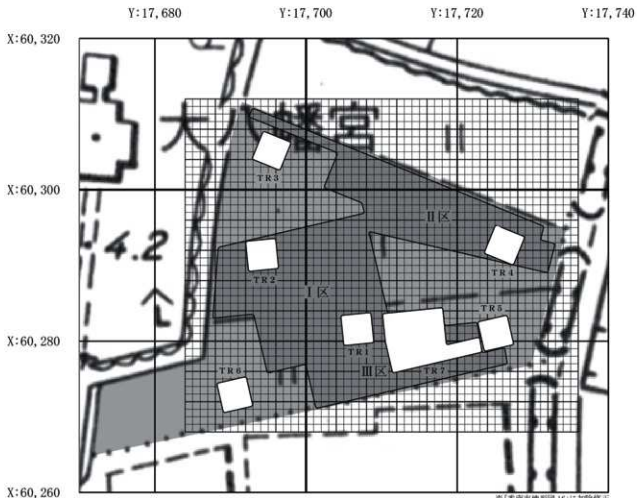
第1節 調査の方法

水田作地の経歴を有する調査対象地において、既存のコンクリート畦畔等の保全を期した調査地の選定を行い、トレンチ(試掘坑：TR1～7)を耕地内の任意の適地に設定して試掘調査を実施した。調査の手順としては、重機(バックホウ)を用いて表土(耕作土)を剝除した後、手作業で精査して土層の堆積状況や遺物・遺構の有無について確認した。

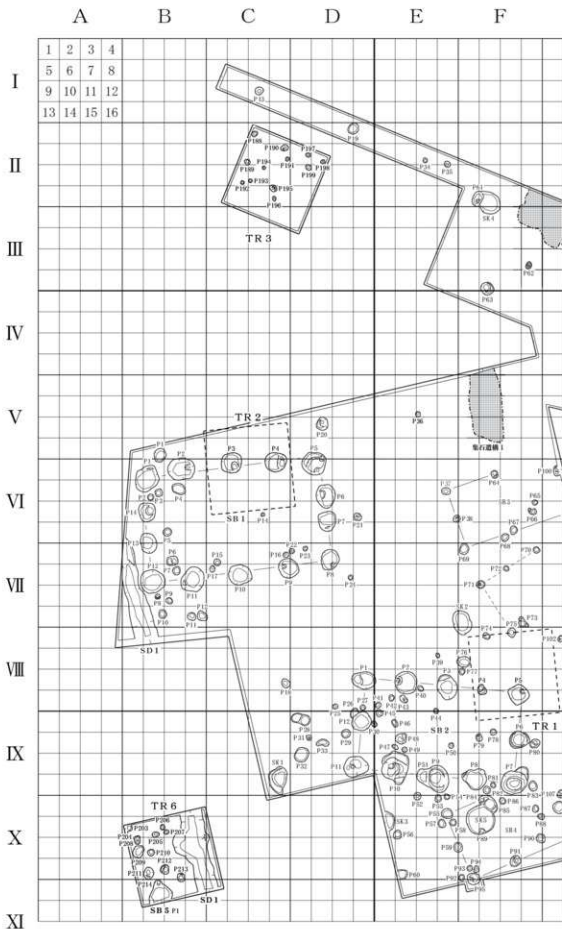
検出遺構の調査については、対象遺構の形状に即して任意の基線(実測基準点)を設定し、平面実測・レベル測量及び写真撮影等によって調査結果を記録した。水平・垂直位置の測量は、仮BM(標高4.0m±：誤差±10cm未満)を基準とした新設のBMと共用した既存の金属標を用いて任意の方向角を設定し、光波測距儀と水準儀を併用して視準・計測を行った。層相については目視による土色観察と層理面による分層を試みた。試掘坑位置については平板測量及び光波測距儀による測図を行い、図示している(第5図)。

本報告書では、世界測地系に則した公共座標に基づいて1mの方眼を展開し、グリッド番号を付して遺構配置図として使用している。調査時における任意の方向軸は、方眼北(国土座標第Ⅳ系)を基準としたものに修正して本書図版に掲載している。

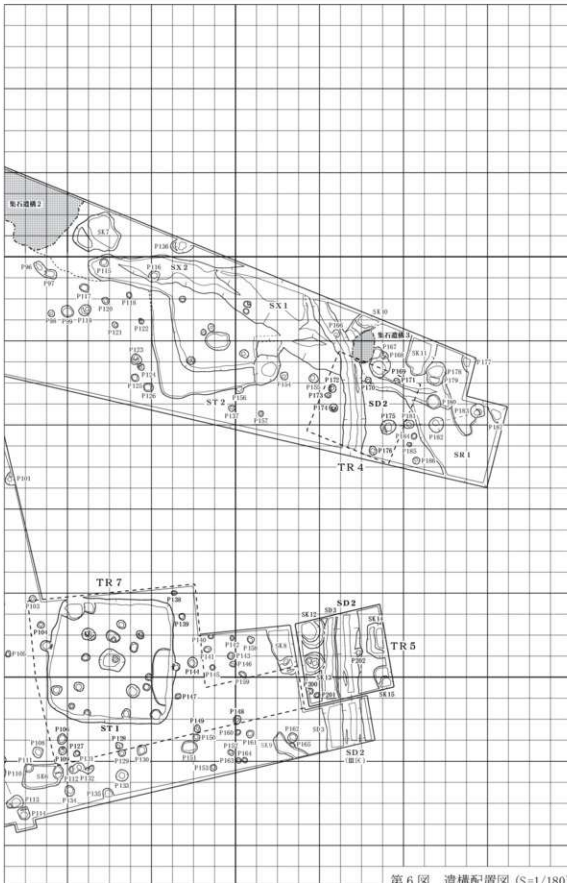
※「(香南市)地図システム」参照



第5図 調査区位置及び公共座標 (S=1/500)



G H I J K L M



第6図 遺構配置図 (S-1/180)

第2節 試掘坑検出の遺構と遺物

弥生後期後葉の遺構と遺物

本試掘調査で検出した弥生後期後葉を示唆する主な遺構は、竪穴住居状(建物)遺構1棟(軒)と土坑状遺構4基、ピット状遺構約30個を抽出できるが、可能性を有する遺構も含まれている。検出したピット状遺構の平面形状は概形で円形状を基本とし、平面観察の後に半截して柱痕跡等の有無を確認するなどの精査を行ったが、殆どの遺構は黒褐色又は褐色シルトを基調とする単層埋土であった。検出面からの遺存が浅い遺構は、地目由来する人為的要因により主体部を削失した残部の可能性も考えられる。

尚、本報告書で記載する「弥生土器」とは主に叩き技法による成形が顕在化してくる時期(ヒビノキ式)の土器型式を示し、本書においてヒビノキⅠ・Ⅱ式を古相、ヒビノキⅢ式(古式土師器Ⅰ期併行)を新相とする。当該期の土器様相の概要については後文に略載している。

古代～中世期の遺構と遺物

本試掘調査において古代～中世期に成立するとされる主な遺構は、集石遺構を含む性格不明遺構2基と溝状遺構3条及び推定を含む掘立柱建物跡3棟などを検出しているが、何れも当該期の出土遺物が僅少で帰属時期を示唆する断定資料に欠き、また属性や同時性にも留意する必要を有している。

当地には吉原庄の歴史が伝えられており、対象地周辺には中世に遡る小字(遺称地)が散見されるなど該期の埋蔵文化財が遺存している可能性が予期されたが、調査で得られた出土遺物の分類は型式に基づく相互の伴関係や層位による相対的な出土状況を把握できる資料に乏しく、質・量共に該期の土器研究に有用な資料を提供しているとは言えない状況であった。

尚、本報告書で記載する「土師質土器」とは轆轤(回転台)を用いて成形し、施釉せず低火度で酸化焰焼成された中世土器の一つと捉えているが、一瞥だけでは先行期と弁別が困難な遺物も含まれている。

調査所見

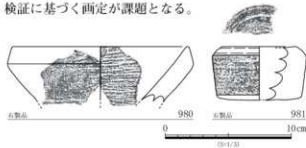
試掘調査の結果、地表下約20cm前後の扇状地性礫層から弥生後期後葉を示唆する住居状遺構や溝状遺構などを検出し、対象地に当該期の集落跡が遺存することが把握された。また同一遺構面から古代～中世にかけての遺構・遺物も散布しているなど計画区内全域に遺構の分布を確認しており、対象地周辺を含めた当地内において、弥生～中世に関連する集落が断続的に形成されていた可能性が推測される。

遺跡所在の把握により埋蔵文化財包蔵地として新設すると共に、工事により改変を受ける範囲について



調査対象地 概況 (2013.5.7)

の本発掘調査に向けての基礎資料を得ることができた。今後は微地形の起伏などに留意した旧地形の検証に基づく画定が課題となる。



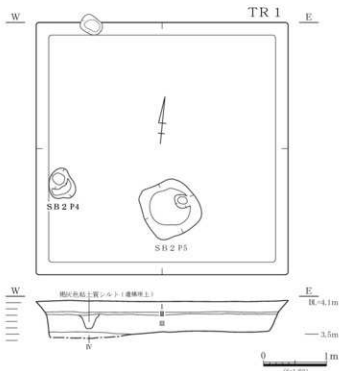
第7図 調査対象地 表採遺物実測図 (S=1/3)

TR 1

FⅤ・Ⅸ / GⅤグリッドに設定した4.0×4.0 mの試掘坑である。緊急避難塔本体工事部分(調査Ⅰ区)の南東に位置し、地表下約20cm前後から遺構の所在を把握した。検出した遺構は本発掘調査において確認した掘立柱建物跡(SB2)を構成する柱穴群であり、既刊の報告書に概要を記載している。図示したのはP5から出土した礫石器(188)である。

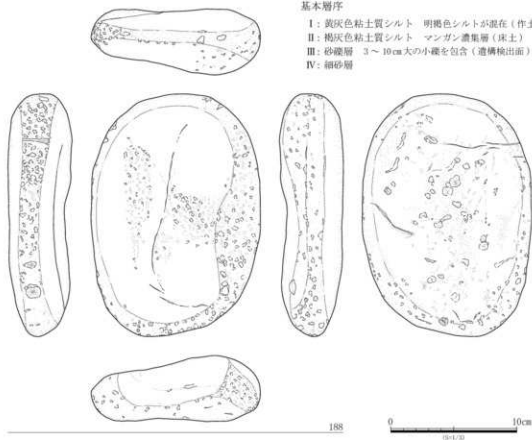
試掘坑北壁で堆積状況を観察し、図示している。表層(Ⅰ層)は還元状態の黄灰色～黄褐色粘土質シルトを主成分とする灌漑水田土壌である。下部には強還元状態の耕土層から溶出した鉄・マンガンの酸化・濃集して斑紋帯を集積することがあり、Ⅱ層においてマンガンの斑紋が部分的に確認できる。下層(Ⅲ層)から沖積扇状地(新期)を形成する主として粗細粒砂岩の円礫～亜円礫で構成される河成砂礫堆積層を検出し、扇状地性礫層の産状を把握した。

対象地における基本層序は以下の通りであり、爾後は概ねこれに準拠している。



基本層序

- I: 黄灰色粘土質シルト 明褐色シルトが混在(作土層)
- II: 褐色粘土質シルト マンガン濃集層(床土)
- III: 砂礫層 3～10cm 欠の小礫を包含(遺構検出面)
- IV: 細砂層



第8図 TR 1 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)

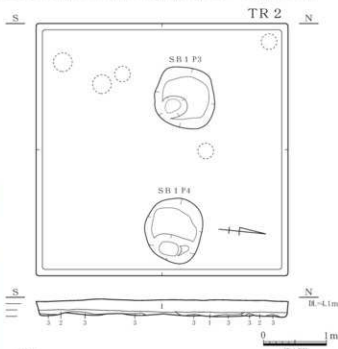
TR 2

C V・Ⅵグリッドに設置した4.0×4.0mの試掘坑である。緊急避難塔本体工事部分(調査Ⅰ区)の北西に位置し、地表下約20cm前後から遺構の所在を把握した。検出した遺構は本発掘調査において確認した掘立柱建物跡(SB1)を構成する柱穴群であり、既刊の報告書に概要を記載している。

試掘坑西壁で堆積状況を観察し、図示している。表層(Ⅰ層)は基本層序に準拠する灌漑水田土壌であり、黄灰色粘土質シルトを基調としている。1～3は調査地における局所的な層相と捉えている。



TR 2 遺構検出状況 (2017.3.22)



層序

1: 灰黄褐色粘土質シルト 2: 褐灰色シルト 3: 暗褐色砂質シルト

第9図 TR 2 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)

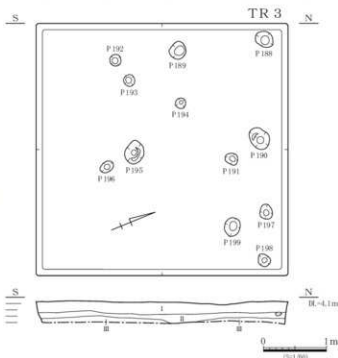
TR 3

CⅡ・Ⅲ / DⅡ・Ⅲグリッドに設定した4.0×4.0mの試掘坑である。調査対象地の北西に位置し、地表下約20cm前後から小穴群(第1表)の所在を把握したが、考古学的事象に由来する遺存とは積極的に評価し難い検出状況を呈している。

試掘坑西壁で堆積状況を観察し、図示している。層相は基本層序に準拠しているが、Ⅱ層からマンガン斑紋帯は確認されなかった。



TR 3 完掘状況 (2017.3.22)



第10図 TR 3 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)

TR 4

K・V・Wグリッドに設定した4.1×4.1mの試掘坑である。調査対象地の北東に位置しており、外溝等周辺付帯工事部分(調査Ⅱ区)の東側に該当する。地表下約20cm前後から溝状遺構(SD 2)やピット状遺構(P 169・175・他)などの所在を把握し、既刊の報告書に概要を記載している。

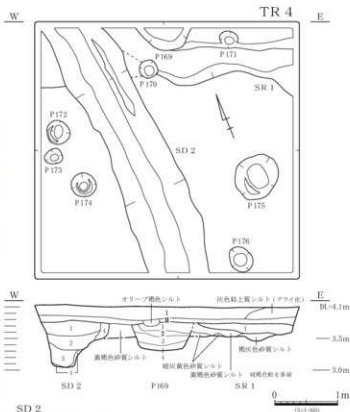
試掘坑北壁で堆積状況を観察し、図示している。Ⅱ層(基本層序)は灰黄色シルトを基調とし、マンガン斑紋帯は確認されなかった。



TR 4 遺構検出状態 (2017.3.23)



TR 4 試掘坑北壁 土層断面状況 (2017.3.29)



- SD 2
 1: 暗灰黄色シルト
 2: 灰黄褐色シルト
 暗褐色粘土質シルトを包含
 3: 灰褐色粘土質シルト
 4: 暗褐色粘土質シルト
- SR 1
 1: 暗褐色粘土質シルト
 2cm大の小礫を包含
- P 169
 1: 暗褐色粘土質シルト
 遺物・2cm大の小礫を包含
 2: 暗褐色粘土質シルト
 黄褐色シルトが混在
 3: 黒褐色粘土質シルト
 4: 暗オリーブ褐色粘土質シルト
 炭化物を包含

第11図 TR 4 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)

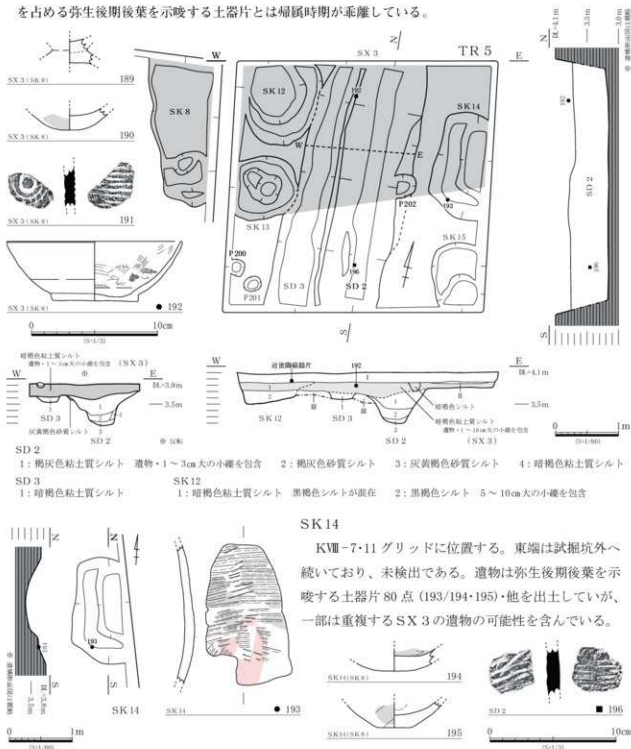
遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	備考
		長径	短径	深さ						
P 188	槽円形状	31	24	17	3.701	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 3	—	
P 189	円形状	27	25	17	3.683	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 6・7	—	
P 190	壺円形状	36	29	28	3.725	褐灰色粘土質シルト	Pit状遺構	C II - 8	—	
P 191	壺円形状	20	18	13	3.706	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 8	—	
P 192	円形状	19	18	10	3.711	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 10	—	
P 193	円形状	18	18	13	3.699	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 11	—	
P 194	円形状	17	17	8	3.724	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 11	—	
P 195	壺円形状	35	29	25	3.710	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 16	—	
P 196	槽円形状	23	16	9	3.736	褐灰色粘土質シルト	—	C II - 16	—	
P 197	壺円形状	23	20	15	3.751	褐灰色粘土質シルト	—	D II - 5	—	
P 198	壺円形状	21	18	8	3.711	褐灰色粘土質シルト	—	D II - 6	—	
P 199	壺円形状	30	25	20	3.719	褐灰色粘土質シルト	—	D II - 9	弥生土器(摩耗) 1点	

第1表 TR 3 ビット状遺構 計測表

TR 5

JⅧ・Ⅸ / KⅧ・Ⅸグリッドに設定した4.1×4.0mの試掘坑である。調査対象地の南東に位置し、地表下約20cm前後から溝状遺構(SD 2・3)や土坑状遺構などの所在を把握した。

試掘坑北壁で堆積状況を観察し、図示している。表層(I層)下位から暗褐色粘土質シルトを基調とする遺物包含層の埋積を確認している。本発掘調査で検出したSK 8と関連する埋土の可能性が考えられるが、便宜上SX 3として報告している。遺物は摩耗した土師質土器の塊(192)を出土しているが、多数を占める弥生後期後葉を示唆する土器片とは帰属時期が乖離している。



第 12 図 TR 5 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)

SD 2

KⅧ・Ⅸグリッドに位置する。南端は本発掘調査時における調査Ⅲ区に所在する検出遺構(第6図)と接続し、北端は調査Ⅱ区に所在する溝状遺構(SD 2)に続く可能性が考えられる。検出高は3.77mを測り、西側でSD 3と先後関係を有している。現状での検出規模は約3.9×1.0m前後を測り、検出状態での長軸方向はN-3°-Wを指向している。底面高は南・北端共に3.17m前後を測る。断面形態は錐鉢形状の掘方を呈しつつ下層において箱形状を形成し、深さは60cm前後を遺存している。埋土は褐灰色粘土質シルト～灰黄褐色砂質シルトに分層される。

遺物は須恵器片3点(196)と土師質土器片約20点の他に、周辺遺構に由来すると考えられる弥生土器片約570点余を出土している。多くは細片であり、摩耗がみられる。

SD 3

KⅧ・Ⅸグリッドに位置し、南端は本発掘調査時における調査Ⅲ区の検出遺構(第6図)と接続する。検出高は3.69mを測り、東側でSD 2と先後関係を有している。現状での検出規模は約3.9×0.4～0.7m前後を測り、検出状態での長軸方向はN-1°-Wを指向している。断面形態は箱形状を呈し、深さ14cm前後を遺存するが、上端は遺構検出時に若干削失した可能性を残している。埋土は暗褐色粘土質シルトを基調とする。

遺物の出土は確認できなかった。

SX 3(SK 8)

JⅧ・KⅧグリッドに位置する。北及び東端は試掘坑外へ続いており、未検出である。西端は本発掘調査時における調査Ⅲ区に所在するSK 8に接続すると考えられ、同一遺構の可能性を含んでいる。検出高は3.80～3.85mを測り、SD 2・3の上位に被覆し、SK 14と重複関係を有している。またSK 12・13は検出状況などから同一遺構の可能性が考えられる。埋土は暗褐色粘土質シルトを基調とするが、検出規模を捉え難い平面形状を呈しており、当初遺構としての把握は困難であった。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片約230点(SK 12・13出土遺物を含む)を主体とするが、検出状況や僅少ながら須恵器片1点(191)及び土師質土器片40点(192)を出土しているなど遺物構成的に中世前期を主要な帰属時期とする遺構の可能性を有している。

遺構番号	平面形状 (概形)	規模(m/cm)		検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版 番号	
		長軸	短軸							深さ
SK 12	楕円形状	(1.27)	(1.14)	33	3.827	黒褐色シルト	SD 3/(SK 8)	JⅧ-8・12 他	弥生土器(摩耗) 64点	
SK 13	円形状	(1.00)	0.92	35	3.810	黒褐色シルト	SD 3/(SK 8)	JⅧ-12-16 他	弥生土器(摩耗) 33点	
SK 14	長方形	1.70	(0.83)	21	3.723	黒褐色シルト	(SK 8)	KⅧ-7・11 他	弥生土器(摩耗) 80点 土師質土器(摩耗) 7点	193 194 195
SK 15	長方形	(1.01)	(0.70)	11	3.762	灰黄褐色シルト	—	KⅧ-15-16 他	—	
P 200	円形状	29	27	7	3.746	灰黄褐色シルト	—	JⅨ-4	弥生土器(摩耗) 8点 土師質土器(摩耗) 2点	
P 201	楕円形状	28	23	7	3.736	灰黄褐色シルト	—	JⅨ-4	弥生土器(摩耗) 14点	
P 202	楕円形状	36	(33)	23	3.775	黒褐色シルト	SD 3/(SK 8)	KⅧ-10	弥生土器(摩耗) 13点	

第2表 TR 5 土坑・ピット状遺構 計測表

TR 6

B・XⅠグリッドに設定した4.0×4.0mの試掘坑である。調査対象地の南西に位置し、地表下約20cm前後から溝状遺構(SD 1)やピット状遺構などの存在を把握した。

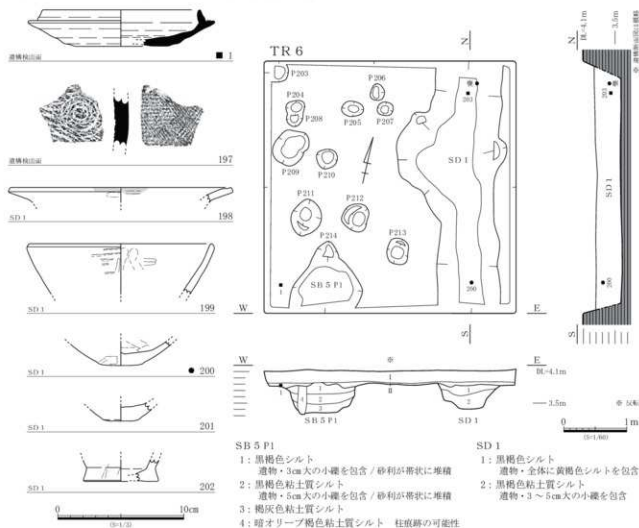
試掘坑南壁で堆積状況を観察し、図示している。層相は基本層序に準拠しているが、Ⅱ層は黄褐色シルトを基調とし、マンガン斑紋帯を確認できた。

遺物は遺構検出面から弥生土器片24点と須恵器片2点(1・197)を出土している。197は全くといってよいほど摩耗しておらず、既刊の報告書に掲載されている112と個体的にも相似している。

SB 5 P 1

BⅡ-2・3グリッドに位置する。南端は調査区外へ続いており、未検出である。検出高は3.79mを測り、P 214と重複関係を有している。平面形状は歪な矩形形状を呈しており、現状での検出規模は長軸1.11m、短軸0.90mを測る。断面形態は箱型状を呈し、深さは43cm前後を遺存している。柱掘方埋土は黒褐色粘土質シルト～褐色粘土質シルトを基調とし、柱痕跡を観察できた。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片約110点を主体としているが、本発掘調査で検出した掘立柱建物跡群(SB 1・2)の帰属時期に当該する遺構の可能性を有している。



第13図 TR 6 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)

SD 1

B X・X / C X・Xグリッドに位置する。両端は試掘坑外に延伸して未検出であるが、北端は本発掘調査時における調査1区に所在する検出遺構(SD 1)に続く可能性が考えられる。検出高は3.80mを測り、土坑状遺構と重複関係を有している。現状での検出規模は約4.0×1.0m前後を測り、検出状態での長軸方向はN-13°-Wを指向している。底面高は南・北端共に3.41m前後を測る。断面形態は逆梯形状を呈し、深さは39cm前後を遺存している。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

遺物は須恵器片1点(203)と土師質土器片36点(202)の他に、周辺遺構に由来すると考えられる弥生土器片約280点(198~201)を出土している。多くは細片であり摩耗がみられるが、203は全くといってよいほど摩耗しておらず、既刊の報告書掲載の153と個体的にも相似している。



第14図 SD 1 出土遺物実測図 (S=1/3)

P 211

B X-14グリッドに位置する。検出高は3.79mを測る。平面形状は垂円形状を呈し、長径59cm、短径48cm、深さ37cmを遺存している。断面形態は立柱を意図した形状を成しているが、相関する可能性を有するピット状遺構の抽出は能わなかった。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片46点(204-205)を出土している。



第15図 P 211 遺構平面図・断面図 (S=1/40) 出土遺物実測図 (S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版 番号
		長径	短径	深さ						
P 203	垂円形状	(39)	(33)	13	3.821	黒褐色砂質シルト	—	B X-5	—	
P 204	楕円形状	30	24	8	3.799	灰黄褐色シルト	P 208	B X-5・9	—	
P 205	楕円形状	35	24	15	3.801	黒褐色粘土質シルト	—	B X-6	弥生土器(摩耗) 7点	
P 206	垂円形状	26	22	6	3.817	灰黄褐色シルト	—	B X-6	—	
P 207	垂円形状	25	21	11	3.811	黒褐色粘土質シルト	—	B X-7	—	
P 208	垂円形状	26	(18)	7	3.791	灰黄褐色シルト	P 204	B X-9	—	
P 209	楕円形状	60	47	32	3.797	黒褐色粘土質シルト	Pit状遺構	B X-9	弥生土器(摩耗) 40点	
P 210	円形状	34	32	11	3.790	褐灰色シルト	—	B X-10	—	
P 211	垂円形状	59	48	37	3.793	黒褐色粘土質シルト	—	B X-14	弥生土器(摩耗) 46点	204 205
P 212	円形状	43	41	18	3.787	黒褐色粘土質シルト	—	B X-14・15	—	
P 213	垂円形状	41	35	15	3.796	黒褐色粘土質シルト	—	B X-15 BX-3	—	
P 214	楕円形状	32	(25)	13	3.797	黒褐色粘土質シルト	SB5 P1	BX-2	弥生土器(摩耗) 1点	

第3表 TR 6 ピット状遺構 計測表

TR 7

GⅩ・HⅩ・IⅩ・JⅩ・他グリッドに位置する試掘坑である。TR 4・5及びTR 6で検出した溝状遺構の対象地内における条数を確認するため、TR 5の西側に当初12.0×2.0mの範囲で設定した。溝状遺構の遺存は確認できなかったが、地表下約20cm前後からピット状遺構などを確認し、既刊の報告書に概要を記載している。尚、本試掘坑において土坑状の掘方的一端を検出し、遺構の規模・性格等を確認するため調査範囲を拡張した結果、竪穴住居状遺構(ST 1)の所在を把握するなどの成果を得た。

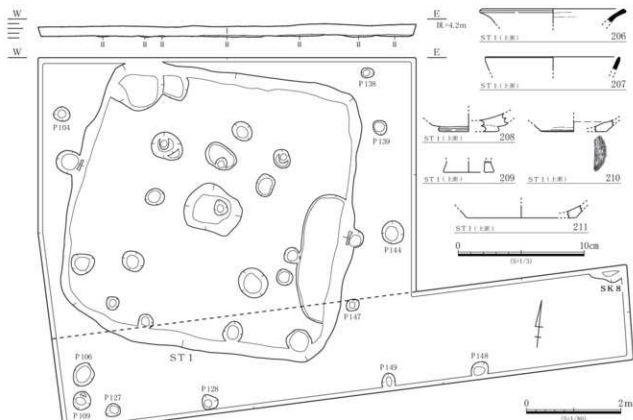
遺物は竪穴住居状遺構の上面を中心に須恵器片10点(206・207)、土師質土器片約210点(208～211)を出土している。土師質土器の底部には形骸化した円盤状高台を有したものや、回転糸切り痕が看取できる。

集石遺構 4

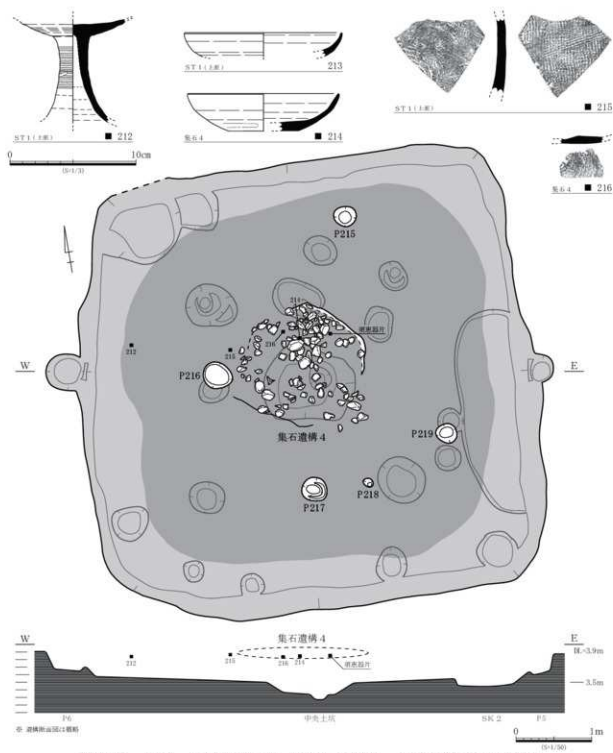
竪穴住居状遺構のほぼ中央附近(HⅣ-10・11・14・15グリッド)の上面(検出高3.75m前後)から碟群(集石遺構4)の遺存を把握した。検出規模は長軸約1.9～2.0m、短軸約1.6mの歪な円形状を呈しており、主軸方向を捉え難い平面形態を有している。遺構は粒径5～25cm大の円碟～垂角碟を含む約100個の粗細粒砂岩を主体として構成されており、集石を充填する埋土は暗褐色シルトを基調とする。

遺物は須恵器片4点(214～216)と土師質土器片10点を出土(沈着)している。またST 1上面から高環(212)を出土しているが、集石遺構との関連については不明である。

本遺構の帰属時期は出土遺物等から古代に形成された可能性を有しているが、性格・機能(意図)等については判然としていない。また相関関係は不明ながら周辺から竪穴住居状遺構に重複するピット状遺構(P215～219)を検出している。



第16図 TR 7 遺構平面図・土層断面図 (S=80) 出土遺物実測図 (S=1/3)



第17図 ST 1 上面遺構平面図・断面図 (S=1/50) 出土遺物実測図 (S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	備考
		長径	短径	深さ						
P215	楕円形状	19	17	12	3.771	黄灰色粘土質シルト	ST 1	HIV-7・8	—	
P216	楕円形状	25	22	11	3.751	黄灰色粘土質シルト	ST 1	HIV-9・10・13	—	
P217	円形状	21	20	21	3.749	灰黄色粘土質シルト	ST 1	HIX-2・3	—	
P218	槽円形状	9	6	31	3.756	黄灰色粘土質シルト	ST 1	HIX-3	—	
P219	楕円形状	17	17	15	3.708	灰黄色粘土質シルト	ST 1	HIX-4	—	

第4表 ST 1 上面ビット状遺構 計測表

竪穴住居状遺構(ST)

「竪穴住居」とは掘立柱等による上部構造を有する半地下式の家屋形態を意図した遺構を従来表現していたが、近年この名称に対して工房など住居施設以外の可能性を指摘して「竪穴建物」という用語が普及しつつある。本調査区における竪穴遺構の営為の証跡は不明であるが、構造的属性として主柱穴とみられるビット状遺構と中央土坑等を検出しており、形態的に本報告書では慣例を考慮して旧称を用いて報告している。



竪穴住居状遺構 作業状況 (2017.5.2)

調査の手順として土層(埋土)観察用に十字形畦(バンク)を設定し、サブトレンチを加工面まで掘削して埋積過程や床面状態の把握を行い、精査して覆土を除去した。遺構埋土中の遺物は状況に応じて水平・垂直位置を計測し、個体が確認できる遺物は写真撮影等で記録した。

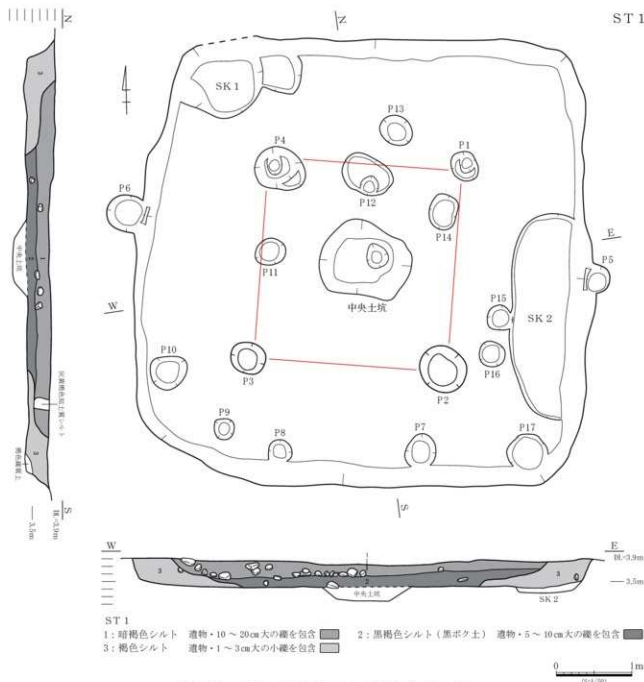
ST 1

調査区GⅧ・Ⅸ / HⅧ・Ⅸ / IⅧ・Ⅸグリッドに位置し、検出高は3.76mを測る。平面形態は(隅丸)方形状を呈しており、長辺(東西)約6.1m、短辺(南北)約5.9m前後を測る。上部は作土層により削平された可能性を有しており、本来の竪穴部の遺構深度は把握できないが現状で約30～40cm前後を遺存している。埋土は褐色～黒褐色シルトを基調とする。各層位は埋積に差異を看取でき、検出状況から1・2層を新層、3層を古層と位置付けている。竪穴部の掘削底面(加工面)からは扇状地性礫層を産出しており、最下層に貼床(機能面)を伴っていた可能性が考慮されるが、確認には至っていない。

遺構の主な平面構成要素としては、柱穴及び中央土坑等を検出している。主柱穴と考えられるのはP1～4である。径約35～65cm前後、深さは20～40cm前後で多くは立柱に適合した形態を有しており、柱間寸法は径間で約2.6～2.8mを測る。埋土は黒褐色シルトを基調とし、半截による断面調査では柱痕跡等は確認できなかった。4本主柱構造であり、南北軸方向はN-5.5°-Eを指向している。対置するP2・4の埋土中からは意図的な埋置の可能性が考えられる遺物を出土している。同遺構近傍から比較的大形の扁平な礫(S1-2)を検出しているが、有意の所産に因るかは判然としない。またST1の長辺両端中央附近に位置するP5-6の底面は内傾しており、不明瞭ながら竪穴建物に附帯する構造的属性として椀持柱的な役割を果たしていた柱穴跡の可能性を思量している。また南辺に遺存する小穴(P7-8)は、出入口を構成する支柱穴跡と推量しているが、何れも概断の域を出ない。床面中央附近から中央ビットと考えられる土坑状遺構を検出している。遺構からは被熱残滓等の検出は殆ど認められず「炉」(燃焼施設)を意図した可能性は低いと考えられ、その用途は不明であるが埋土中から砥石(950)を出土している。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片約19,520点を埋存しているが、埋土は遺構廃絶後堆積層(覆土)と考えられるため、累重する出土遺物の全てを積極的に存続期間と同一視的な時間軸として帰属させることは示せない。埋土は3層に分層され、1層(暗褐色シルト)からは同土器片約6,980点、礫石器14点を出土し、図化した遺物の割合は埋存遺物の41%を占める。2層(黒褐色シルト)からは同土器片約6,950点、礫石器11点を出土し、図化した遺物の割合は37%である。3層(褐色シルト)からは同土器片約4,680点、礫石器14点を出土し、図化した遺物の割合は22%であるが、各層位の出土遺物に時期差は看取

ST 1



第18図 ST 1 遺構平面図・土層断面図 (S=1/50)

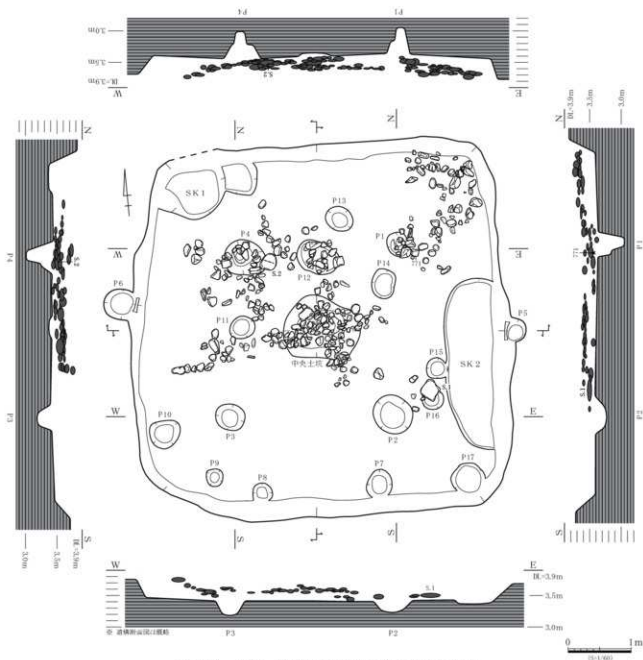
遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	出土遺物 (破片点数)	図版番号	備考
		長径	短径	深さ					
ST 1 P 1	亜円形状	40	33	43	3.369	黒褐色シルト	—	—	主柱穴
ST 1 P 2	亜円形状	65	58	19	3.414	褐色シルト	弥生土器 440点	961・962・963	主柱穴
ST 1 P 3	亜円形状	47	41	21	3.411	黒褐色シルト	礫石器(叩石) 1点	—	主柱穴
ST 1 P 4	亜円形状	68	59	43	3.435	黒褐色シルト	弥生土器 255点 礫石器 1点	964・965・966・967・968 969	主柱穴
ST 1 P 5	亜円形状	37	30	28	3.747	褐色シルト	—	—	(棟持柱状)
ST 1 P 6	円形状	50	48	25	3.802	褐色シルト	—	—	(棟持柱状)
ST 1 P 7	亜円形状	47	40	10	3.420	黒褐色シルト	弥生土器(摩耗) 9点	—	支柱(出入口)
ST 1 P 8	円形状	34	32	7	3.425	黒褐色シルト	—	—	支柱(出入口)

第5表 ST 1 主要ピット状遺構 計測表

できず、ほぼヒビノキⅢ式(古式土師器Ⅰ期併行)の範疇に纏まっている。遺物は半存個体を主体として多くは床面から遊離するなど二次廃物(廃棄資料)の可能性を含んでいるが、一括性を把握できる遺棄資料も覆土中から出土しており、有意的な埋置が行われた可能性を示唆している。

埋土中から粒径5～30cm大の粗細粒砂岩を主体とする円礫～垂円礫約300個を検出した。竪穴遺構の北半を中心に偏在している状況が看取できる。礫群はほぼ1層乃至2層にかけて定高性を有して散在しており、遺構廃絶に伴って意図的に投棄された可能性が推察される。また多くの土器片(個体)の混在(埋置)がみられなど、埋積過程での儀礼的行為の一端とも見て取れる。

本書図版において遺物等の出土位置を示した垂直分布図は、空間的上下関係を重複的に模式図化したものであり、主に遺構断面図などに掲載している。また模式図化に対応した礫等は便宜上実物とは異なる色調で着色し、垂直縮尺は全厚2/3程度に縮尺して表示している。

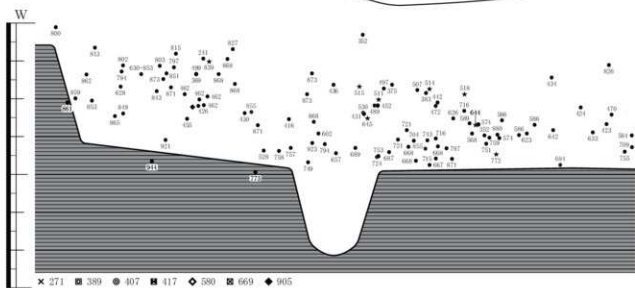
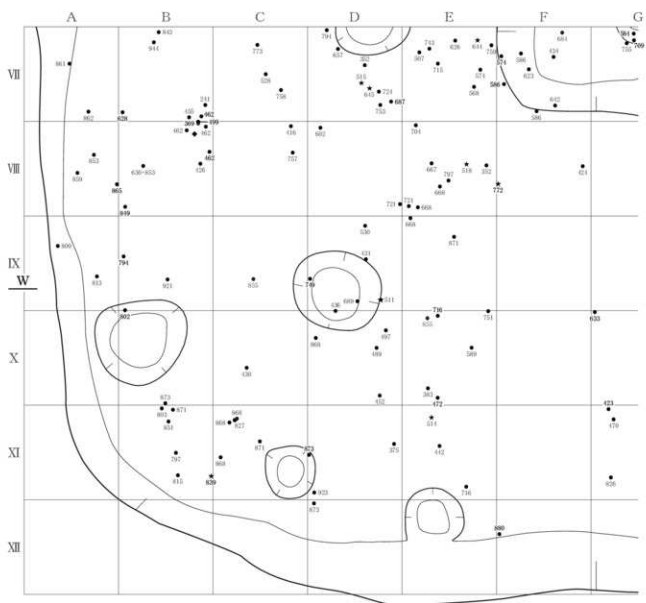


第19図 ST 1 礫群検出状態図・断面図(S=1/60)

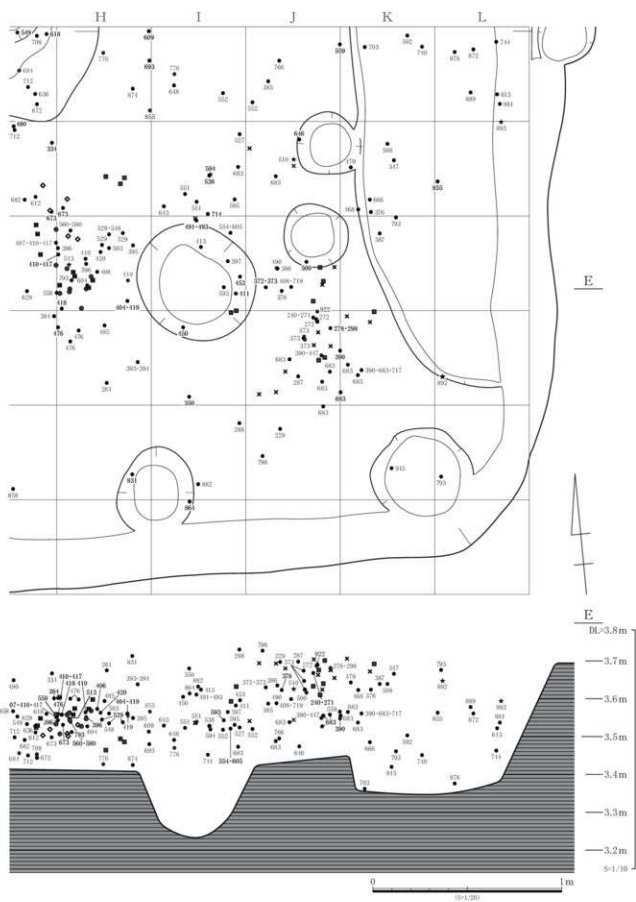
本調査では出土した遺物片約1,240点について出土地点の計測を記録し、図化した約480点を水平・垂直分布図で図示している。便宜的に一辺50cmのグリッドを任意に設定し、番号を附して表示することで出土地点や接合関係(同一個体)の把握を容易にすると共に、遺物の粗密を看取できるようにした。尚、第21～24図については水平分布図の縮尺は1/20であるが、垂直分布図は重複を緩和する目的で1/10としたため、断面図に図示している分布図は水平・垂直方向で縮尺が異なっている点を留意して頂きたい。また一部の遺物については記号化して表示し、濃度の薄い点は未接合資料を表現している。



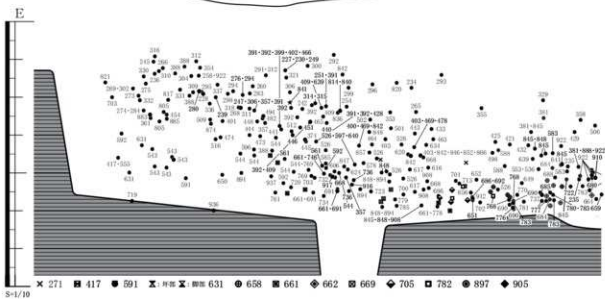
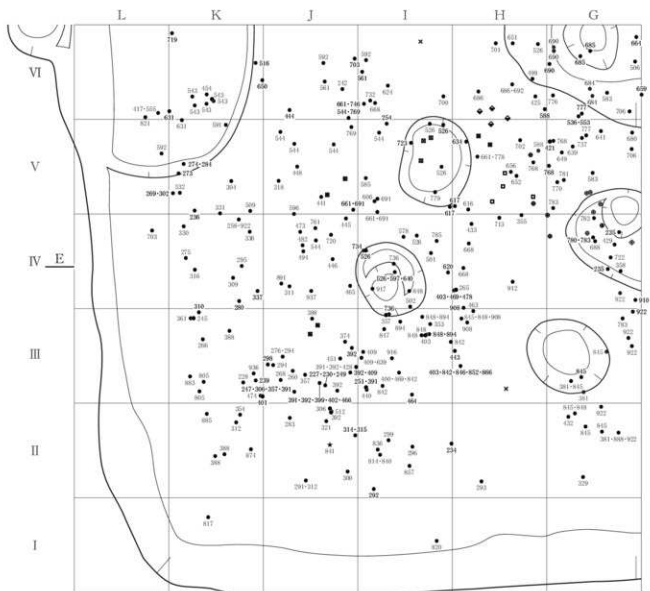
第20図 ST 1 出土遺物分布図 (S=1/40)

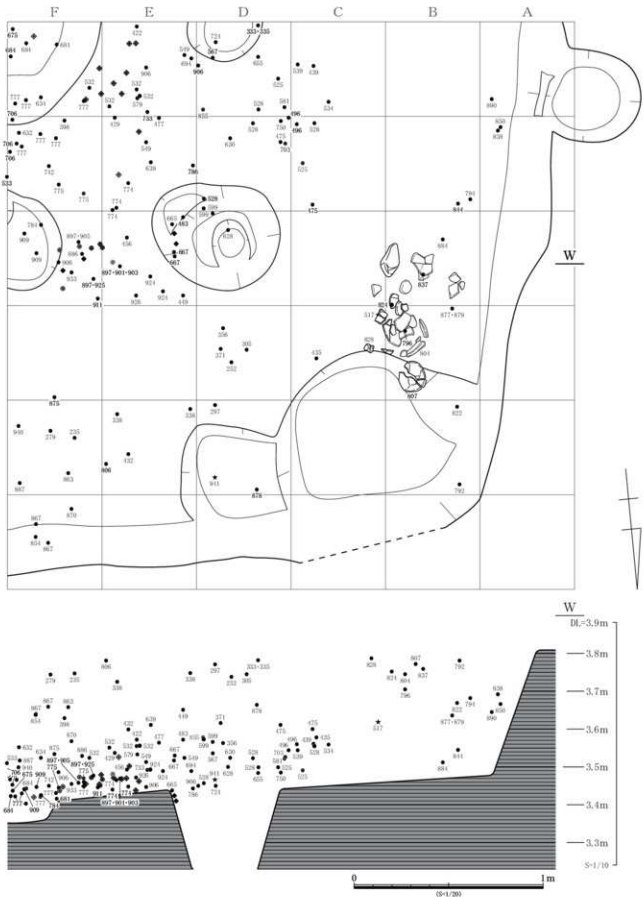


S-1/10

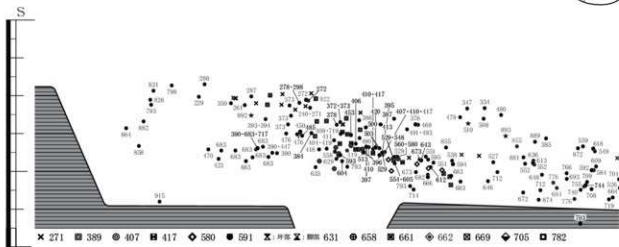
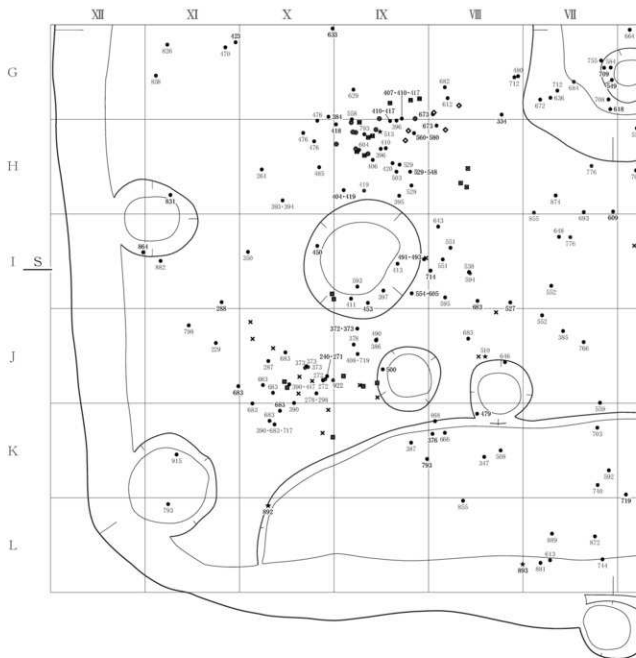


第 21 図 ST 1 出土遺物分布図：南半 (S=1/10・20)

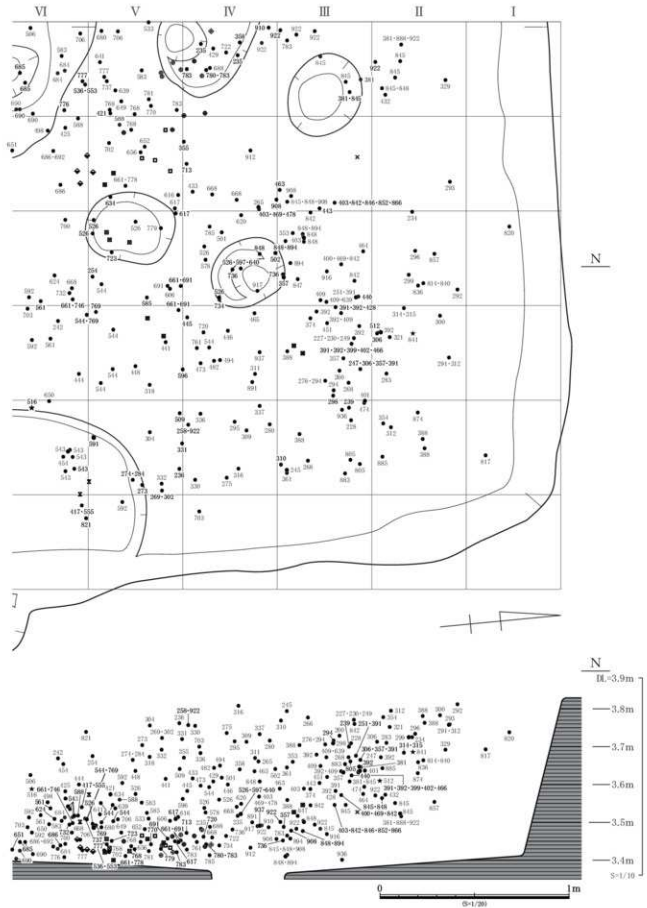




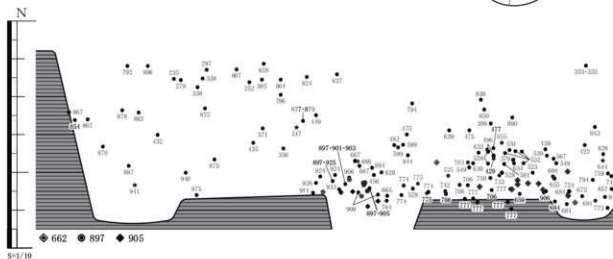
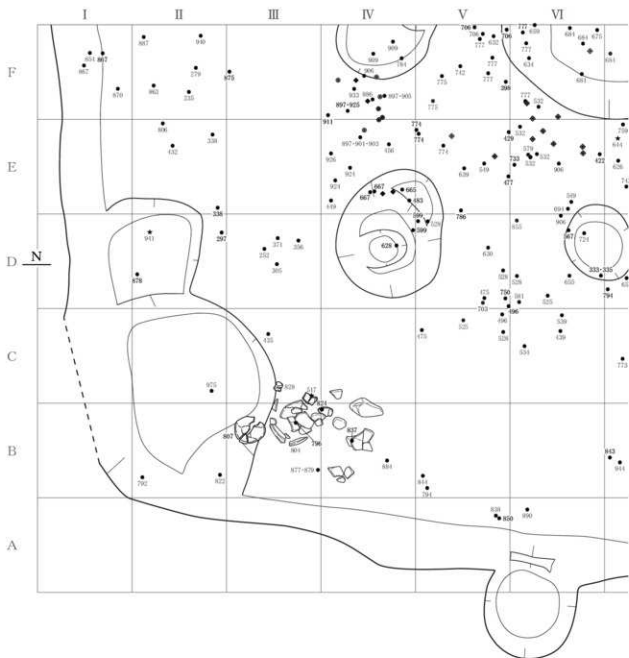
第22図 ST 1 出土遺物分布図：北半 (S=1/10・20)

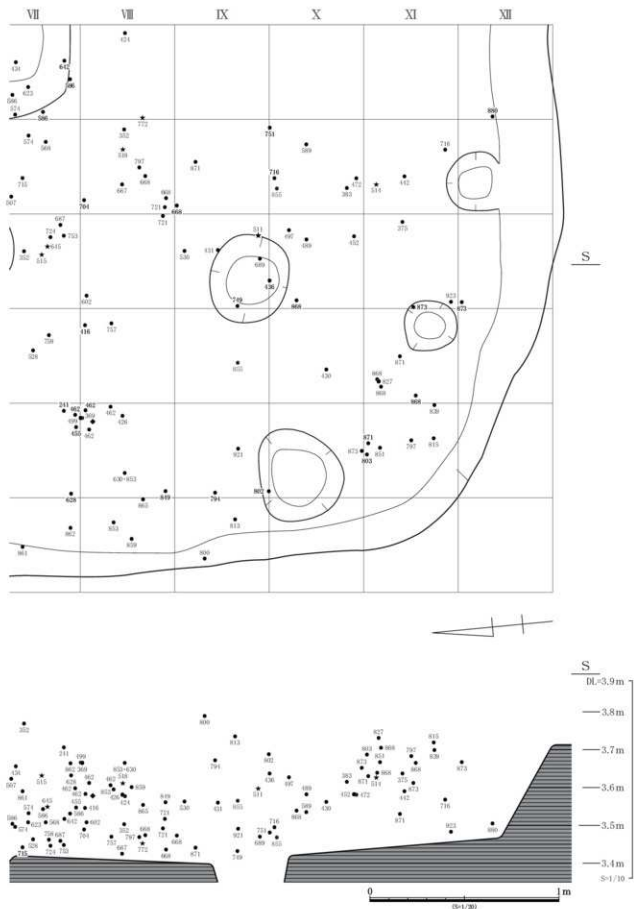


S-1/10



第 23 図 ST 1 出土遺物分布図：東半 (S=1/10・20)





第 24 図 ST 1 出土遺物分布図：西半 (S=1/10・20)

弥生土器

ST1から出土した当該期資料群の主要な器種構成は壺、甕、鉢、高環、土製支脚などである。可及的に図化し得た遺物は、第25～68図に出土した層位を基準に図示しており、組成比率については各々の実測遺物数を概算の算定資料としたが、可能性を有する遺物も含まれている。

壺：当該遺構における壺形土器の割合は14%を占める。図化は可能性を含めて97点を数え、該期に特徴的な小型丸底壺は6点を出土している。口縁部は広口壺を呈した形状が多く、直口壺や複合口縁壺とされる遺物も出土している。356は東阿波型土器を模倣した在地産と考えられ¹⁰⁾、小型丸底壺(371)と伴出している。完形資料は2点(842・962)と僅少なながら何れも胴部形態は球形で底部は丸底状を呈している。出土層位はピット状遺構(主柱穴)や3層であるなど古層からの出土である。一方で小型丸底壺の多くは1層(新層)からの出土であり、若干の差異を看取できる。

甕：当該遺構における甕形土器の割合は38%を占める。図化は可能性を含めて270点を数え、搬入品と考えられる東阿波型土器は3点を出土している。口縁部が「く」字形に外反する形状が多いが、頸部からの屈曲が緩やかな遺物もみられる。胴部形態は最大径が中位乃至中上位に位置する長胴形で、楕円形状を呈する個体も出土している。また胴部が丸みを帯びる形状も存在する(388・662・846)。器面の叩目の刷毛による調整範囲は下部にほぼ限定され狭小となる傾向を示し、底部は丸底化を指向している。

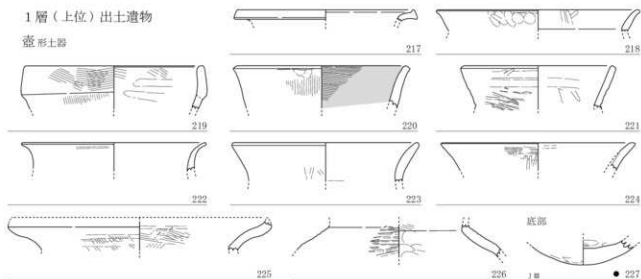
鉢：当該遺構における鉢形土器の割合は35%を占め、図化は可能性を含めて244点を数える。器形は多様化の様相を見せ、従来の鉢状形態に加え塊状を呈したもや手捏ね成形を主体として形状に歪みを生じた小皿状の遺物の他、半球体形状の体部から口縁部が屈曲して外傾し、底部が丸底状を成す新相の器形も出土している。また平底状の角を潰して丸底化を指向した環状の形態も存在する。杯状を呈した小形の手捏ね成形土器もみられ、314と315は入れ子状態で埋存していた。他に脚付鉢と考えられる遺物も11点出土している。尚、923は器台(脚部)の可能性を含んでいるとの指摘もある¹¹⁾。

高環：当該遺構における高環形土器の割合は9%を占める。図化は可能性を含めて64点を数えるが、完存個体は631のみである。筒状(中空)又は円柱状(中実)の脚部から「ハ」字形に有孔の裾部を有するものや、低脚状を呈する遺物がみられるが、出土遺物の残存率が小片であるため観察の範囲は限定的である。坏部は有稜状を成すものや塊状を呈する形状などがあり、628は有稜で坏部が斜め上方に直線的に立上っているなど該期に特徴的な高環形土器であるとされている。

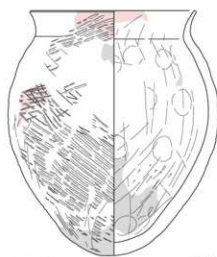
支脚：当該遺構における支脚形土器の割合は4%を占める。残存率は低く、脚底部等を主体として図化し得た個体数は可能性を含めて30点を数えるが、破片資料だけでなく概形が判別できる個体も少量ながら出土している。主な遺物は器高が高く、脚底部は「ハ」字形で体部が中空乃至上げ底状を呈し、上部に二又の指状部(角状突起)を有して受け部とする形態が多い。508は燃焼が比較的堅緻であり、体部に穿孔痕(未貫通)を有しているなど、山陰系の所産の可能性が指摘されている¹²⁾。他に770は上面が環状(凹面)を呈して受け部とする形態であり、940は円柱形(低脚)の土製支脚である。尚、836の脚部上端は変色(溶解)し、またその形状などから転用羽口の可能性を含んでいると思われる。

1層(上位)出土遺物

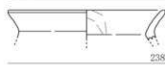
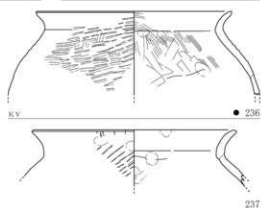
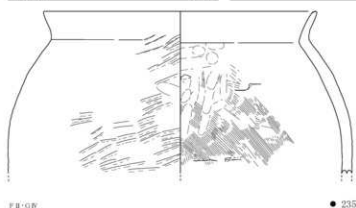
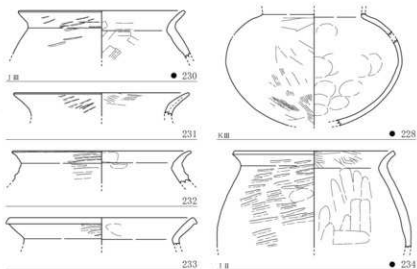
壺形土器



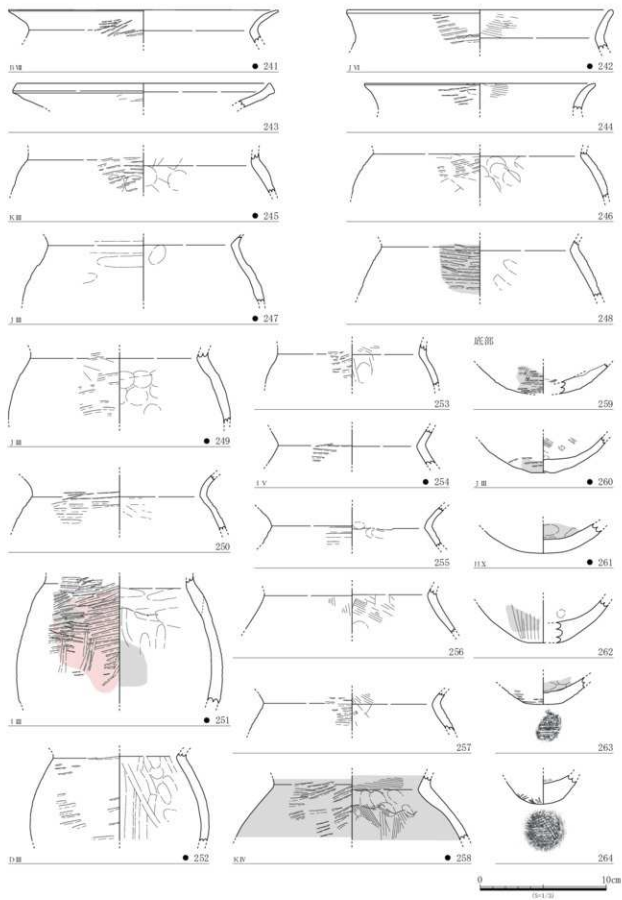
甕形土器



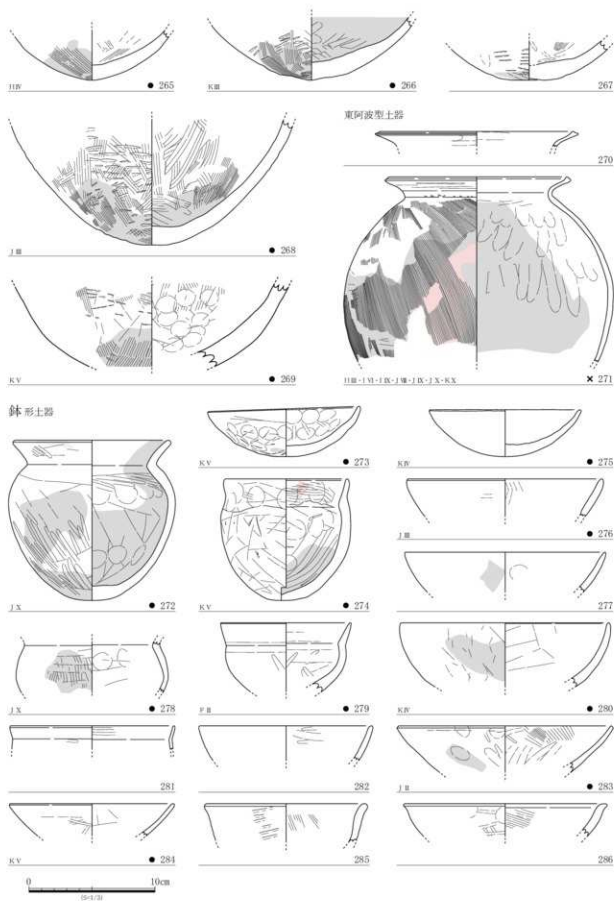
小型丸底壺



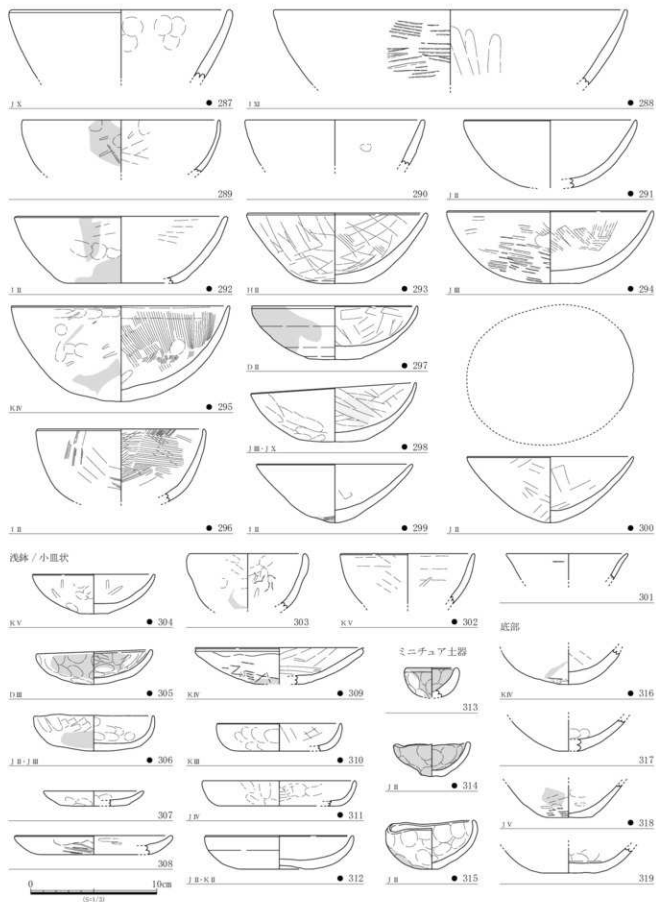
第25図 ST1 出土遺物実測図1 (S=1/3)



第26図 ST 1 出土遺物実測図2 (S=1/3)

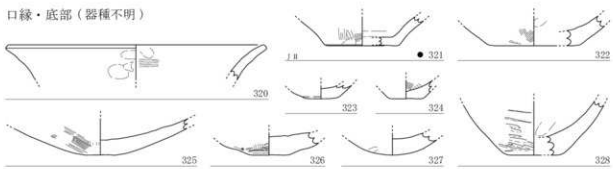


第 27 図 ST 1 出土遺物実測図 3 (S=1/3)

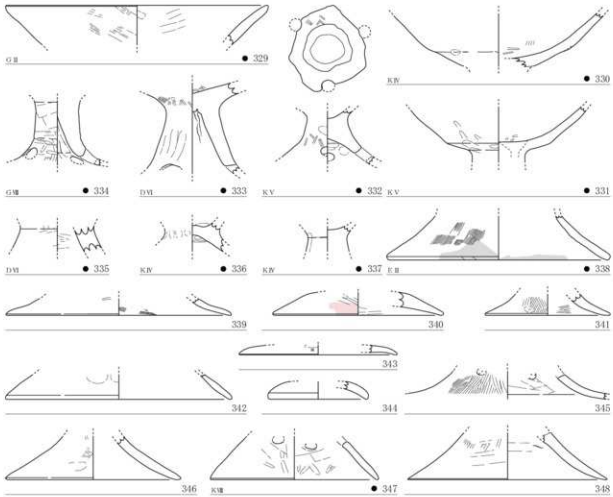


第 28 図 ST 1 出土遺物実測図 4 (S=1/3)

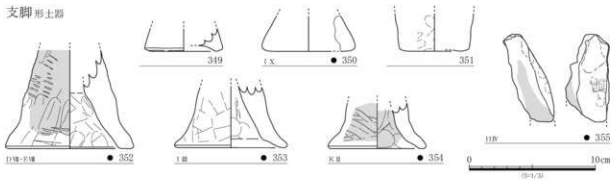
口縁・底部（器種不明）



高坏形土器



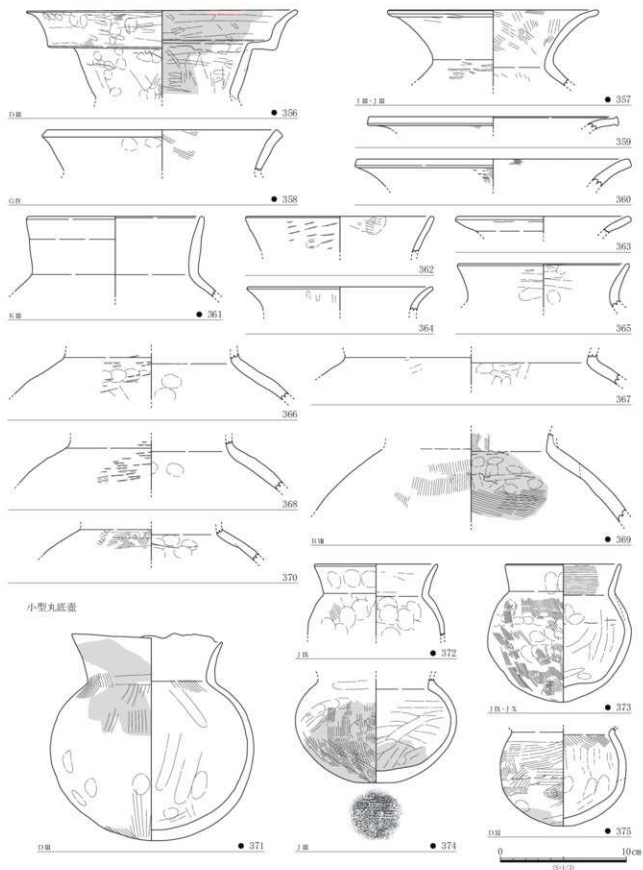
支脚形土器



第29図 ST1 出土遺物実測図5 (S=1/3)

1層（下位）出土遺物

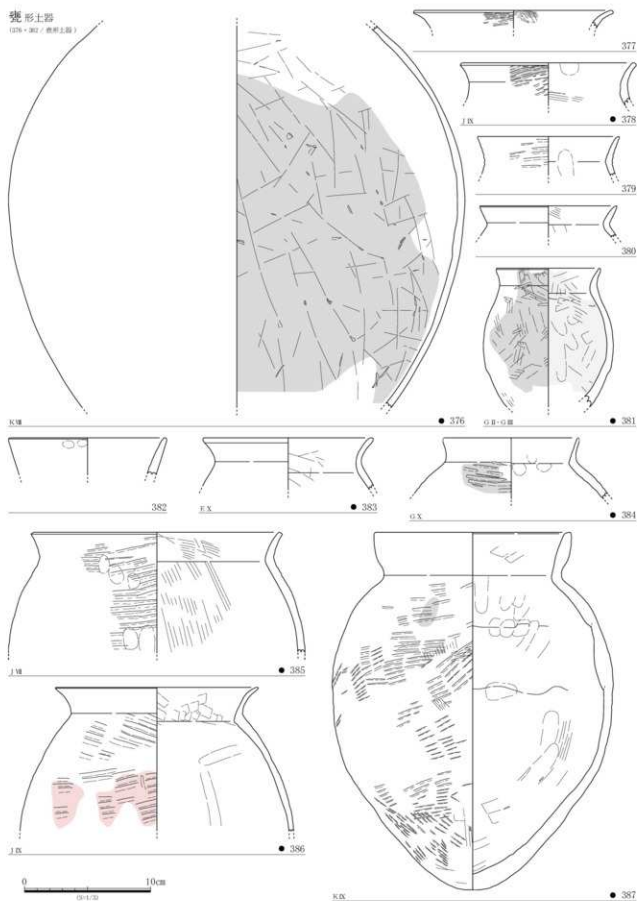
壺形土器



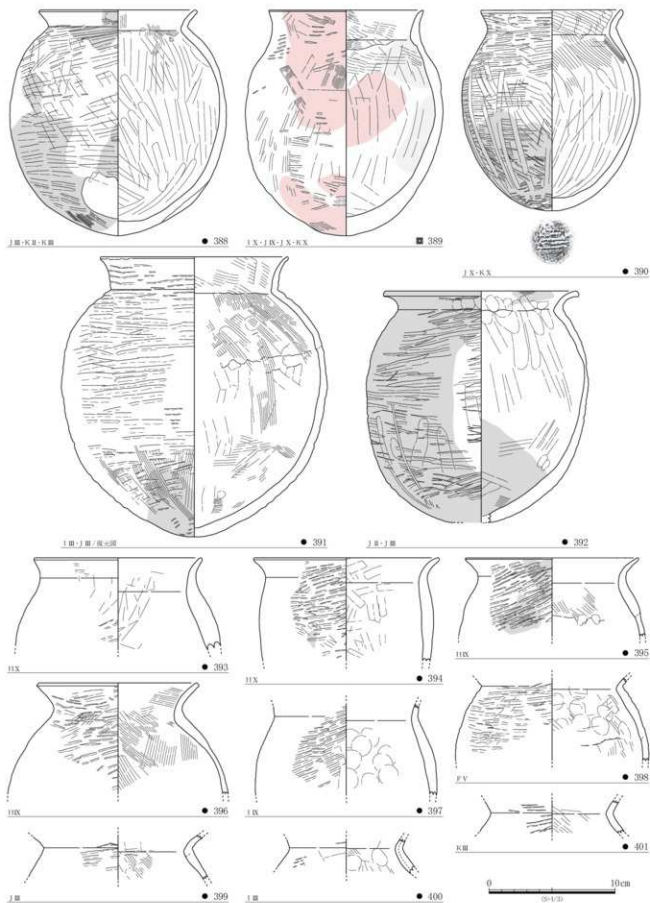
第30図 ST 1 出土遺物実測図6 (S=1/3)

甕形土器

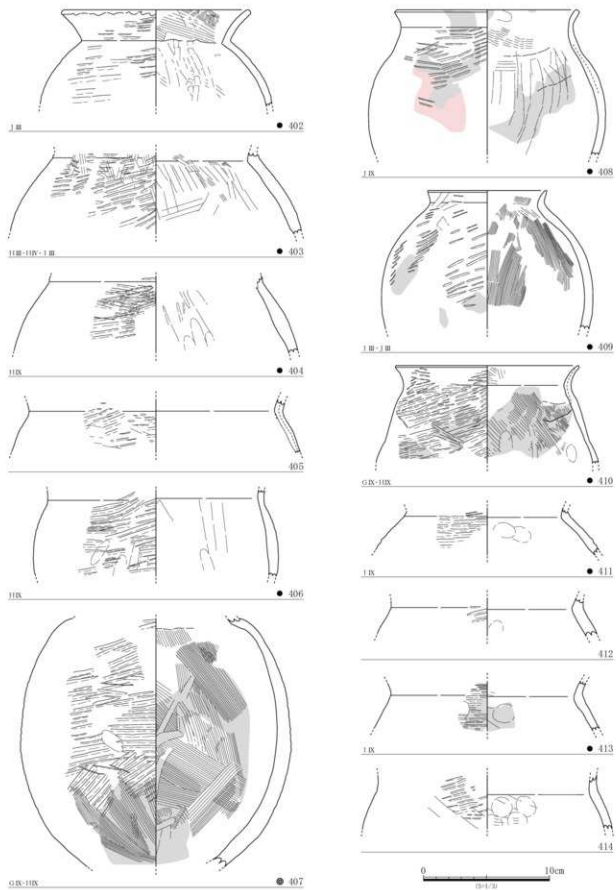
(376・381 / 甕形土器)



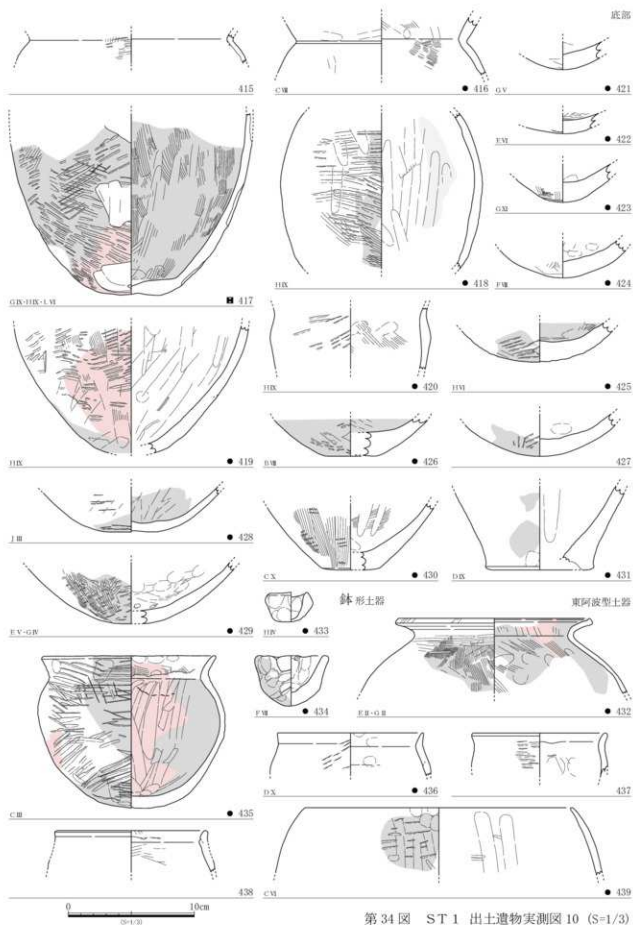
第31図 ST1 出土遺物実測図7 (S=1/3)



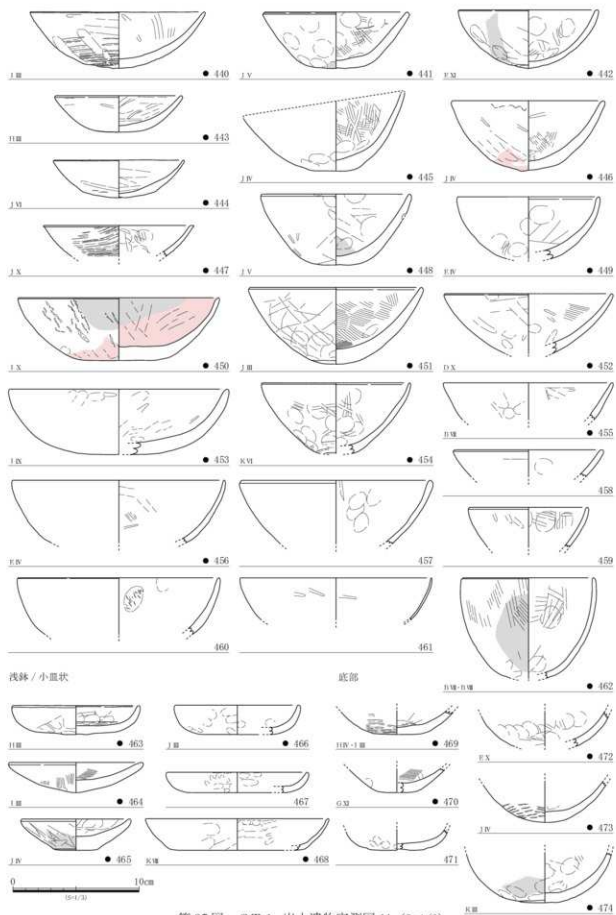
第32図 ST 1 出土遺物実測図8 (S=1/3)



第 33 図 ST 1 出土遺物実測図 9 (S=1/3)

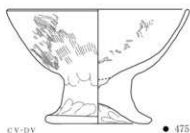


第34図 ST 1 出土遺物実測図10 (S=1/3)

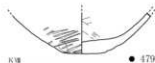
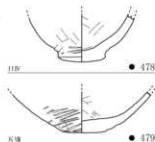


第 35 図 ST 1 出土遺物実測図 11 (S=1/3)

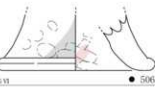
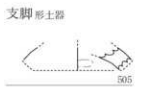
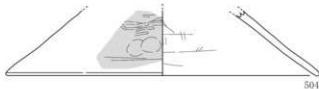
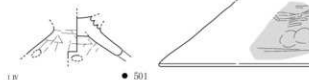
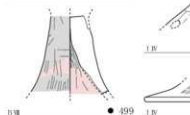
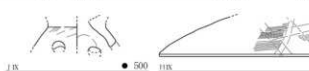
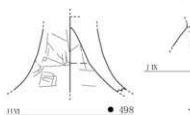
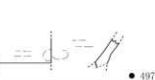
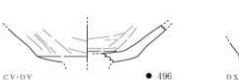
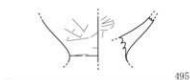
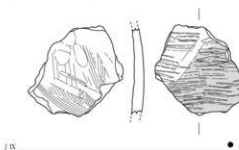
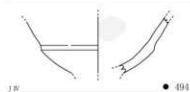
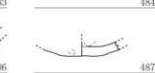
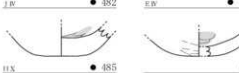
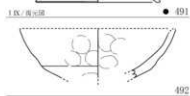
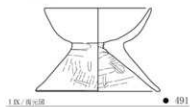
脚付鉢



底部・他（器種不明）

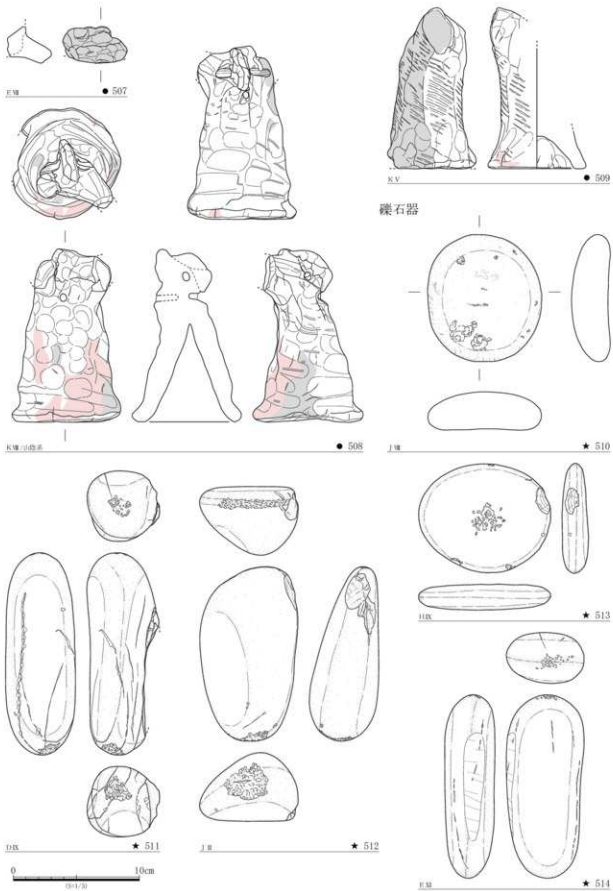


高坏形土器



支脚形土器

第 36 図 ST 1 出土遺物実測図 12 (S=1/3)



第 37 図 ST 1 出土遺物実測図 13 (S=1/3)

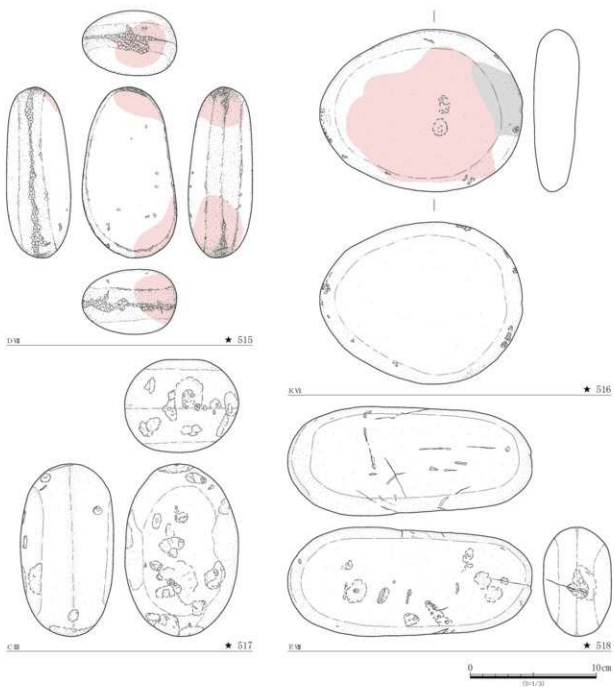
石器

当該遺構では砥石や叩石などの石器類(礫石器)数十点を出土している。石材は物部川に産出される砂質を母岩とする円～超円礫であり、色相は概して灰色系を呈している。大部分は自然礫(素材)の状態を用いており、使用・加工等による大きな剥落(欠損)等は無く、出土した礫石器はほぼ完形を保っている。

尚、一部の礫石器には被熱や煤けなどの痕跡が認められており、火焼に起因すると推測されるものの祭祀(儀礼)関連行為の可能性を含めて判然としておらず、検討を要すると思われる。

【註】

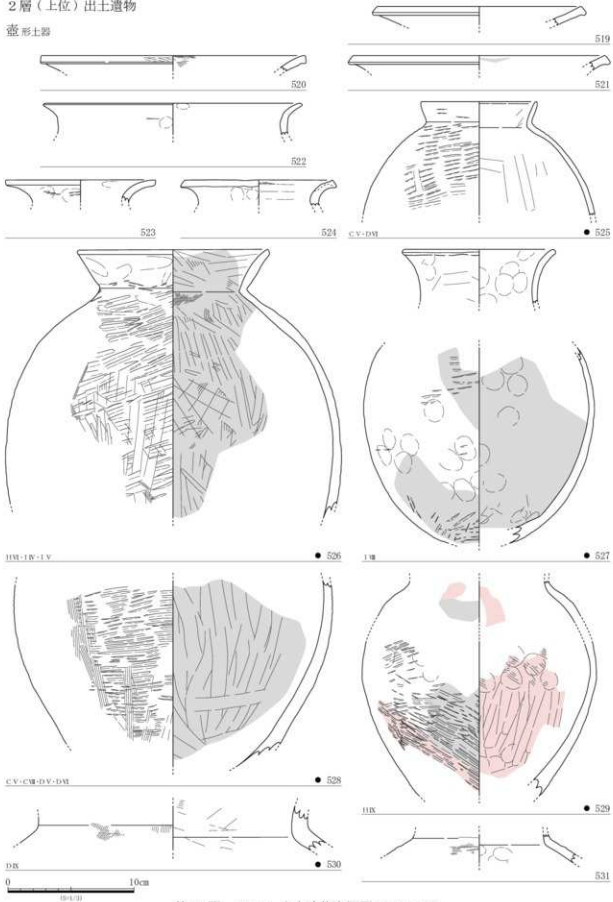
- (1) 松村信博氏の御教示による。 (3) 久家隆芳氏の御教示による。



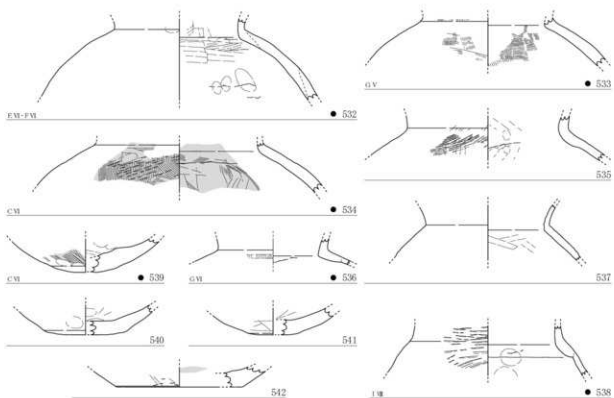
第38図 ST 1 出土遺物実測図 14 (S=1/3)

2層（上位）出土遺物

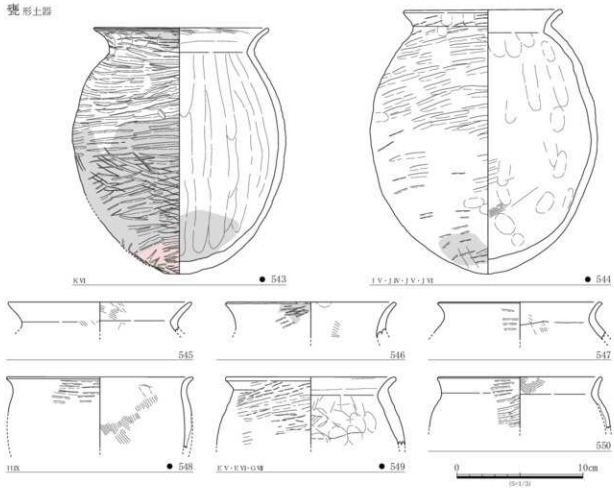
壺形土器



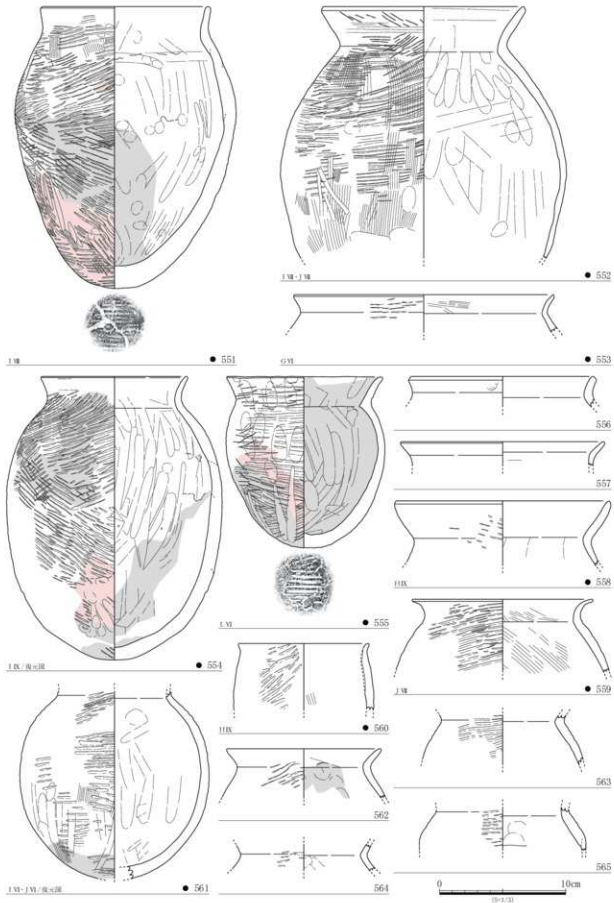
第 39 図 ST 1 出土遺物実測図 15 (S=1/3)



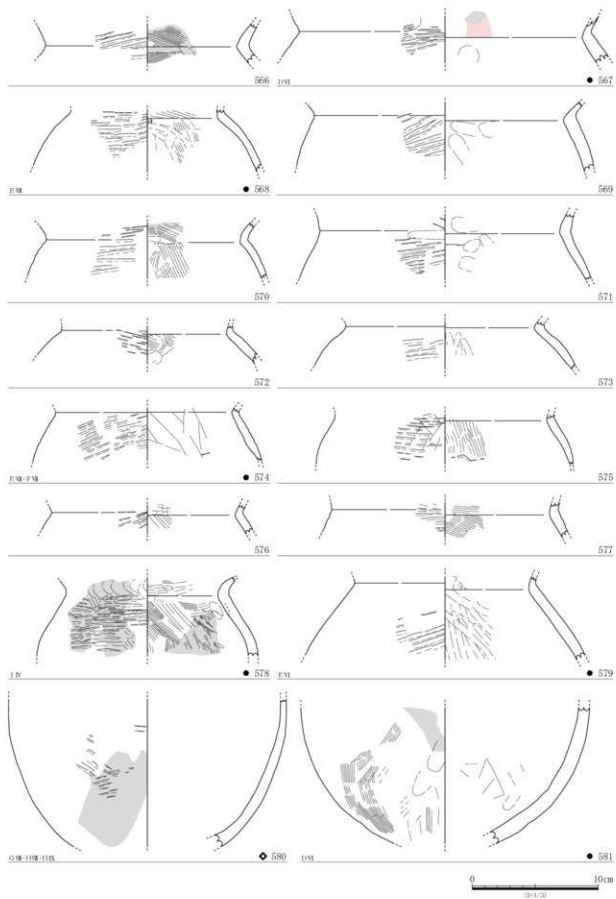
甕形土器



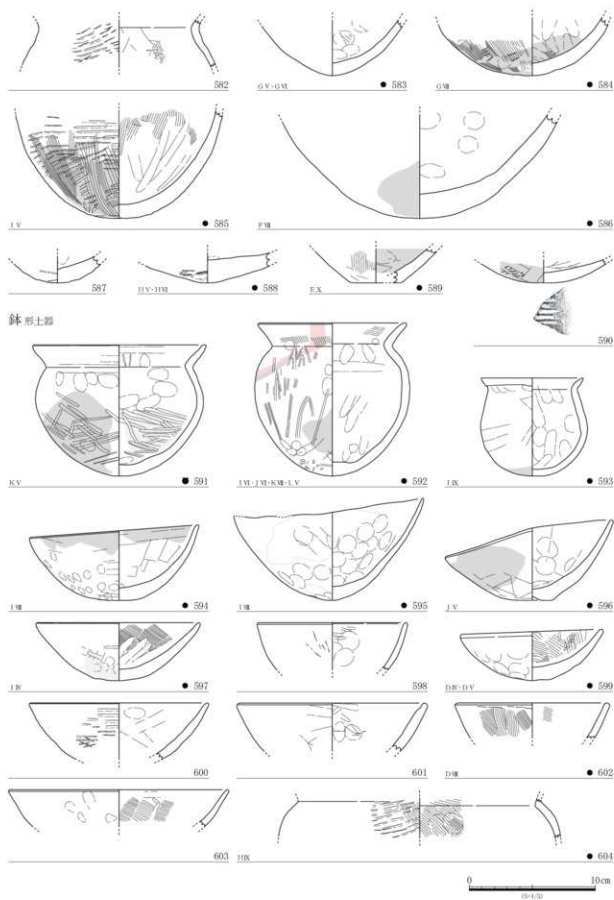
第40図 ST 1 出土遺物実測図 16 (S=1/3)



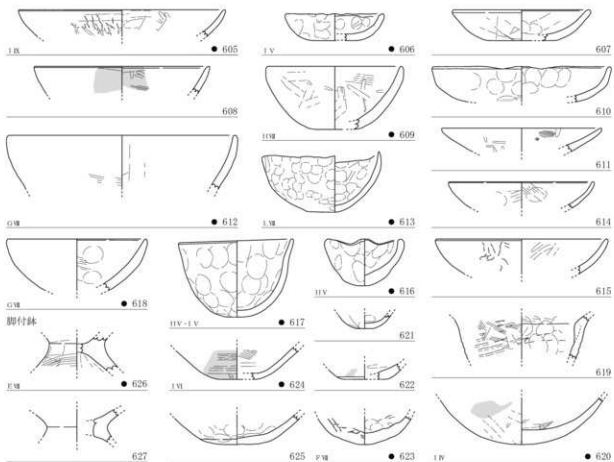
第41図 ST1 出土遺物実測図17 (S=1/3)



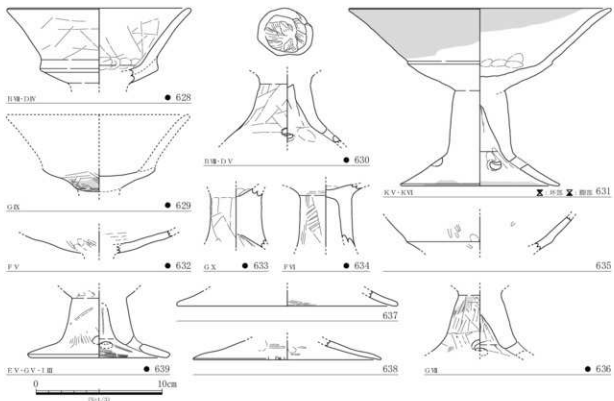
第 42 図 ST 1 出土遺物実測図 18 (S=1/3)



第43図 ST 1 出土遺物実測図 19 (S=1/3)

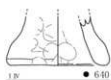


高坏形土器



第44図 ST1 出土遺物実測図20 (S=1/3)

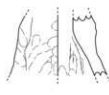
支脚形土器



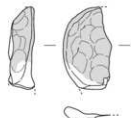
I B ● 640



G V ● 641



F Ⅲ ● 642



I Ⅲ/Ⅲ Ⅲ上層 ● 643

礫石器



E Ⅲ ★ 644



紙石



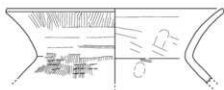
軽石



D Ⅲ ★ 645

2層(下位)出土遺物

甑形土器



J Ⅲ ● 646



I Ⅲ ● 648



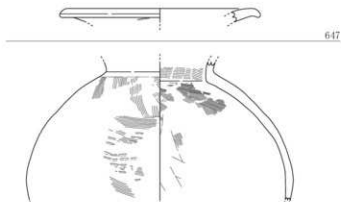
K Ⅲ ● 650



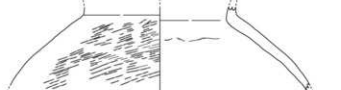
ⅢⅣ ● 652



653



647



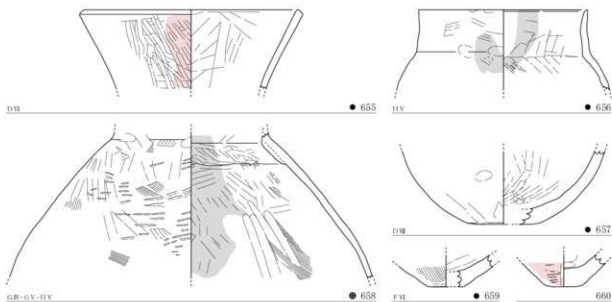
● 649



● 651

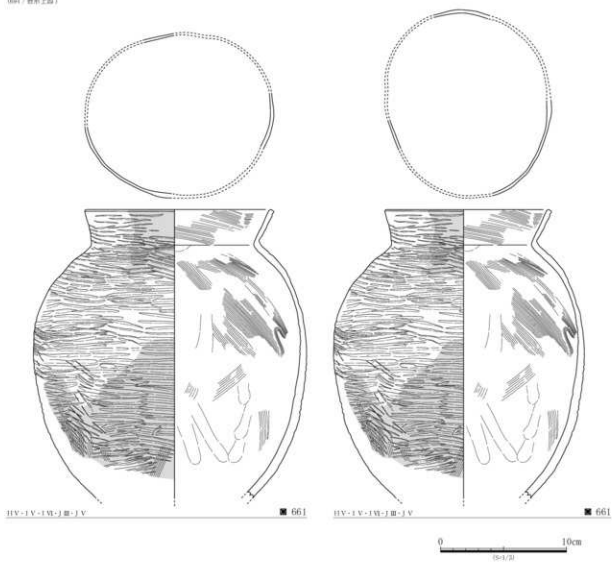


第45図 ST 1 出土遺物実測図 21 (S=1/3)

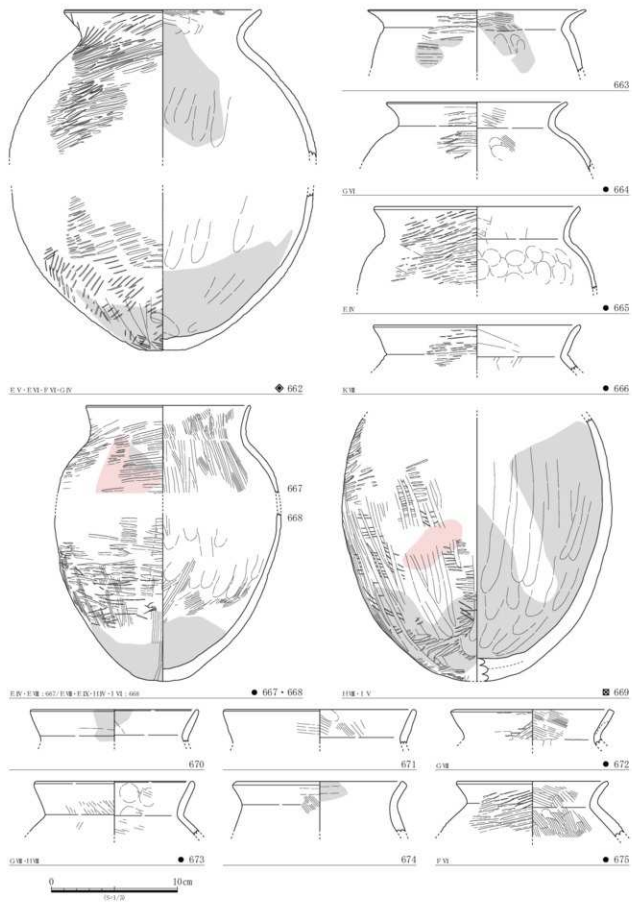


甕形土器

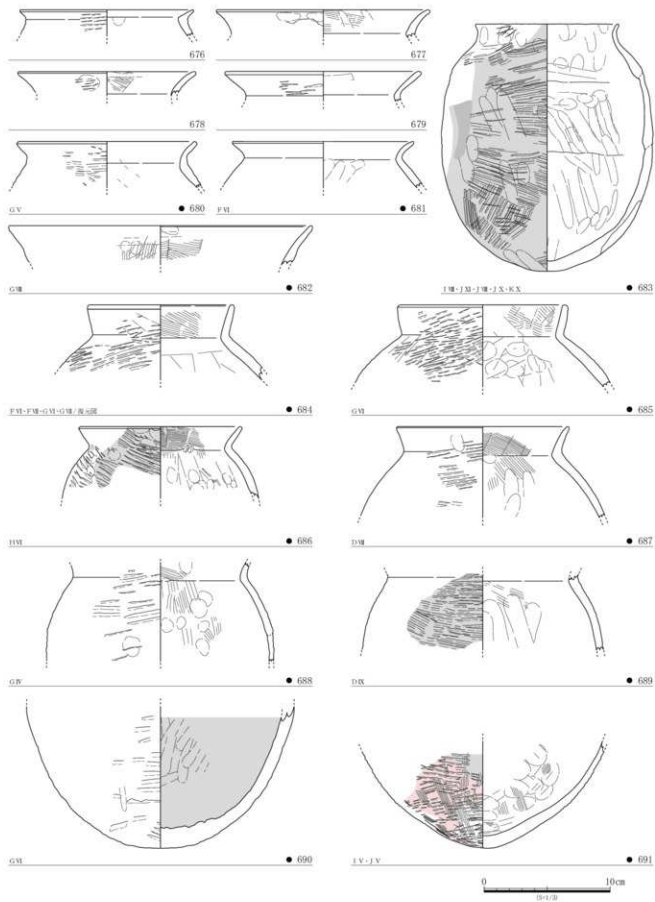
001 (甕形土器)



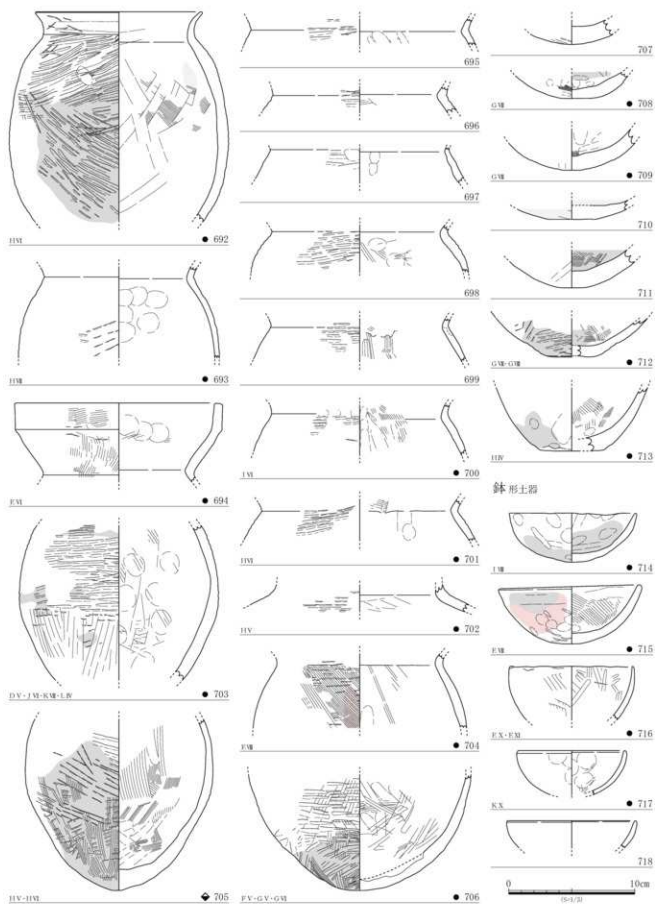
第46図 ST 1 出土遺物実測図 22 (S=1/3)



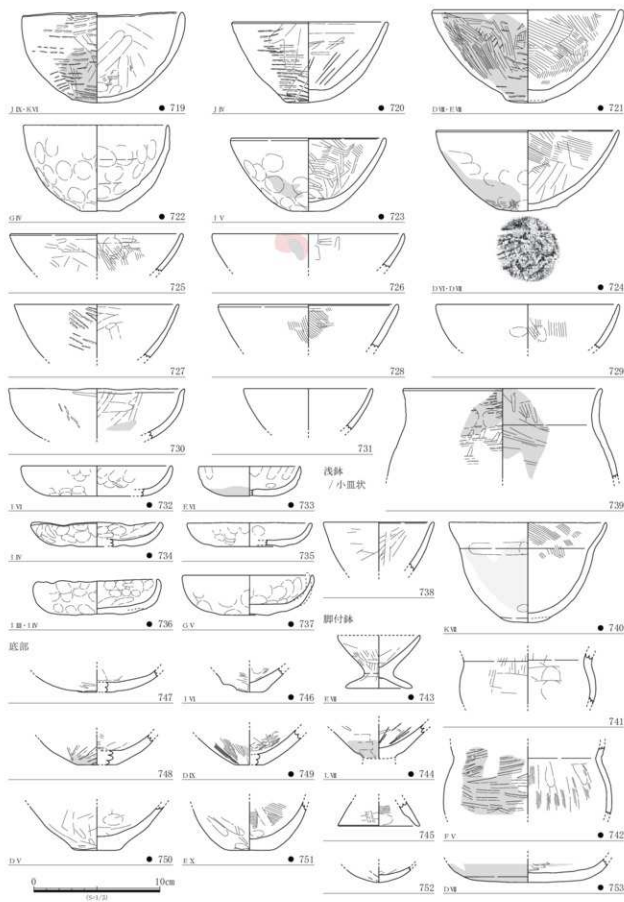
第 47 図 ST 1 出土遺物実測図 23 (S=1/3)



第 48 図 ST 1 出土遺物実測図 24 (S=1/3)



第49図 ST 1 出土遺物実測図 25 (S=1/3)

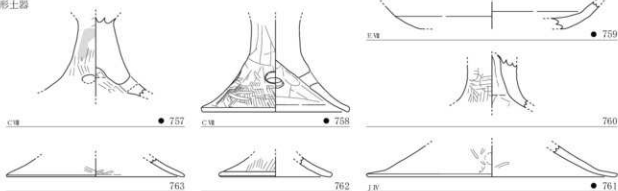


第 50 図 ST 1 出土遺物実測図 26 (S=1/3)

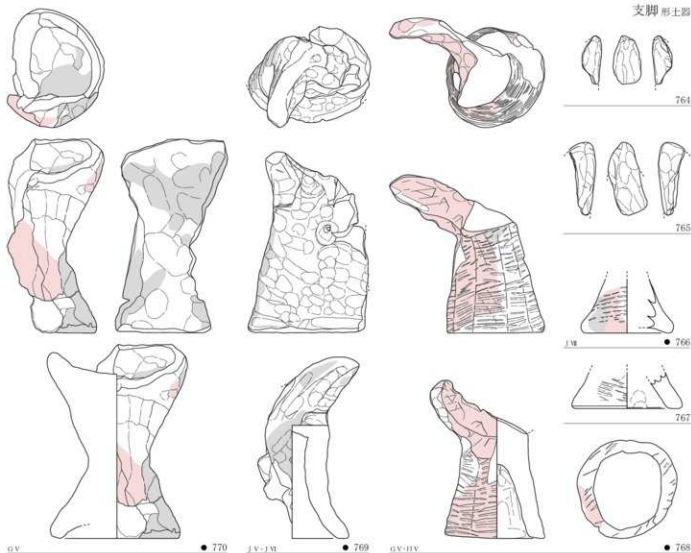
口縁・底部（器種不明）



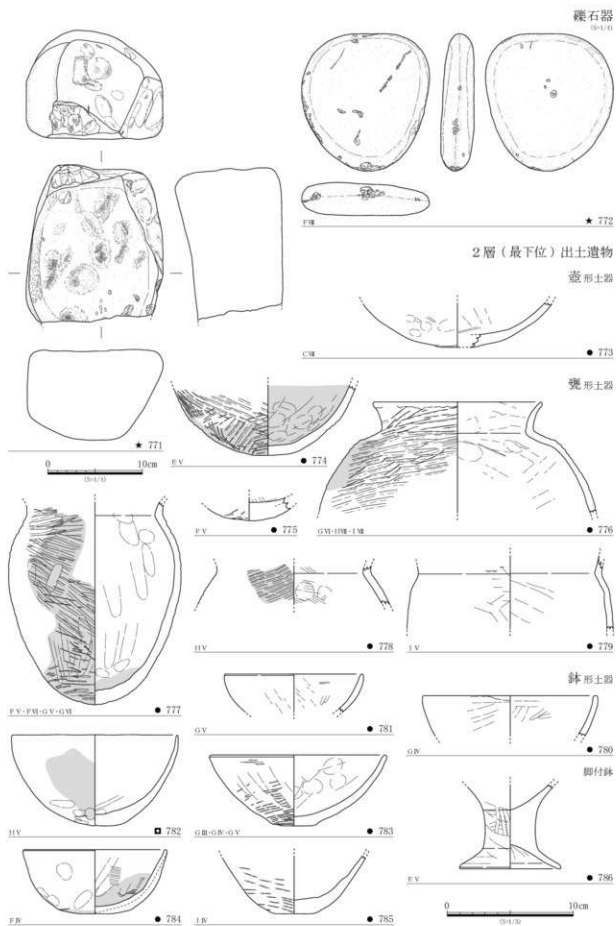
高坏形土器



支脚形土器



第 51 図 ST 1 出土遺物実測図 27 (S=1/3)



第52図 ST 1 出土遺物実測図 28 (S=1/3・1/4)

3層（上位）出土遺物

壺形土器



788

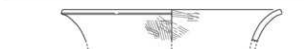


790

791



787

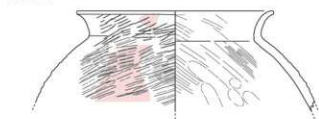


789



● 792

甕形土器



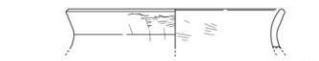
ⅡV・ⅡIX-D

● 794



ⅡIX・KIX-L

● 793

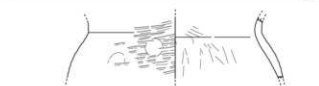


795

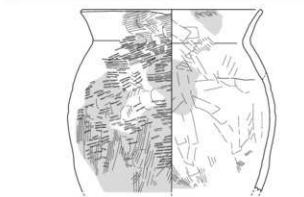


ⅡⅢ

● 796

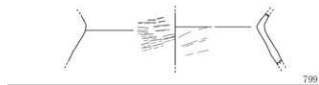


● 798

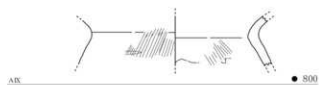


ⅡⅢ・E

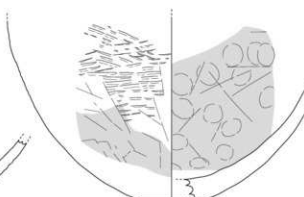
● 797



799



● 800

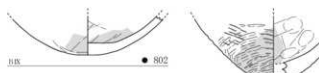


ⅡⅢ

● 804



801



ⅡIX

● 802



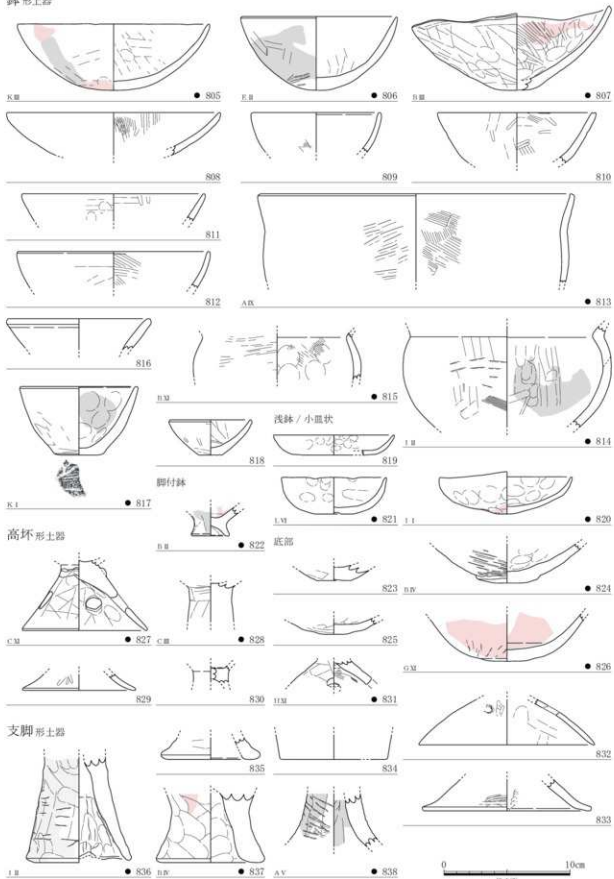
ⅡⅢ

● 803



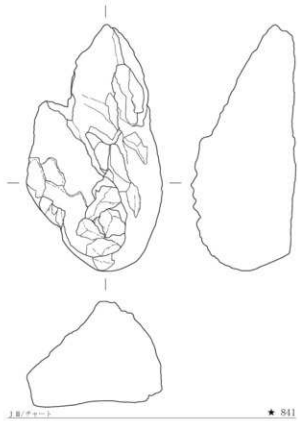
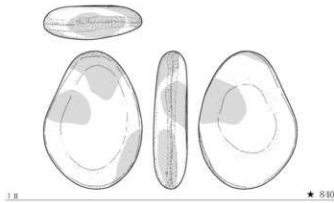
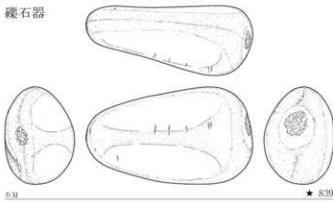
第 53 図 ST 1 出土遺物実測図 29 (S=1/3)

鉢形土器



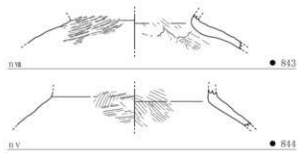
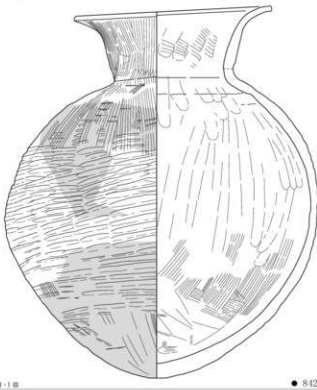
第54図 ST1 出土遺物実測図30 (S=1/3)

礫石器

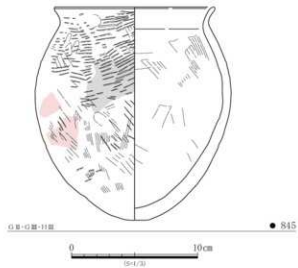


3層（中位）出土遺物

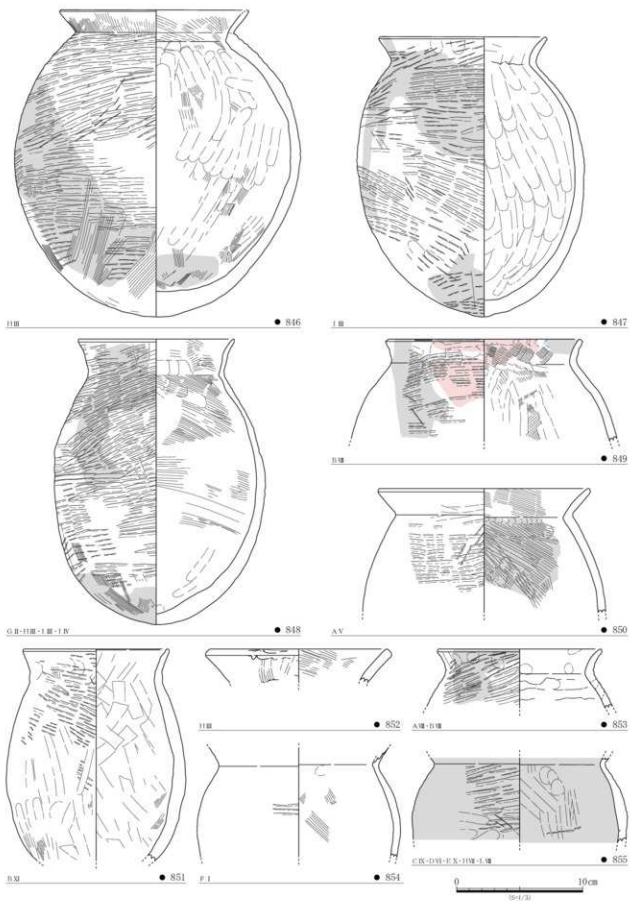
壺形土器



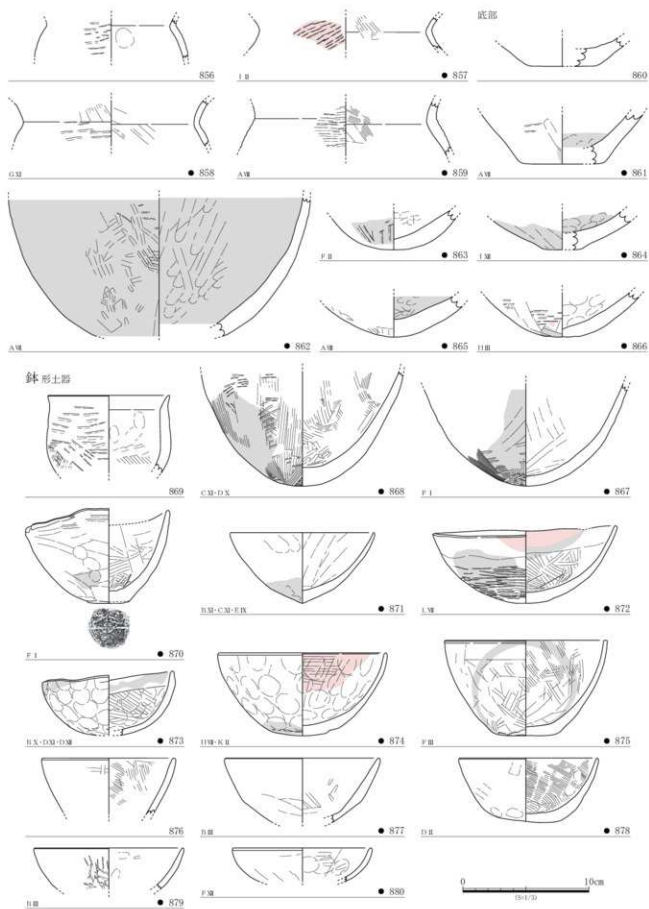
甗形土器



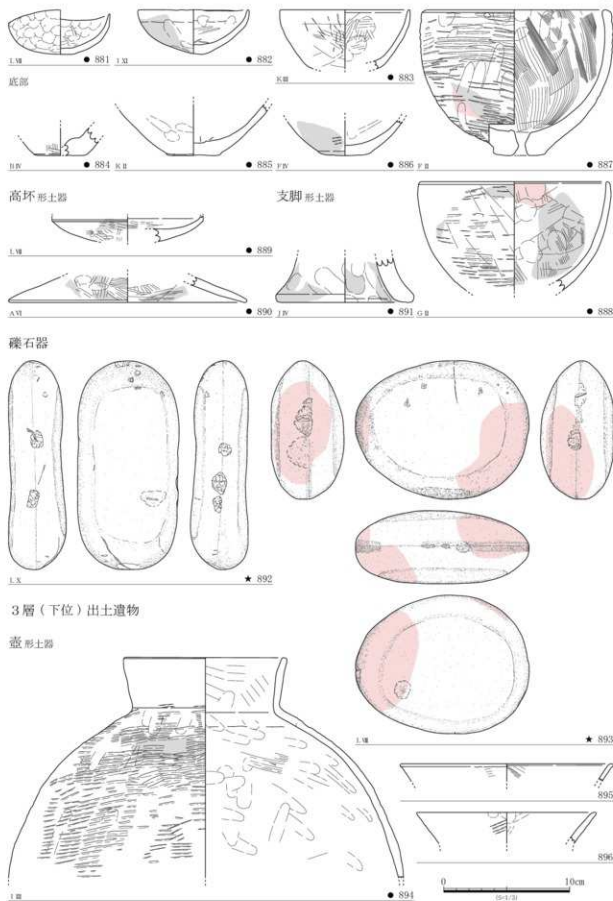
第55図 ST1 出土遺物実測図31 (S=1/3)



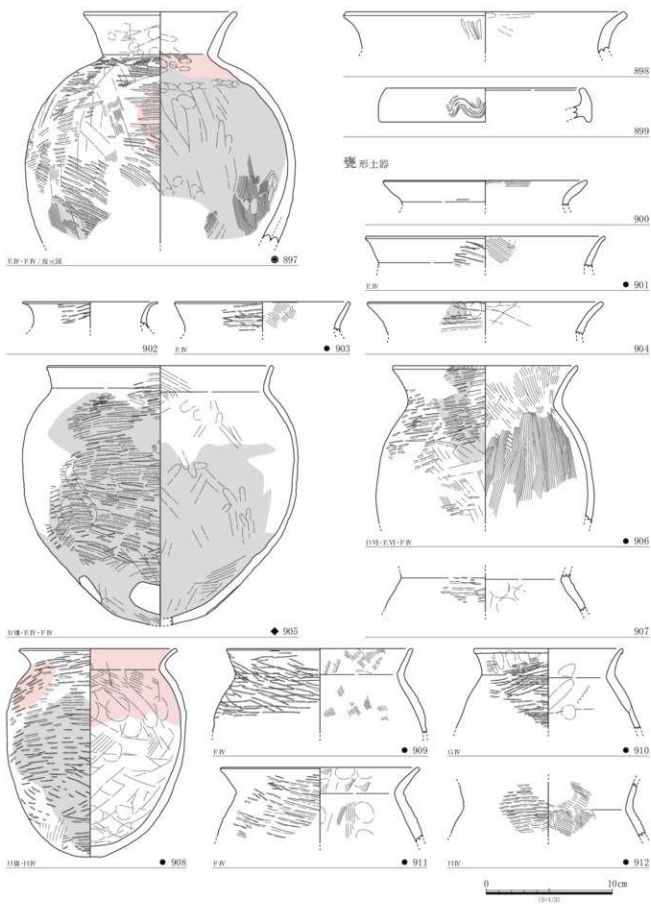
第 56 図 ST 1 出土遺物実測図 32 (S=1/3)



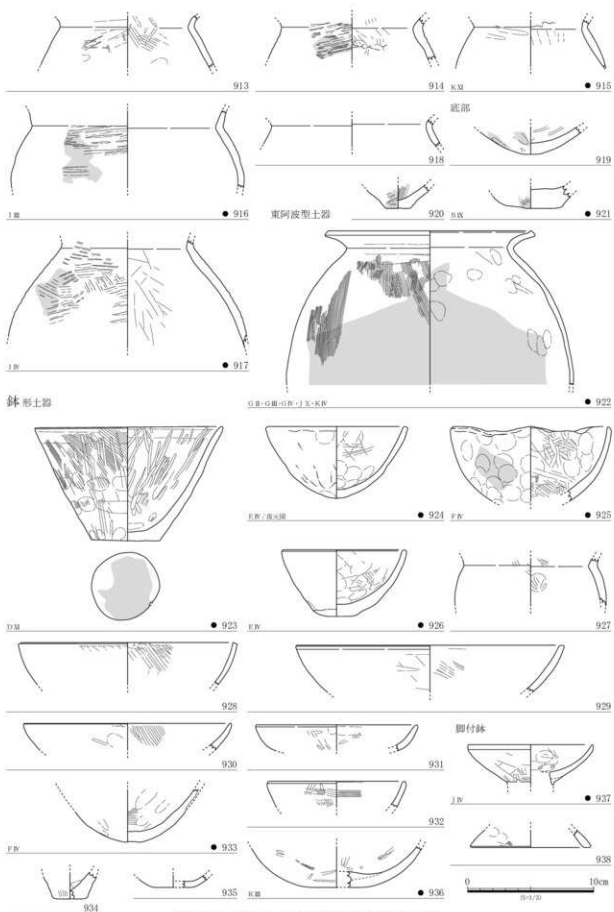
第 57 図 ST 1 出土遺物実測図 33 (S=1/3)



第58図 ST 1 出土遺物実測図34 (S=1/3)

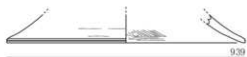


第 59 図 ST 1 出土遺物実測図 35 (S=1/3)



第60図 ST 1 出土遺物実測図 36 (S=1/3)

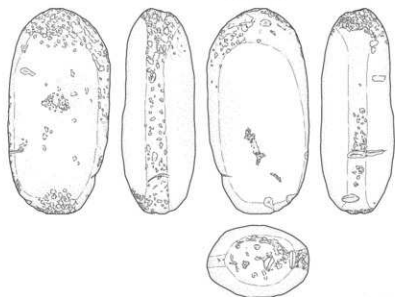
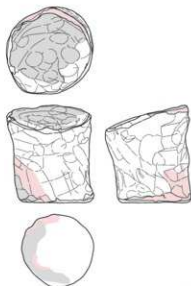
高坏形土器



礫石器



支脚形土器



9.11

● 940

9.41

★ 941

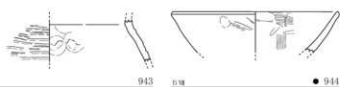
3層（最下位）出土遺物

甕形土器



9.42

鉢形土器

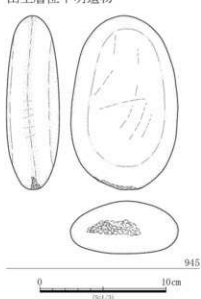


9.43

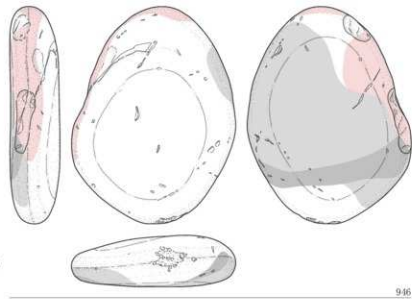
9.44

● 941

出土層位不明遺物



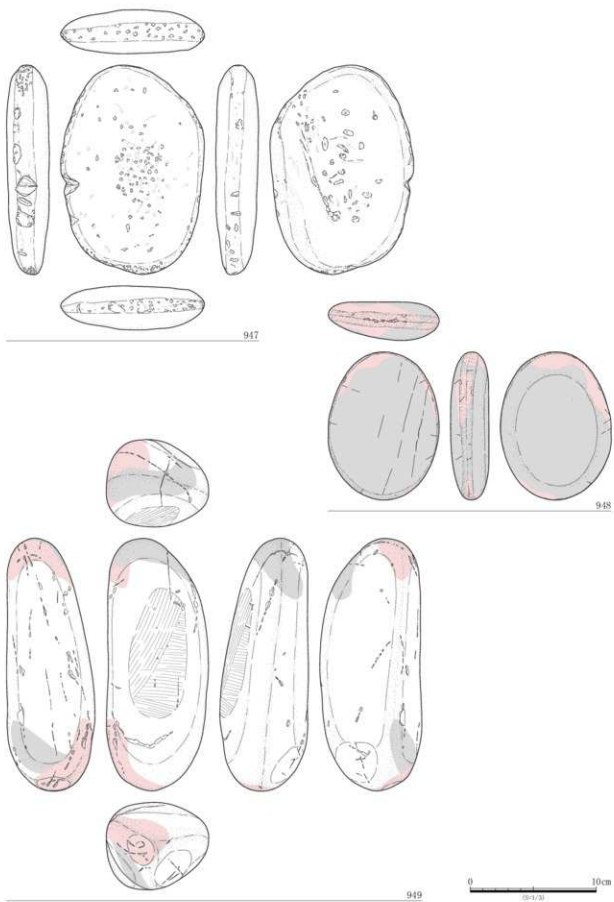
9.45



9.46



第 61 図 ST 1 出土遺物実測図 37 (S=1/3)

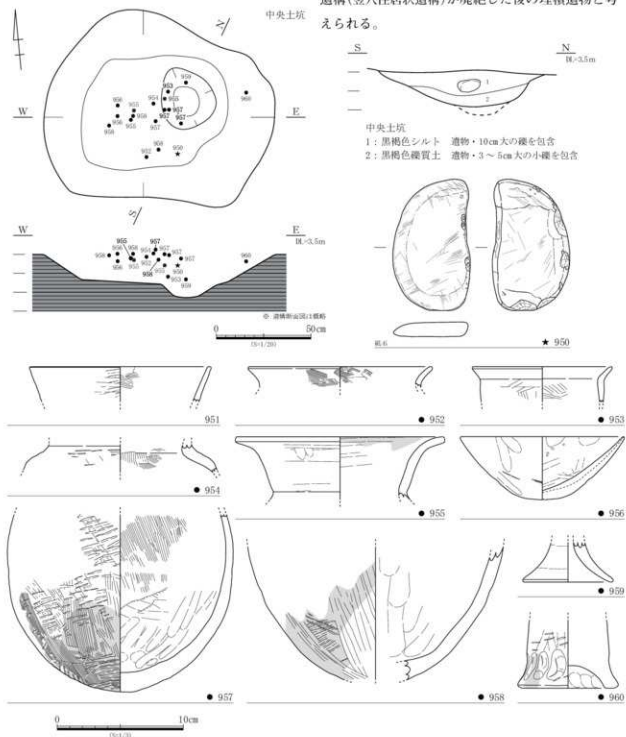


第 62 図 ST 1 出土遺物実測図 38 (S=1/3)

中央土坑

本遺構の中央附近に位置する。検出高は3.40mを測る。平面形状は歪な長方形を呈し、長軸約1.2m、短軸約0.8～1.0mを測る。長軸方向はN-84.5°-Wを示す。断面形態は凹状を成し、深さは18cmを遺存している。底面に長径33cm、短径28cm、深さ10cmを測る小穴を有している。埋土は黒褐色シルトを基調とするが、被熱残滓等の検出は認められなかった。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片232点(951～960)と砥石(950)を1点出土している。何れも帰属遺構(竪穴住居状遺構)が廃絶した後の埋積遺物と考えられる。

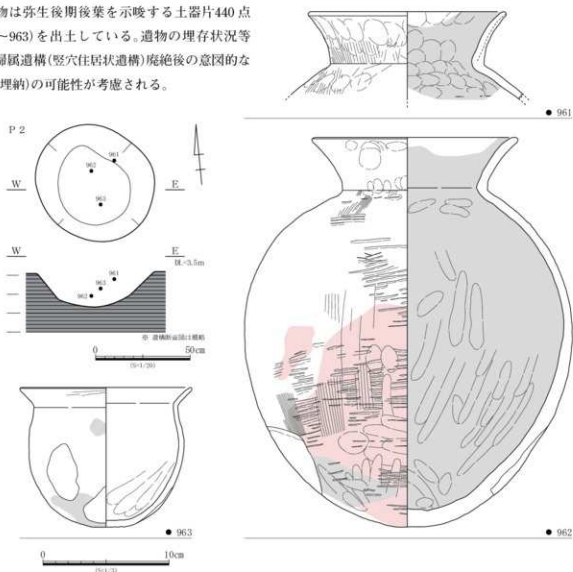


第63図 ST1 中央土坑 遺構平面図・他 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)

ST1P2

本遺構の南東に位置する。検出高は3.41mを測る。平面形態は垂円形状を呈し、長径65cm、短径58cmを測る。竪穴住居状遺構を構成する支柱穴の1つと考えられ、断面形態は凹状を成して深さは19cmを遺存している。埋土は褐色シルトを基調とする。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片440点(961~963)を出土している。遺物の埋存状況等から帰属遺構(竪穴住居状遺構)廃絶後の意図的な遺棄(埋納)の可能性が考慮される。



第64図 ST1 P2 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)



ST1P2 遺物出土状態: 961-962-963

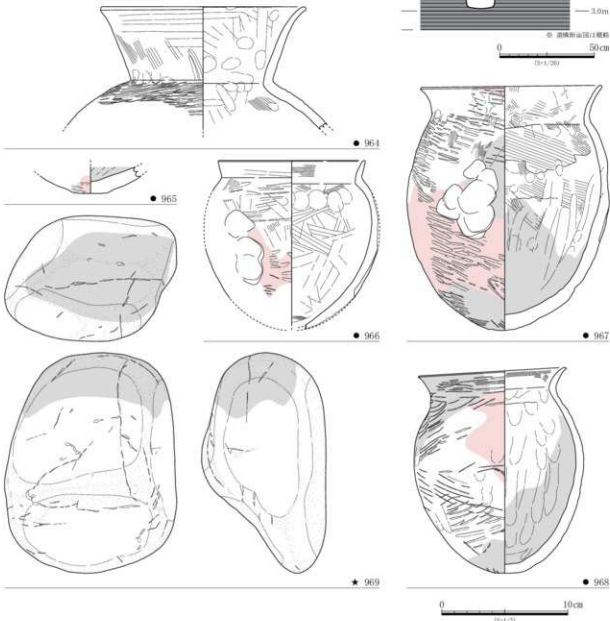
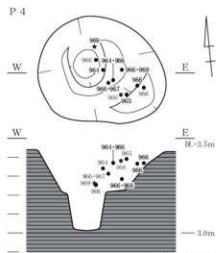


ST1P4 遺物出土状態: 967-968

ST1P4

本遺構の北西に位置する。検出高は3.44mを測る。平面形態は歪な垂円形状を呈し、長径68cm、短径59cmを測る。竪穴住居状遺構を構成する主柱穴の1つと考えられ、断面形態は漏斗状を成して深さは43cmを遺存するなど、立柱に適した形状を有している。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片255点(964～968)を出土している。遺物の埋存状況等から帰属遺構(竪穴住居状遺構)廃絶後の意図的な遺棄(埋納：一次廃物)の可能性が考慮され、出土した礫(969)には煤が認められる。

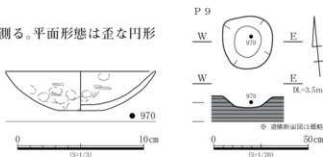


第 65 図 ST1 P4 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)

ST1 P9

本遺構の南西に位置する。検出高は3.43mを測る。平面形態は歪な円形状を呈し、長・短径共に29cmを測る。断面形態は凹状を成して深さは7cmを遺存している。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

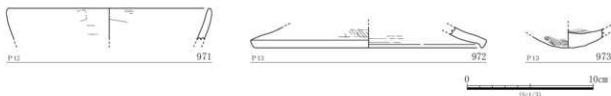
遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片9点(970)を出土している。



第66図 ST1 P9 遺構平面図・断面図(S=1/20) 出土遺物実測図(S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)	検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版番号
ST1 P10	歪円形状	51 45 9	3.470	褐色シルト	—	GIX-4	弥生土器(摩耗) 3点	
ST1 P11	歪円形状	42 34 6	3.419	黒褐色シルト	—	HVI-9・13	弥生土器(摩耗) 1点	
ST1 P12	楕円形状	68 50 13	3.401	黒褐色シルト	—	HVI-6・7・10・11	弥生土器(摩耗) 8点	971
ST1 P13	歪円形状	45 38 16	3.394	黒褐色シルト	—	HVI-7	弥生土器 2点	972 973
ST1 P14	楕円形状	46 37 9	3.382	黒褐色シルト	—	HVI-12	弥生土器(摩耗) 5点	
ST1 P15	円形状	34 33 9	3.442	褐色シルト	ST1 SK2	HVI-16 / HIX-4	弥生土器(摩耗) 10点	
ST1 P16	円形状	36 34 15	3.432	黒褐色シルト	—	HIX-4	弥生土器(摩耗) 2点	
ST1 P17	円形状	52 51 10	3.402	黒褐色シルト	—	IX-5	弥生土器(摩耗) 3点	

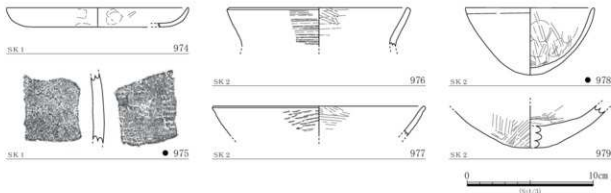
第6表 ST1 ピット状遺構 計測表



第67図 ST1 Pit状遺構 出土遺物実測図(S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (m/cm)	検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版番号
ST1 SK1	歪円形状	1.20 0.82 15	3.449	黒褐色シルト	Pit 状遺構	GVII-4・8 HVI-1・5	弥生土器 11点	974-975
ST1 SK2	楕円形状	2.70 0.96 10	3.425	褐色シルト	ST1 P15	I VI-9・13 IX-1・5	弥生土器(摩耗) 39点	976-977 978-979

第7表 ST1 土坑状遺構 計測表



第68図 ST1 土坑状遺構 出土遺物実測図(S=1/3)

第3節 小括

弥生後期後葉に還元する竪穴住居状遺構などを検出した当遺跡は、物部川下流域東岸に形成される野市台地縁辺部(扇端部)に展開する弥生後期末～古墳初頭にかけての遺跡群(野口遺跡・射場屋敷遺跡等)との連関に蓋然性を求められる。当期は県内でも遺跡数が増加する時期に該当し、香長平野における連関には拠点的集落となる田村遺跡群の衰滅(後期中葉頃)を一因とする周辺地域への分布が指摘されている。

本試掘調査での成果は限定的で、具体的な空間配置や同時併存遺構の抽出等の遺跡形成に関わる集落構造の把握は能わなかったが、近接する当該期遺跡群との歴年代的な併行関係や可視関係を勘案すれば、周辺に集落跡が遺存している可能性が推測され、埋蔵文化財包蔵地範囲の再検討が用務となる。

土器型式での相対編年区分は概してヒビノキⅢ式の範疇に帰属し、主要な器種別の組成比率は当該期の一般的な傾向とほぼ一致していると推定される。また本調査において検出した竪穴住居状遺構は出土遺物の帰属時期から弥生後期後葉に位置付けられる。平面形態は隅丸方形を基調とし、床面中央附近に土坑状の中央ピットが設けられている配置も当該期の竪穴建物跡に報告例があるとされている。4本支柱による上部構造(上屋)を想定でき、床面積が約36㎡を測る中型の住居跡と考えられるが、棟持柱を有していた可能性を含め、中央土坑の火処(燃焼施設)としての機能の是非や多量の遺棄資料の出土等からST1の性格については今後検討を要する課題と思われる。該期を当遺跡の興起として捉え得るが、以降の継続的な考古資料は確認できず、弥生終末～古墳初頭には廃滅した集落跡と考察される。背景として古環境の不安定化や移行期における社会考古学的な再編などの可能性を推論する。また仁淀川河口城東岸の砂堆上に立地する仁ノ遺跡⁽¹⁾(高知市春野町)と出土遺物が類似するなど、関連性にも留意したい。

物部川下流域周辺は、調査事例の蓄積により当該期の土器編年や集落研究における変遷等の分析が近年整いつつある。その中に在って、低平な沖積扇状地の旧河道地形に扶まれた自然堤防上に立地する集落跡を検出した本遺跡は、定見となる段丘縁辺部に占地する高所偏重型の遺跡分布に上を思わせる例証としてその評価が課題となる。然るに本試掘調査においては、精査に要する期間などから十分な成果を整理し所収することは困難を伴い、実用に供する資料の提示には不備を否めず意を尽くし得ていない。本書では調査対象地における事実報告を要するに留め、後事に期したい。

【註】

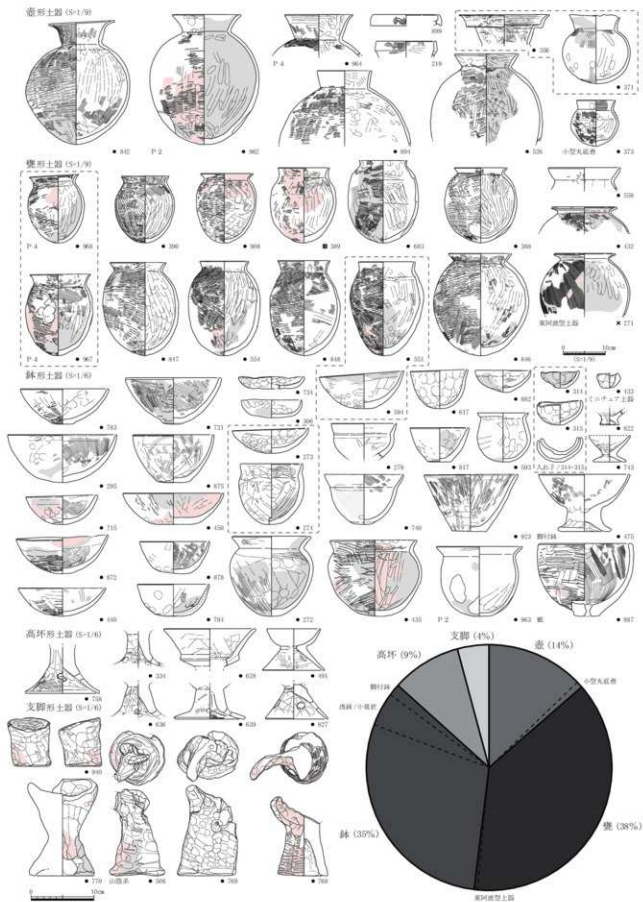
(1) 松村信博・徳平品「仁ノ遺跡発掘調

査報告書」春野町教育委員会2003年



ST1 遺物出土状態：543・555(壺)・591・592(鉢)・631(高杯)

第69図 ST1 出土遺物一括資料 (S=1/6)



第 70 図 ST 1 出土遺物資料 (S=1/6・1/9) 組成比率 (壺・甕・鉢・高環・支脚形土器)

遺物觀察表

遺物観察表凡例

1. 法量の () は残存値、[] は復元値である。単位はcm。

図版番号	出土遺構(部位)	器種・器部	図量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	直径			
183 (Ⅰ3)	TR 6 (横出)	灰土器 環身	[12.3]	2.9	[7.8]	内) 黄灰 外) 灰白	精造された胎土。回転ナズ調整。体部は低く筒状に立上り、狭いナズにより外面に凹状の段を成す。受け縁は外方にゆるび端部は丸く収める。立上りはやや内傾し、端部は丸く収める。	
189 (Ⅱ12B)	TR 5 SX 3	赤生土器 部環身	-	(2.0)	-	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。分粒成肌。	全体的に摩耗
190 (Ⅱ12)	TR 5 SX 3	赤生土器	-	(1.7)	[1.4]	内) 灰白 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を指向する。	底面外部に僅け 全体的に摩耗
191 (Ⅱ12B)	TR 5 SX 3	赤土器 (胴部)	-	(3.4)	-	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。外面の平行帯目をハケ状状態で調整。内面に同心円状の当具痕。	全体的に摩耗
192 (Ⅱ12B)	TR 5 SX 3	土師質土器 埴	[13.8]	(4.8)	6.7	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。体部は縁や口に立上り、口縁端部は丸く収める。内面はハケ状原形による調整。内底面端部は凹(窪込み)状を成す。円盤状高台。底部回転軸切断。	平高台埴 100後半～110前期 全体的に摩耗
193 (Ⅱ12B)	TR 5 SX 14	赤生土器 壺	-	(11.1)	-	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に僅け・粘熱風 全体的に若干摩耗
194 (Ⅱ12B)	TR 5 SX 14	赤生土器 壺	-	(1.8)	[2.0]	内) 黄 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を指向する。	内面に僅け
195 (Ⅱ12B)	TR 5 SX 14	赤生土器 (底部)	-	(2.1)	[2.8]	内) 灰黄 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	外面に僅け 全体的に摩耗
196 (Ⅱ12B)	TR 5 SD 2	灰土器 (胴部)	-	(3.8)	-	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。外面の平行帯目をハケ状状態で調整。内面に同心円状の当具痕。	全体的に摩耗
197 (Ⅱ12B)	TR 6 SD 1	灰土器 (胴部)	-	(4.0)	-	内) 灰 外) 灰	精造された胎土。外面の平行帯目をハケ状状態で調整。内面に同心円状の当具痕。断面は赤灰色。	全く摩耗なし
198 (Ⅱ12B)	TR 6 SD 1	赤生土器 鉢	[17.6]	(1.2)	-	内) 黄灰 外) 灰白	精造された胎土。口縁部はラップ状に開き、端部は面を成る。	内外面に僅け
199 (Ⅱ12B)	TR 6 SD 1	赤生土器 鉢	[14.4]	(4.0)	-	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオナズへラミガキ。体部は縁状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
200 (Ⅱ12B)	TR 6 SD 1	赤生土器 (底部)	-	(1.9)	[3.3]	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は黄ハケ調整。底部は平底状(粘土層を貼付した可能性)。	
201 (Ⅱ13B)	TR 6 SD 1	赤生土器 (底部)	-	(1.5)	[2.8]	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
202 (Ⅱ13B)	TR 6 SD 1	土師質土器 鉢	-	(1.6)	[6.0]	内) 橙 外) 橙	精造された胎土。円盤状高台。	全体的に若干摩耗
203 (Ⅱ14B)	TR 6 SD 1	赤土器 (胴部)	-	(10.7)	-	内) 黄灰 外) 灰白	精造された胎土。外面の叩目をハケ状状態で調整。内面に同心円状の当具痕。外面に自然痕。	全く摩耗なし
204 (Ⅱ14B)	TR 6 P 211	赤生土器 壺	[18.8]	(8.9)	-	内) 灰黄 外) 灰黄	雲母片等を含む精造された胎土。口縁部はラップ状に開き、端部は面を成る。口縁端部に粘土層を貼付。	
205 (Ⅱ15B)	TR 6 P 211	赤生土器 支脚	-	(2.0)	[6.4]	内) 灰白 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺り痕。断面は上げ底状の可能性を有し、端部は丸く収める。手摺成肌。	全体的に若干摩耗
206 (Ⅱ16B)	ST 1 (上面)	灰土器 (口縁部)	[11.2]	(1.2)	-	内) 灰 外) 灰	精造された胎土。回転ナズ調整。口縁部はラップ状に開き、端部は丸状に面を成る。	
207 (Ⅱ16B)	ST 1 (上面)	赤土器 弁	[10.6]	(1.1)	-	内) 灰 外) 灰	精造された胎土。回転ナズ調整。口縁部は丸く収める。	
208 (Ⅱ16B)	ST 1 (上面)	土師質土器 (底部)	-	(1.5)	[4.8]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部の円盤状高台は赤酸化し、断面に粘土帯接合痕(貼付)。	全体的に摩耗
209 (Ⅱ16B)	ST 1 (上面)	土師質土器 (底部)	-	(0.9)	[3.9]	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。輪高台状。	全体的に摩耗
210 (Ⅱ16B)	ST 1 (上面)	土師質土器 所/小皿	-	(0.4)	[5.4]	内) 橙 外) 橙	精造された胎土。内底面に凹状のロクロ目痕を有するが、摩耗により不明瞭。底部回転軸切断。	全体的に摩耗
211 (Ⅱ16B)	ST 1 (上面)	土師質土器 弁	-	(1.0)	[8.8]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。	全体的に摩耗
212 (Ⅱ17B)	ST 1 (上面)	灰土器 高弁	-	(8.3)	-	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。回転ナズ調整。断面外部にハケ状原形による条痕(又縁化)。	
213 (Ⅱ17B)	ST 1 (上面)	赤土器 皿	[12.4]	(1.9)	-	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。回転ナズ調整。口縁端部は丸く収める。	
214 (Ⅱ17B)	ST 1 (上面)	灰土器 弁	[12.0]	3.0	[6.4]	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。回転ナズ調整(ロクロ目痕)。	
215 (Ⅱ17B)	ST 1 (上面)	赤土器 (胴部)	-	(6.0)	-	内) 灰白 外) 灰白	精造された胎土。外面の帯目状をハケ状状態で調整。内面は同心円状の当具痕をナズで消す。断面は赤灰色。	
216 (Ⅱ17B)	ST 1 (上面)	赤土器 埴	-	(0.6)	-	内) 黄灰 外) 暗灰	精造された胎土。回転ナズ調整。底部回転軸切断。断面は赤灰色。	
217 (Ⅱ25B)	ST 1 (周上段)	赤生土器 壺	[14.0]	(0.9)	-	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は上下に拡張し面を成る。	外面に僅け
218 (Ⅱ25B)	ST 1 (周上段)	赤生土器 壺	[15.9]	(1.8)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取って僅かに下方へ突出す。	
219 (Ⅱ25B)	ST 1 (周上段)	赤生土器 壺	[14.0]	(3.5)	-	内) 灰白 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は黄ハケ調整。粘土帯接合部を縦ハケで消す。口縁部は受け口状でやや内傾気味に立上る粘土層を付加し、端部は丸状に面を成る。	二次口縁

第8表 遺物観察表 1

回収 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	度量			色 調	特 徴	備 考
			口径	器高	底径			
220 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(13.4)	(3.4)	-	P0 灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。口縁部は外縁して立上り。底部は面を取る。	内面に僅け
221 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(11.7)	(3.0)	-	P0 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラをナデで直す。内外面にヘラミガキ。口縁部は外縁し、底部は丸状に面を取る。	
222 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(14.6)	(2.3)	-	P0 灰黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はフラップ状に外反し、底部は僅かに面を取る。	
223 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(12.4)	(3.1)	-	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は丸く収める。	
224 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(14.8)	(2.3)	-	P0 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は丸く収める。	
225 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(2.3)	-	P0 ぶい黄緑 外) 壺	チャート、雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面に横ハケ調製。口縁部はフラップ状に反し、底部は若干窪み上がる。	
226 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(2.0)	-	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にヒビナデス。	
227 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(2.0)	[1.0]	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は丸底状を成す。	
228 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(0.0)	-	P0 壺 外) 壺	チャート等の細粒砂を含む積層された粘土。外面はハケ調製。胴部は椎円形状を呈する。	小形丸底壺 全体の摩耗
229 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(12.8)	(19.5)	2.4	P0 灰黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にヘラミガキ。口縁部は縁やかに外反し、底部は小さく丸める。胴部中央に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け・被熱 茶縁合資料/復元図
230 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(13.1)	(3.0)	-	P0 ぶい黄緑 外) 壺	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
231 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(14.0)	(1.9)	-	P0 灰黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面に横ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
232 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(14.0)	(2.0)	-	P0 灰黄緑 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部は「く」字形に外反し、丸状に面を取る。	
233 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(14.6)	(2.2)	-	P0 ぶい黄緑 外) 壺	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は面を取って僅かに下方向へ突出する。	
234 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(12.6)	(7.7)	-	P0 黄灰 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にヒビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、底部は面を取る。	
235 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(21.6)	(12.9)	-	P0 ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にハケをナデで直す。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸く収める。	粘土層接合部で破損
236 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(15.4)	(6.7)	-	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面に縦ハケをナデで直す。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
237 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(16.0)	(4.5)	-	P0 灰白 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部は粘土層を貼付して外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
238 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(12.4)	(2.4)	-	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
239 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺/鉢	(11.2)	(3.5)	-	P0 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸く収める。	内外面に僅け 鉢形土器の可能性
240 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(12.5)	(3.2)	-	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
241 (R250)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(21.4)	(2.0)	-	P0 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部はフラップ状に開き、底部は小さく丸める。	全体の摩耗
242 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(21.0)	(3.2)	-	P0 ぶい黄緑 外) 壺	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面に横ハケ調製。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸く収める。	全体の摩耗
243 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(20.0)	(1.9)	-	P0 浅黄緑 外) 壺	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はフラップ状に開き、底部は僅かに上下に拡張し、面を取る。	
244 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	(18.4)	(2.1)	-	P0 ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面に横ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は僅かに面を取る。	
245 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(3.2)	-	P0 灰白 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。	
246 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(3.7)	-	P0 ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にヒビナデス。	
247 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(3.2)	-	P0 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は有縁を成す。	器表の荒れが激しい
248 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(4.5)	-	P0 ぶい黄緑 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。	外面に僅け
249 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(3.7)	-	P0 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。	全体の摩耗
250 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(4.4)	-	P0 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。口縁部は逆「ハ」字形に外反。	全体の摩耗
251 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(10.1)	-	P0 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にヒビナデ。	外面に僅け・被熱
252 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 壺	-	(7.0)	-	P0 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目直。内面にヒビナデ。	全体の若干摩耗

第9表 遺物観察表 2

図記 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量 (cm)			色 調	特 徴	備 考
			口径	高さ	直径			
353 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(3.4)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体の摩耗
354 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.8)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反し。	全体の摩耗
355 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(3.1)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反し。	全体の若干摩耗
356 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(3.6)	-	(内) ぶい黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は縦へく調整。	全体の摩耗
357 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.7)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体の若干摩耗
358 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(5.1)	-	(内) 黄灰 (外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦へく調整。底部粘土層結合部にユビオサス。	内面に僅け 全体の若干摩耗
359 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.2)	-	(内) ぶい黄緑 (外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体の若干摩耗
360 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.9)	[2.6]	(内) ぶい黄緑 (外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は横へく調整。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体の若干摩耗
361 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.4)	[1.6]	(内) 灰 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にユビオサス。底部は丸底状。	内面に僅け 全体の摩耗
362 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.4)	[2.8]	(内) 灰白 (外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。底部は平底状。	外面に僅け 全体の若干摩耗
363 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.2)	[2.9]	(内) 黄灰 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。外底面に印目状凹痕。底部は平底状を成す。	内面に僅け
364 (R260)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(2.3)	[2.5]	(内) 黒緑 (外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。外底面にへく状凹痕による圧痕(調整)。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け
365 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(4.0)	[1.6]	(内) 浅黄 (外) 緑灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面は縦へく調整。底部は丸底(尖底)。	外面に僅け
366 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(5.0)	5.4	(内) 黄灰 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をハケで消す。底部は丸底状。	内外面に僅け
367 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(3.2)	[2.8]	(内) 灰 (外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は丸底化を指向する。	全体の摩耗
368 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(10.0)	2.4	(内) 灰黄 (外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をハケで消す。内面は縦へく調整。底部は丸底状。	底部内外面に僅け
369 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	-	(6.7)	-	(内) 黄灰 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をハケで消す。内面は縦へく調整。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体の若干摩耗
370 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	[15.2]	(1.2)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	精選された胎土。口縁部はラップ状に屈曲し、端部は上方へ盛り上げる。	東区遺構土器 全体の若干摩耗
371 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 甕	14.2	(14.7)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	精選された胎土。外面は縦へく調整。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は上方へ盛り上げる。胴部は丸底状を成す。	外面に僅け-被動風 東区遺構土器
372 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[12.2]	12.8	1.6	(内) 黄灰 (外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。内面にユビオサス。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を切る。体部は鉢形状を呈し、底部は丸底状を成す。	胴部内外面に僅け 全体の若干摩耗
373 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	12.1	4.0	3.4	(内) ぶい黄 (外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビオサス。体部は浅鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	270と伴出性が高い
374 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.6]	9.7	3.6	(内) 灰黄 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の調整をナデで消す。口縁部内面は横へく調整。ユビオサス。口縁部は縦やかに外反し、端部は丸く収める。底部は丸底化を指向した平底状を成す。	内面に僅け-被動風 274と伴出性が高い
375 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[11.9]	(3.8)	[1.6]	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は浅鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	全体の摩耗
376 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[15.4]	(3.0)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の若干摩耗
377 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[15.9]	(3.2)	-	(内) 灰黄 (外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅け
378 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	-	(4.1)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の縦へく調整をナデで消す。体部は球形状を呈する。	外面に僅け
379 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[10.3]	(5.5)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄	チャート等の細粒砂を含む。内外面に横ナデヘラミガキ。丸みを帯びた体部から口縁部が縦やかに外反し、端部は丸く収める。	全体の若干摩耗
380 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[16.5]	(5.1)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は浅鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅け 全体の若干摩耗
381 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.0]	(1.9)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄	チャート等の細粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。口縁部は縦やかに外反し、端部は丸く収める。	全体の若干摩耗
382 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.7]	(2.8)	-	(内) 灰白 (外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の若干摩耗
383 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[16.9]	(3.7)	-	(内) 黄 (外) 明赤	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は縦へく調整。体部は浅鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅け
384 (R270)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.0]	(2.6)	-	(内) ぶい黄緑 (外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。体部は浅鉢形状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の若干摩耗

第10表 遺物観察表 3

遺物観察表

図記番号	出土遺構(層位)	器種器形	法量 (cm)			色 調	特 徴	備 考
			口径	器高	底径			
285 (R278)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[12.6]	[1.1]	-	(内) 灰黄褐色 (外) 埋	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は塊状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
286 (R278)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[15.8]	[2.0]	-	(内) 灰黄褐色 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面は縦ハケ調整。口縁部は陥凹反り気味に外反し、底部は丸く収める。	
287 (R280)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[17.4]	[5.5]	-	(内) 埋 (外) 埋	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
288 (R284)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[27.8]	[6.0]	-	(内) 灰 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
289 (R285)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[15.6]	[4.2]	-	(内) 浅黄褐色 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅け
290 (R286)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.8]	[3.7]	-	(内) 灰白 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
291 (R286)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.6]	[5.4]	-	(内) 淡黄褐色 (外) 淡黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。	全体の摩耗
292 (R290)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[16.6]	5.3	[9.6]	(内) 灰白 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。	外面に僅け 全体の摩耗
293 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[14.1]	5.6	5.0	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調整。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	
294 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[16.2]	5.8	4.9	(内) 浅黄褐色 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。	全体の摩耗
295 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[17.3]	7.6	2.0	(内) ぶい黄緑 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面は縦ハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。	外面に僅け
296 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.2]	[5.8]	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の若干摩耗
297 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.1]	4.3	[4.2]	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	外面に僅け
298 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	13.1	4.7	5.3	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	内面に薄く僅け
299 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[12.2]	4.7	0.6	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状(尖底状)を指向する。	底面に外面に僅け 全体の若干摩耗
300 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.2]	5.3	1.6	(内) 淡黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状(尖底状)を指向する。	全体の若干摩耗
301 (R294)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.4]	[2.1]	-	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は陥凹反り気味に外反し、底部は丸く収める。	全体の摩耗
302 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[10.6]	[4.0]	-	(内) 灰白 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁部は丸く収める。	
303 (R286)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.2]	[4.4]	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ・縦状。体部は塊状を呈し、口縁部は丸く収める。手挽お成り。	外面に僅け
304 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.6]	[3.2]	[2.6]	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。	
305 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.1]	2.6	2.7	(内) 灰白 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺正。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手挽お成り。	内外面に僅け 全体の若干摩耗
306 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.4]	2.9	7.0	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺正。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手挽お成り。	外面に僅け
307 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[7.8]	1.2	[5.4]	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺正。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手挽お成り。	全体の摩耗
308 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[12.2]	1.5	-	(内) 灰黄褐色 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。	
309 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[13.4]	[2.9]	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナブで磨す。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は僅かに凹状を成す。	底面に外面に僅け
310 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[9.8]	2.2	[7.4]	(内) 埋 (外) 埋	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指摺正。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。手挽お成り。	全体の摩耗
311 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[12.1]	2.0	[9.4]	(内) 埋 (外) 埋	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指摺正。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。手挽お成り。	
312 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[11.7]	2.7	6.2	(内) 淡黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成し、中央が凹んでいる。	全体の若干摩耗
313 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	[4.0]	[2.4]	-	(内) 灰黄褐色 (外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺正。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手挽お成り。	内外面に僅け ミニチュア状態
314 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	5.8	2.8	1.2	(内) 黄灰 (外) 埋灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺正。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。手挽お成り。	内外面に僅け 315と入れ子状態
315 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	6.7	3.9	1.4	(内) 浅黄褐色 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指摺正。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。手挽お成り。	外面に僅け 314と入れ子状態
316 (R289)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	-	[2.8]	1.6	(内) 灰白 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を指向する。	外面に僅け

第11表 遺物観察表 4

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
317 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	-	(2.6)	[2.2]	(内) ぶい黄緑 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向した平底状。	全体の若干摩耗
318 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	-	(2.6)	3.7	(内) 灰白 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の叩目をナブで磨す。底部は平底状を成す。	外面に僅け
319 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 鉢	-	(2.0)	[4.8]	(内) ぶい黄 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	
320 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (口縁部)	[20.4]	(2.8)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は「ハ」字形に外反し、端部は丸状に面を成す。	全体の摩耗
321 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(2.3)	[6.6]	(内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。底部は平底状を成す。	古型 全体の摩耗
322 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(2.4)	[7.3]	(内) 灰 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。底部は平底状。	内面に僅け 全体の若干摩耗
323 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(1.1)	3.0	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は薄い粘土層を貼付し、平底状を成す。	全体の若干摩耗
324 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(1.5)	[2.4]	(内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は縦へく調製。底部は平底状を成す。	
325 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(2.9)	[2.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。底部は丸底化を指向した平底状。	全体の若干摩耗
326 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(1.8)	[3.6]	(内) ぶい黄緑 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目面。底部は平底状を成す。	外面に僅け 全体の若干摩耗
327 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(1.7)	[1.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底を成す。	全体の摩耗
328 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 (底部)	-	(4.3)	[4.2]	(内) 灰白 外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目面。底部は平底状。	全体の摩耗
329 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	[20.8]	(3.1)	-	(内) 灰白 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダギ。杯部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
330 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(4.2)	-	(内) ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミダギ。杯部に粘土層を貼付し、有縁を成す。	全体の摩耗
331 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(4.5)	-	(内) ぶい黄緑 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダギ。杯部は有縁を成す。	全体の若干摩耗
332 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(4.2)	-	(内) 浅黄緑 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミダギ。脚部は「ハ」字形に開き、3箇所に孔径1.1cmの穿孔を有す。	低胎高弁
333 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(7.2)	-	(内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部外面及び杯部内面にヘラミダギ。内面に絞目面。脚部は縁やかに開き、穿孔を有す。	
334 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(5.2)	-	(内) 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミダギ。内面に絞目面。脚部は頸状を呈し、「ハ」字形に開く脚部の3箇所に孔径1.3cmの穿孔を有す。	全体の若干摩耗
335 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(2.1)	-	(内) 黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。	
336 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(2.3)	-	(内) ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。杯部内面は凸状を成す。	全体の摩耗
337 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(2.0)	-	(内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。	全体の摩耗
338 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(3.5)	[17.8]	(内) 黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。杯部は「ハ」字形に開き、端部は面を成す。	端部面に僅け 全体の摩耗
339 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(1.3)	[18.6]	(内) 灰白 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダギ。杯部は低平に開き、端部は丸く収める。	全体の摩耗
340 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(1.9)	[13.3]	(内) ぶい黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。杯部はフラップ状に開き、端部は丸く収める。	全体の若干摩耗
341 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(1.7)	[10.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。杯部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	全体の摩耗
342 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(2.0)	[17.9]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。杯部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	全体の摩耗
343 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(0.6)	[12.6]	(内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダギ。杯部は低平に開き、端部は丸く収める。	
344 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(1.4)	[7.8]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。杯部は低平に開き、端部は丸状に面を成す。	全体の摩耗
345 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(2.2)	-	(内) ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。杯部はフラップ状に開き、穿孔を有す。	全体の若干摩耗
346 (R298)	S T 1 (I層上段)	赤生土器 高弁	-	(3.5)	[14.6]	(内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。杯部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	全体の若干摩耗

第12表 遺物観察表 5

遺物観察表

図号 番号	出土遺構 (部位)	器種 器形	図量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
347 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 高杯	-	(3.0)	[13.4]	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダキ。胴部は「ハ」字形に開き。孔種1.0cmの穿孔を有す。	
348 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 高杯	-	(3.7)	[15.9]	内) 灰白 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。胴部は「ハ」字形に開き。底部は丸く収まる。	全体の摩耗
349 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 支脚	-	(1.8)	[6.2]	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部は上げ底状。	
350 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 支脚	-	(2.8)	[7.4]	内) 灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。	全体の若干摩耗
351 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 支脚	-	(3.0)	[8.4]	内) 灰 外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に指面直肌。脚部は円柱状を呈し、僅かに外反する。手把ね成肌。	
352 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 支脚	-	(7.8)	[9.6]	内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をナブで消す。内外面に指面直肌。胴部は縁やかに外反し。底面は平坦を成す。	外面に僅け 全体の若干摩耗
353 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 支脚	-	(4.9)	[9.0]	内) 灰白 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面に絞り目肌。脚部は縁やかに外反し。底部は縁取り気味に開いて底面は平坦を成す。	全体の摩耗
354 (R298)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 支脚	-	(3.6)	[7.8]	内) 灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。脚部は縁やかに外反し。底部は縁取り気味に開いて底面は平坦を成す。	内外面に僅け
356 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	21.4	(7.1)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダキ。口縁部内面に粘土帯を施す。外傾する胴部から口縁部は縦やかに外反し。底部は丸く収まる。	内面に僅け-被膜 縦や(二重)口縁部 371と伴出物が高い
357 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[16.4]	(6.1)	-	内) 明黄緑 外) 明黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目肌。内面はへく調整。口縁部はラッパ状に外反し。底部は丸く収まる。	全体の摩耗
358 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[18.2]	(3.3)	-	内) 明黄緑 外) 明黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。口縁部は外傾して立ち上り。底部は面を取る。	全体の摩耗
359 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[19.7]	(1.0)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。口縁部はラッパ状に開き。底部は上下に拡張して面を取る。	
360 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[21.4]	(2.2)	-	内) 黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。内面は縦へく調整。口縁部はラッパ状に外反し。底部は面を取る。	全体の摩耗
361 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[13.8]	(6.4)	-	内) 明黄緑 外) 明黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は外傾気味に立ち上り。底部は丸く収まる。	全体の摩耗
362 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[14.4]	(2.8)	-	内) ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目肌。内面に横へく調整。口縁部は外傾して立ち上り。底部は丸く収まる。	全体の若干摩耗
363 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[13.6]	(1.4)	-	内) 黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。ラッパ状に開き。底部は丸状に面を取る。	全体の摩耗
364 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[14.6]	(1.9)	-	内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミダキ。口縁部はラッパ状に外反し。底部は丸く収まる。	全体の若干摩耗
365 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[13.6]	(3.5)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し。底部は丸く収まる。	全体の若干摩耗
366 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(3.8)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目肌。	全体の摩耗
367 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(2.5)	-	内) ぶい黄緑 外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミダキ。	全体の摩耗
368 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(3.6)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目肌。	全体の摩耗
369 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(7.2)	-	内) 灰 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。内面は横へく調整。粘土帯接合面にユビオサヌ。	内面に僅け
370 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(2.6)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整-ヘラミダキ。内面の粘土帯接合面にユビオサヌ。	全体の摩耗
371 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	11.9	16.4	1.0	内) ぶい黄緑 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。内面にユビナブ。外底面にへく調整体による調整。球形の胴部から口縁部が縁やかに外反し。底部は丸く収まる。底面は丸底状が高い。	外面に僅け 小型丸底壺 358と伴出物が高い
372 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[9.6]	(5.7)	-	内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。内面の粘土帯接合面にユビオサヌ。丸みを帯びた体部から口縁部は外傾し。底部は丸く収まる。	全体の若干摩耗 小型丸底壺
373 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[9.0]	11.0	1.1	内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細粒砂を含む。外面は縦へく調整。口縁部内面は横へく調整。粘土帯接合面にナブで消す。丸みを帯びた胴部から口縁部が外傾し。底部は丸く収まる。底面は丸底状を指向する。	内面に僅け 小型丸底壺
374 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(8.3)	[3.4]	内) 灰 外) 浅黄緑	チャート等の細粒砂を含む。外面は縦へく調整。内面にユビナブ。外底面にへく調整体による調整。胴部は丸みを帯びた胴形状態を呈し。底面は丸底状を指向する。	内外面に僅け 小型丸底壺
375 (R300)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	-	(7.8)	[3.2]	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調整。内面は縦へく調整。粘土帯接合面にユビオサヌ。胴部は丸みを帯びて底面は丸底状を指向する。	底面に僅け 小型丸底壺
376 (R311)	S T 1 (1層上段)	赤生土器 壺	-	(30.4)	-	内) 明黄緑 外) 黄	チャート等の細粒砂を含む。胴部の最大径は36.2cm(底元径)を測る。	内面に僅け-僅け 全体の摩耗
377 (R311)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[15.6]	(1.5)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細粒砂を含む。外面に印目肌。内面に横へく調整。口縁部はラッパ状に開き。底部は丸状に面を取る。	外面に僅け
378 (R311)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 壺	[13.5]	(3.5)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目肌。内面に横へく調整。口縁部は縁やかに外反し。底部は丸状に面を取る。	外面に僅け

第13表 遺物観察表 6

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	度量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
379 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[11.3]	0.0	-	(内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は緩やかに外傾し、底部は丸く収める。	
380 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[10.8]	0.0	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体的に摩耗
381 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[8.2]	[11.0]	-	(内) 灰黄緑 外) 灰黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミダケ、内面にコピナダ/粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、底部は丸く収める。胴部中位に最大径。	外面に僅け
382 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[12.2]	0.0	-	(内) 黄灰 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は外傾して立上り、丸状に面を取る。	全体的に摩耗
383 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[13.0]	4.1	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体的に摩耗
384 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[10.7]	4.8	-	(内) 橙 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は緩やかに外傾し、底部は丸く収める。	外面に僅け 全体的に摩耗
385 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[19.6]	0.6	-	(内) 浅黄緑 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ-胴部は縦ハケ調整。口縁部は外傾し、底部は面を取る。	
386 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[16.0]	[11.4]	-	(内) 暗灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。	外面に若干摩耗 全体的に摩耗
387 (R3110)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[18.6]	28.6	1.3	(内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にコピナダ/ヘラミダケ、粘土帯接合痕にコピナダ。口縁部は緩やかに外反して外傾気味に立上り、底部は丸状に面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
388 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[12.3]	18.0	[0.4]	(内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にコピナダ。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸状に面を取る。胴部は球面状を呈し、中位に最大径。底部は丸底化を成す。	外面に僅け
389 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[12.2]	17.9	1.1	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は横ハケ-調整コピナダ。口縁部は粘土帯を接合して緩やかに外反し、底部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に被蝕痕 全体的に若干摩耗
390 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	11.2	16.0	1.0	(内) 橙 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をナダで消す。口縁部内面は横ハケ-胴部内面は縦ハケ調整。コピナダ。外底面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底を成す。	外面に薄く僅け
391 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[14.8]	22.3	[1.1]	(内) 灰白 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。下胴部の印目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ-胴部内面は縦ハケ調整/粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底化を成す。	底面外面に僅け 未接合資料/復元品
392 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[15.2]	[18.4]	-	(内) 黄灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ調整。内面にコピナダ。口縁部は「く」字形に広く外反し、底部は丸状に面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底化を成す。	内外面に僅け
393 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[13.2]	[7.4]	-	(内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にコピナダ。口縁部は緩やかに外反し、底部は丸く収める。	全体的に摩耗
394 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[14.7]	0.2	-	(内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は緩やかに外反し、底部は丸く収める。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
395 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[13.7]	0.2	-	(内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸く収める。胴部は粘土帯接合により肥厚する。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
396 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[12.6]	0.8	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ-胴部内面は縦ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸状に面を取る。胴部は粘土帯接合により肥厚する。	全体的に若干摩耗
397 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	[7.3]	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体的に摩耗
398 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.6	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。胴部は粘土帯接合により若干肥厚する。	全体的に若干摩耗
399 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.6	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反。胴部は若干肥厚する。	
400 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.8	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に粘土帯接合痕。	
401 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.7	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面はハケ調整。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に若干摩耗
402 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	[14.6]	[7.7]	-	(内) 黄灰 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
403 (R3220)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.6	-	(内) 黄灰 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にコピナダ。	全体的に若干摩耗
404 (R3330)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.2	-	(内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調整。胴部は粘土帯接合により若干肥厚する。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
405 (R3330)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	4.2	-	(内) 浅黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。胴部は粘土帯接合痕。	全体的に若干摩耗
406 (R3330)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	0.9	-	(内) 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体的に若干摩耗
407 (R3330)	S T 1 (I層下位)	弥生土器 甕	-	[19.6]	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。下胴部の印目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調整/粘土帯接合痕。	内外面に僅け

第14表 遺物観察表 7

図号 番号	出土遺構 (部位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
408 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	[14.2]	(11.5)	-	内) ぶい(橙 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面は横ハケ調整 「ユビナダ」。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸状に面を取る。	外面に僅け・被熱痕 全体的に若干摩耗
409 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	[9.4]	(11.0)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面にヘラズリ 。口縁部は短く縁やかに外反し、底部は丸く収める。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
410 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	[14.6]	(7.0)	-	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面は縦ハケ調整 。口縁部は粘土帯を貼付して外反し、底部は面を取る。	内外面に僅け 全体的に若干摩耗
411 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.8)	-	内) 灰黄褐 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	外面に被熱痕
412 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.0)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	全体的に摩耗
413 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(4.0)	-	内) 黄 外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	内外面に僅け
414 (R330R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(4.2)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面は横ハケ調整 。	全体的に摩耗
415 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(2.4)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	全体的に若干摩耗
416 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(4.6)	-	内) ぶい(橙) 外) ぶい(橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。口縁部は肥厚 して「く」字形に外反。底部には縁状線。	全体的に摩耗
417 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(14.5)	5.0	内) 灰黄褐 外) 灰褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に縦ハケをナ ダで磨す。内底面に指面直。底部は平底状を成す。	内外面に僅け 外面に被熱痕
418 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(12.5)	-	内) ぶい(橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。下脚部の印目をハ ケで磨す。内面にユビナダ。脚部中に最大径。	外面に薄い僅け
419 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(10.1)	-	内) 黄灰 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面にヘラズリ 。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け・被熱痕
420 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(4.9)	-	内) ぶい(橙) 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面は横ハケ調 整。底部は肥厚する。	全体的に摩耗
421 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(2.3)	[1.5]	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	外底面に僅け 全体的に若干摩耗
422 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(1.0)	1.0	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外底面に印目直。内底面にヘラズ リ。底部は丸底状を成す。	外底面に僅け 全体的に若干摩耗
423 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.1)	[3.1]	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで磨す。外底 面に印目直。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
424 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.0)	[2.4]	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。底部は丸底状 を成す。	全体的に摩耗
425 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.1)	1.6	内) ぶい(橙) 外) ぶい(橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。底部は丸底化を指 向する。	内外面に僅け 全体的に若干摩耗
426 (S40R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.0)	[4.2]	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナダで磨す。底部は 平底状。	内外面に僅け 全体的に若干摩耗
427 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.3)	[2.0]	内) ぶい(黄橙) 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。底部は丸底状を成 す。	外底面に僅け
428 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(3.0)	[5.4]	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナダで磨す。底部は 平底状を成す。	内外面に僅け
429 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(4.9)	[2.0]	内) 灰白 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで磨す。	外面に僅け
430 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(5.3)	[4.4]	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで磨す。内面 のハケ調整をナダで磨す。外底面に印目直。底部は平底状。	外面に薄い僅け 全体的に摩耗
431 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	-	(0.7)	[8.6]	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。底部は上げ底 状を呈し。底部は平底状を成す。	外面に薄い僅け 全体的に摩耗
432 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 壺	[16.2]	(6.0)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	精選された粘土。外面は縦ハケ調整・底部にはヘラミガキ。口縁部は 「く」字形に外反し、底部は上方へ縁み上げる。	内外面に僅け 東阿波型土器
433 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	[3.0]	2.4	0.9	内) ぶい(黄橙) 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指面直。底部は杯状を 呈し。口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手挽成形。	ミニチュア土器
434 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	5.2	4.0	0.6	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指面直。底部は杯状を 呈し。口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手挽成形。	外面に僅け
435 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	13.7	12.1	5.4	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面にユビナダ。 丸みを帯びた底部から口縁部は「く」字形に外反し、底部は部分 的に凹状を成す。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け・被熱 痕
436 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	[11.6]	(3.4)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に粘土帯接合 痕。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
437 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	[10.6]	(3.5)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に粘土帯接合 痕。口縁部は縁やかに外反し、底部は丸く収める。	全体的に摩耗
438 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	[11.7]	(3.3)	-	内) ぶい(黄橙) 外) ぶい(黄橙)	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。口縁部は縁や かに外反し、底部は丸く収める。	全体的に摩耗
439 (R340R)	S T 1 (I層下段)	赤生土器 鉢	[21.0]	(5.4)	-	内) 灰白 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナダで磨す。内面に ユビナダ。口縁部は縁やかに内反し、底部は丸く収める。	外面に僅け

第15表 遺物観察表 8

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
440 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	13.8	4.5	2.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。底部は丸底状を成す。	
441 (I層下段)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[1.4]	4.5	[3.4]	(内) に近い黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は杯状を呈し。口縁部は僅かに凹状を成す。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
442 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.1]	4.7	1.6	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。内底面にヘラ状部体による調整痕。底部は塊状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に僅け
443 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[10.0]	2.9	[2.9]	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は浅鉢状を呈し。口縁部は丸状に面を取る。底部は丸底化を指向する。	
444 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[10.2]	3.0	5.8	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は浅鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	
445 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	-	(6.3)	3.9	(内) に近い黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面の縦ハケをヘラミガキで消す。底部は平底状を成す。	外面に僅け
446 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[12.0]	5.6	2.0	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	外面に被熱痕
447 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.8]	(2.0)	-	(内) に近い黄褐色 (外) 灰黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にヘラミガキ。底部は浅鉢状を呈し。口縁部は塊状を呈し。口縁部は丸く収める。	外面に僅け
448 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.8]	5.7	[2.4]	(内) 灰白 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は杯状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	
449 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.2]	(5.0)	-	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は塊状を呈し。口縁部は丸く収める。	
450 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[16.0]	5.0	5.8	(内) 塊状 (外) に近い黄褐色	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に縦状痕。底部は浅鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け・被熱痕
451 (I層下段)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[13.0]	6.1	3.6	(内) に近い黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に縦ハケ調整。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	
452 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[13.2]	(4.8)	-	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。	
453 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[17.2]	5.2	[4.8]	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は浅鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
454 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.7]	(5.0)	[3.3]	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。外底面の印目をナブで消す。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。	
455 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[13.4]	(2.9)	-	(内) 塊状 (外) 塊状	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
456 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[16.8]	(5.0)	-	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は塊状を呈し。口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
457 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[15.0]	(5.1)	-	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。内面にコビオサエ。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸状に面を取る。	
458 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.7]	(2.2)	-	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
459 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[9.3]	(3.2)	-	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は鉢状を呈し。口縁部は丸く収める。	
460 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[16.0]	(4.5)	-	(内) 灰白 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にコビオサエ。底部は塊状を呈し。口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
461 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[15.2]	(3.4)	-	(内) 灰白 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は塊状を呈し。口縁部は丸く収める。	
462 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[10.3]	(6.0)	-	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に縦状痕。内面にヘラミガキ。底部は杯状を呈し。口縁部は丸く収める。	外面に僅け
463 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[10.0]	2.3	[6.7]	(内) 灰白 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指面調整痕。底部は小皿状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
464 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[10.0]	2.4	[0.8]	(内) 塊状 (外) 塊状	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は縦ハケ調整。底部は丸底状を呈し。口縁部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
465 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[8.5]	2.5	3.6	(内) に近い黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にコビオサエ。底部は小皿状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は薄し粘土を貼付して平底状を成す。	
466 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[9.7]	2.3	[5.2]	(内) 塊状 (外) に近い黄褐色	チャート等の細粒砂を含む。内外面に指面調整痕。底部は小皿状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
467 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[11.0]	1.6	[8.0]	(内) 灰黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細粒砂を含む。内面に指面調整痕。底部は小皿状を呈し。口縁部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
468 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	[14.4]	2.5	[10.8]	(内) に近い黄褐色 (外) に近い黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は小皿状を呈し。口縁部は互縁状に肥厚する。底部は平底状。	
469 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	-	(1.9)	3.8	(内) に近い黄褐色 (外) 灰黄褐色	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にヘラミガキ。底部は平底状を成す。	外底面に僅け
470 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	-	(1.9)	[1.8]	(内) 塊状 (外) 塊状	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に縦ハケ調整。底部は平底状。	
471 (3635R)	S T 1 (I層下段)	弥生土器 鉢	-	(1.7)	[4.0]	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄褐色	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。外面に指面調整痕。底部は平底状を成す。手捏ね成形。	

第16表 遺物観察表 9

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
472 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 鉢	-	(2.6)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。	
473 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 鉢	-	(3.3)	3.8	(内) 焼 外) 焼	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目皿。底部は丸底状を指向する。	全体の摩耗
474 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 鉢	-	(4.0)	3.8	(内) ぶい黄緑 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にコビザク。底部は薄い粘土盤を貼付して平底状を成す。	
475 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 鉢	[14.3]	9.1	8.0	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外部に叩目皿ハケ調整。胴部内面に指頭注流。坪部は塊状を呈し、端部は丸状に面を取る。底仕状の脚部は上げ底状を成し、鞍部は丸く収める。	脚付鉢
476 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(9.0)	3.3	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は丸底化を指向する。	全体の摩耗
477 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (下部部)	-	(4.3)	-	(内) 明黄緑 外) 焼	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は丸底化を指向する。	全体の摩耗
478 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(3.8)	[3.8]	(内) ぶい黄緑 外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目皿。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体の摩耗
479 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(3.3)	3.1	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目皿。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体の摩耗
480 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.7)	[2.5]	(内) 焼 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目皿。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。外面にヘラ調整による跡付あり。	外底部に僅け 全体の摩耗
481 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.1)	2.7	(内) ぶい黄 外) ぶい黄	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体の摩耗
482 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.7)	0.6	(内) 焼 外) 焼	チャート等の細-粗粒砂を含む。底径は丸底(実)状を成す。	全体の若干摩耗
483 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.5)	[0.7]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	全体の摩耗
484 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.0)	[4.5]	(内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体の若干摩耗
485 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(2.4)	[4.2]	(内) 灰 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	内面に僅け
486 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.9)	[4.4]	(内) 灰 外) 焼	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向した平底状。	内面に僅け
487 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.2)	[3.6]	(内) ぶい黄緑 外) 灰黄	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。底部は平底状。	外底部に僅け 全体の若干摩耗
488 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(1.5)	0.9	(内) ぶい黄 外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指頭注流。底部は丸底状を指向する。手摺ね成肌。	
489 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (底部)	-	(2.6)	2.4	(内) 焼 外) 焼	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面に丸底化調整コビザク。底部は平底状を成す。	全体の摩耗
490 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 (脚部)	-	(7.0)	-	(内) 灰黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目皿。内面に丸ハケ調整ヘラミガキ。	外面に僅け
491 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	[9.8]	[6.3]	[9.5]	(内) 浅黄緑 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坪部は塊状を呈し、脚部は「ハ」字形に開く。分割成形。	未接合資料/復元図
492 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(3.6)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。坪部は有稜を成す。	全体の摩耗
493 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	[8.9]	(2.7)	-	(内) 浅黄緑 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坪部は塊状を呈し、端部は丸く収まる。	全体の若干摩耗
494 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(4.5)	-	(内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。坪部は有稜を成す。	全体の摩耗
495 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(3.7)	-	(内) ぶい黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。	全体の若干摩耗
496 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(3.0)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。坪部は有稜を成す。	全体の摩耗
497 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(2.4)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。坪部は有稜を成す。	全体の摩耗
498 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(3.2)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。脚部は塊状を呈し、脚部は「ハ」字形に開いて内面に有稜を成す。分割成形。	全体の摩耗
499 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(6.2)	-	(内) ぶい黄 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面に絞り肌。脚部は塊状を呈し、脚部は「ハ」字形に開く。	外内面に僅け-熱傷
500 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(2.6)	-	(内) 浅黄緑 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部は「ハ」字形に開き、孔径1.0cmの穿孔を有す。分割成形。	全体の若干摩耗
501 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(3.3)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面底部に粘土盤を充填。脚部は「ハ」字形に開き、孔径0.9cmの穿孔を有す。分割成形。	全体の摩耗
502 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(1.5)	[11.1]	(内) 浅黄緑 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は丸底化調整。内面は丸底化調整。脚部はラッパ状に開き、端部は丸く収める。	全体の摩耗
503 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(3.2)	[25.0]	(内) 焼 外) 焼	チャート等の細粒砂を含む。外面は丸ハケ調整。脚部は大きく開き、端部は丸く収める。	全体の摩耗
504 (R3650)	S T 1 (1層下位)	養生土器 高弁	-	(6.2)	[24.8]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。脚部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	外面に僅け

第17表 遺物観察表 10

図版 番号	出土遺構 (部位)	器種 器形	度量			色黄	特徴	備考
			口径	器高	底径			
905 (第360)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 高杯	-	(1.7)	-	PD 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部は上げ底状。	全体的に若干摩耗
906 (第361)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 高杯	-	(4.4)	[12.0]	PD 黄褐色 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指痕三痕。脚部は「ハ」 字形に外傾し、底部は扇状に開く。手取ね成肌。	外面に僅け
907 (第362)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 支脚	-	(2.9)	-	PD 外) 外) 埋灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に指痕三痕。断面に粘土帯接 合肌。脚部は上げ底状。手取ね成肌。	外面に僅け
908 (第363)	S T 1 (1層下段)	赤生土器 支脚	-	(13.8)	8.6	PD ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細粒砂を含む。内外面に指痕三痕(約3/4中空)。外面に ハケ状突起による調整肌。内面に紋目。体部は約3/4中空。体 部に穿孔孔(未貫通)。脚部は「ハ」字形に開く。	外面に僅け-被熱痕 成或強熱 山陰土の可能性
909 (第370)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 支脚	-	(12.0)	[7.0]	PD 灰黄 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕-指痕三痕。内面に 紋目。体部は中空で、脚部は上げ底状。指穴受け部は欠損。	外面に僅け 脚部部に被熱痕
919 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[16.2]	(1.5)	-	PD 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、底部は 面を取って僅かに下方へ突出す。	内面に僅け
920 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[20.8]	(1.3)	-	PD 埋 外) 埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調整。口縁部はラッ プ状に開き、底部は面を取って僅かに下方へ突出す。	内面に僅け
921 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[20.0]	(1.2)	-	PD ぶい黄緑 外) ぶい埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調整。口縁部はラッ プ状に開き、底部は面を取って僅かに下方へ突出す。	内面に僅け
922 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[20.2]	(2.5)	-	PD ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に外反し、底部 は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
923 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[12.0]	(1.8)	-	PD 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部はラップ状 に外反し、底部は面を取る。	内面に僅い僅け 全体的に若干摩耗
924 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[11.7]	(2.0)	-	PD 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にニビオサエ。口縁部はラッ プ状に外反し、底部は僅かに下方に拡張し面を取る。	内面に僅い僅け 全体的に若干摩耗
925 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[9.1]	(0.6)	-	PD 埋灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は僅やかに 外傾し、底部は丸く収める。	内面に僅い僅け 全体的に若干摩耗
926 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[15.0]	(2.4)	-	PD 埋灰 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をナブで消す。内面に ニビオサ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は面を取る。	内面に僅け
927 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[11.7]	[25.9]	-	PD 灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は僅やかに 外反し、底部は丸く収める。胴部中位に最大径。	内外面に僅け
928 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(14.5)	-	PD 黄灰 外) 埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面 にニビオサ。	内面に僅け
929 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	[17.2]	-	PD 灰白 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にニビオサ。	外側に僅け 外面に被熱痕
930 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(3.6)	-	PD 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。	全体的に摩耗
931 (第390)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(2.3)	-	PD 埋 外) 埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は印目を縦ハケで消す。	全体的に若干摩耗
932 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(0.5)	-	PD 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。肩部に粘土帯接合肌。	全体的に摩耗
933 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(3.9)	-	PD ぶい黄緑 外) 埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は縦ハケ 調整。	全体的に若干摩耗
934 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(4.0)	-	PD 灰黄緑 外) 灰黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面 に粘土帯接合肌。	内外面に僅け
935 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(3.6)	-	PD 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面 に粘土帯接合肌。	全体的に摩耗
936 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(2.0)	-	PD ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面に粘土帯 接合肌。	全体的に若干摩耗
937 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(4.4)	-	PD 灰 外) ぶい埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に若干摩耗
938 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(4.0)	-	PD 埋 外) ぶい埋	チャート等の細粒砂を含む。外面に印目痕。断面は粘土帯を露出 し肥する。	全体的に摩耗
939 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(2.7)	[5.4]	PD 浅黄緑 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面にニビオ サエ。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
940 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(2.4)	[6.4]	PD ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
941 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(2.1)	[4.6]	PD ぶい黄緑 外) ぶい埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
942 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	-	(1.4)	[10.0]	PD 埋灰 外) 埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。外底 面に印目状圧痕。底部は平底状。	内面に僅け
943 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	13.8	19.6	2.1	PD ぶい埋 外) 埋灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にニビオサ。 口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸状に面を取る。胴部中位 に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け 555-591-092-631と 一部性が高い
944 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	12.3	21.0	0.8	PD ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にニビオサ。 口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸状に面を取る。胴部中位 に最大径。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
945 (第400)	S T 1 (2層上段)	赤生土器 盥	[14.6]	(2.4)	-	PD ぶい黄緑 外) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、底 部は丸く収める。	全体的に摩耗

第18表 遺物観察表 11

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
546 (Ⅸ400)	ST 1 (Ⅸ400)	赤生土器 壺	[13.2]	(2.9)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は丸状に面を収める。	
547 (Ⅸ400)	ST 1 (Ⅸ400)	赤生土器 壺	[12.6]	(3.0)	-	内) 橙 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	
548 (Ⅸ400)	ST 1 (Ⅸ400)	赤生土器 壺	[14.8]	(5.7)	-	内) 橙 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調製。口縁部は如意状に外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
549 (Ⅸ400)	ST 1 (Ⅸ400)	赤生土器 壺	[13.3]	(5.4)	-	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にユビナダ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
550 (Ⅸ400)	ST 1 (Ⅸ400)	赤生土器 壺	[12.8]	(4.0)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は縁やかに外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
551 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[13.2]	22.4	4.0	内) ぶい橙 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にユビナダ。肩部の粘土帯接合部に印目痕。底部は印目状圧痕。口縁部は縁やかに外反。胴部中上位に最大径。底部は丸底化を指向する。	全体の若干摩耗 504-509と伴出性が 高い
552 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[15.8]	(20.0)	-	内) 浅黄 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にユビナダ。肩部にユビナダヘタケズリ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を収める。	全体の若干摩耗
553 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[20.6]	(3.0)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
554 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[11.5]	22.5	[2.4]	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にユビナダ。口縁部は縁やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中上位に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け 外側に酸蝕痕 未接合資料/復元図
555 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	12.1	13.6	4.1	内) オリーブ系 外) 浅黄褐	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目をユビナダで消す。内面にユビナダ。外底面に印目状圧痕(調製)。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胴部中上位に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け 543-551-592-631と 一貫性が高い/完存
556 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[14.4]	(2.4)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
557 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[16.1]	(1.9)	-	内) ぶい黄緑 外) 浅黄褐	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は外傾し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
558 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[17.0]	(5.2)	-	内) ぶい橙 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は内傾し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
559 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[14.3]	(5.8)	-	内) ぶい橙 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面はハケ調製。口縁部は如意状に外反し、端部は丸く収める。	
560 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[10.4]	(5.3)	-	内) 黄灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面に縦ハケ調製。口縁部は如意状に外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
561 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	-	[15.7]	-	内) 浅黄褐 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面にユビナダ。胴部は球形状を呈する。底部は丸底化。	底部外面に僅け 未接合資料/復元図
562 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	[12.2]	(4.0)	-	内) 灰白 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体の摩耗
563 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	-	(4.0)	-	内) ぶい橙 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	
564 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	-	(2.2)	-	内) 明黄褐 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は「く」字形に外反。	全体の摩耗
565 (Ⅸ410)	ST 1 (Ⅸ410)	赤生土器 壺	-	(3.5)	-	内) 灰黄褐 外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面に粘土帯接合痕。	全体の若干摩耗
566 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(3.1)	-	内) 灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は横ハケ調製。	内面に僅け 全体の若干摩耗
567 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(3.8)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。端部は「く」字形に外反。	
568 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(5.0)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調製。	全体の摩耗
569 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(5.6)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体の摩耗
570 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(4.5)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。	内面に薄け 全体の若干摩耗
571 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(5.3)	-	内) 浅黄褐 外) 浅黄褐	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体の摩耗
572 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(3.1)	-	内) 灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は横ハケ調製。	全体の若干摩耗
573 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(3.9)	-	内) ぶい橙 外) ぶい橙	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体の摩耗
574 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(4.2)	-	内) ぶい橙 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体の摩耗
575 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(4.0)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調製。粘土帯接合痕。	
576 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(2.3)	-	内) ぶい橙 外) ぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面はハケ調製。	
577 (Ⅸ420)	ST 1 (Ⅸ420)	赤生土器 壺	-	(2.9)	-	内) 橙 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面はハケ調製。	

第19表 遺物観察表 12

図版番号	出土遺構(部位)	器種器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
576 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(6.3)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調製・粘土帯接合痕。	全体の摩耗
579 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(6.6)	-	内) 灰黄緑 外) 灰黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にコビナダ。	全体の若干摩耗
580 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(11.8)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。	外面に僅け 全体の摩耗
581 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(10.8)	-	内) 褐色 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。	外面に僅け 全体の若干摩耗
582 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(3.8)	-	内) 灰黄緑 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は縦ハケ調製・粘土帯接合痕。	全体の摩耗
583 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(4.5)	-	内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は尖底状を成す。	全体の摩耗
584 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(4.6)	-	内) ぶい黄緑 外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。底部は丸底状を成す。	外面に僅け 全体の若干摩耗
585 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(8.6)	[4.0]	内) 橙 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調製。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け
586 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(8.2)	[2.4]	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	外面に僅け 全体の摩耗
587 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(2.1)	[2.8]	内) 浅黄緑 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体の若干摩耗
588 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(2.4)	[1.4]	内) 灰白 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は丸底化を指向する。	全体の摩耗
589 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(2.7)	[4.0]	内) 灰 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。外底部に印目状圧痕(調製)。底部は平底状。	全体の若干摩耗
590 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(1.9)	[3.6]	内) 灰黄緑 外) 緑灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外底部に印目状圧痕。底部は丸底化を指向する。	全体の若干摩耗
591 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	13.2	10.4	2.4	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミダキ。丸みを帯びた体部から口縁部は僅かに内傾味に立上り、肩部は丸状に面を成す。底部は丸底状を成す。	外面に僅け 543-550-092-031と 伴出性が高い
592 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[1.4]	12.2	[4.1]	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にハケ状窪みによる調製痕。内面にコビナダ。丸みを帯びた体部から口縁部は「く」字型に外反し、肩部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に僅け・擦痕 543-550-091-031と 伴出性が高い
593 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[8.0]	7.8	2.1	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にコビナダ。中下位に最大径を有する丸みを帯びた体部から口縁部は強く外反し、肩部は丸く収めらる。底部は丸底状を成す。	全体の若干摩耗 外面面に僅け
594 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	13.3	6.0	3.4	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に縦状窪み。内面に縦状窪みによる調製・ヘラミダキ。外底部に薄い粘土帯を貼付する。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅け 543-596と伴出性が高い
595 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	15.1	8.1	1.0	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にコビナダ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収めらる。底部は丸底(尖底)状を成す。	551-594と伴出性が高い
596 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	13.4	6.4	3.2	内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は重凸鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向した平底状。	外面に僅け
597 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[12.8]	4.7	2.0	内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。体部は丸底化を指向する。	外面に薄く窪け
598 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[11.8]	(3.8)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に縦状窪み。内面にヘラミダキ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
599 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	11.2	4.1	1.8	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面にハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	全体の若干摩耗
600 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[4.0]	(4.5)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
601 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[14.6]	(3.8)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミダキ・粘土帯接合痕。体部は鉢状を呈し、口縁部は面を成す。	全体の若干摩耗
602 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[11.9]	(2.8)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の若干摩耗
603 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[17.3]	(3.0)	-	内) ぶい黄緑 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁部は弧状に面を成す。	全体の摩耗
604 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	-	(3.2)	-	内) 灰黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。口縁部内面は縦ハケ調製・内面は縦ハケ調製。	全体の摩耗
605 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[16.4]	(2.2)	-	内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。外面に縦状窪み。内面にヘラミダキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
606 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[7.7]	2.1	[3.8]	内) 浅黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細粒砂を含む。内面に指痕圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手挽成肌。	全体の摩耗
607 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[10.8]	2.5	[6.0]	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。	全体の摩耗
608 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[13.9]	(2.2)	-	内) 緑灰 外) 緑灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に縦ハケ調製・ヘラミダキ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面面に僅け
609 (第42回)	S T 1 (2層上段)	赤生土器	[10.6]	5.0	[4.4]	内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミダキ。内面は横ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の若干摩耗

第20表 遺物観察表 13

遺物観察表

図版番号	出土遺構(層位)	器種器形	度量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
610 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	[14.1]	(2.6)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指摺正直。底部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手摺ね成形。	全体の摩耗
611 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	[12.8]	(1.9)	-	内) 浅黄緑外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
612 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	[17.9]	(4.3)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
613 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	9.3	4.8	1.9	内) 橙外) ぶい(橙)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指摺正直。底部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。手摺ね成形。	
614 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	[11.4]	(2.1)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
615 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	[13.6]	(2.8)	-	内) 浅黄緑外) ぶい(橙)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に縦状痕。内面にヘラミガキ。底部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
616 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	5.9	3.7	2.3	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指摺正直。底部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手摺ね成形。	
617 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	8.9	6.2	2.1	内) 橙外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にコビオオニス。底部は鉢状を呈し、口縁部は僅かに外反して丸く収める。底部は丸底状を成す。手摺ね成形。	全体の摩耗
618 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	[11.0]	(4.1)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面に横ハケ調整。底部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体の摩耗
619 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(3.5)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をハケで消す。肩部は粘土層を貼付し、彫琢する。	全体の若干摩耗
620 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(3.7)	[2.0]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	外面に傷け
621 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(1.1)	[1.4]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	ミニチュア土器
622 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(1.3)	[4.4]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状。	外面に傷け 全体の摩耗
623 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(2.3)	[1.6]	内) 浅黄外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は丸底状を成す。	全体の若干摩耗
624 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(2.6)	[3.0]	内) ぶい(黄緑外) 反黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にハケ調整。	外面に傷け 全体の摩耗
625 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(2.4)	[5.8]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に薄い粘土層を貼付。底部は平底状を成す。	
626 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(2.7)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。底部部に粘土層を光澤。肩部は「ハ」字形に開く。	全体の摩耗
627 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器鉢	-	(2.6)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。肩部は「ハ」字形に開く。	全体の若干摩耗
628 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	[14.4]	(6.1)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は有縁を成して逆「ハ」字形に開き、肩部は丸く収める。分割成形。	全体の若干摩耗
629 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(1.9)	-	内) 浅黄外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。有縁を成す外底部。分割成形。	外面に傷け
630 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(5.5)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面に紋目痕。脚上部の粘土層をナデ潰す。脚部は筒状を呈し、「ハ」字形に開く基部の4箇所に孔径0.8cmの穿孔を有す。	全体の若干摩耗
631 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	20.6	14.2	12.6	内) 橙外) ぶい(橙)	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。底部は有縁を成して逆「ハ」字形に開き、肩部は丸く収める。脚上部に紋目痕。脚部は筒状を呈し、ラッパ状に開く基部の4箇所に孔径1cmの穿孔を有す。分割成形。	外部内外面に傷け 全体の若干摩耗 540-550-500-100と伴出性が高い
632 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(1.8)	-	内) 浅黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。分割成形。	全体の摩耗
633 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(4.7)	-	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラ状器体による調整痕。脚部は内柱状(中実)を呈す。	全体の若干摩耗 脚部付の可塑性
634 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(5.0)	-	内) 灰白外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。	全体の若干摩耗
635 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(2.7)	-	内) 浅黄緑外) 浅黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は有縁を成す。	全体の摩耗
636 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(5.2)	-	内) 浅黄緑外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ・ヘラケズリ。内面に紋目痕。粘土層を光澤。脚部は筒状を呈し、「ハ」字形に開く基部の2箇所に孔径0.9cmの穿孔が検出する。	外面に薄い傷け
637 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(1.3)	[17.6]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面に横ハケ調整。底部は低平に開き、肩部は丸く収める。	全体の摩耗
638 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(1.5)	[16.0]	内) 灰黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。肩部は低平に開き、肩部は丸く収める。	全体の若干摩耗
639 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器高杯	-	(5.3)	[10.7]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外部外面は縦ハケ調整。内面は横ハケ調整。脚部は筒状を呈し、ラッパ状に開く基部の4箇所に孔径1.3cmの穿孔を有す。	全体の若干摩耗
640 (3644B)	S T 1 (2層上段)	養生土器支脚	-	(3.9)	[7.6]	内) ぶい(黄緑外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指摺正直。肩部は「ハ」字形に開き、底部は丸みを帯びた平底状を成す。手摺ね成形。	全体の摩耗

第21表 遺物観察表 14

図版 番号	出土遺構 (部位)	器種 器形	度量			色澤	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
641 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層上段)	赤生土器 土器	-	(7.0)	(7.2)	内) 浅黄褐色 外) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面はナブ調整により突帯状を成す。胴部は「ハ」字形に開き、底部は玉縁状に肥厚する。	内外面に被熱痕 全体の若干摩耗
642 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層上段)	赤生土器 土器	-	(4.8)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に指摺瓦調。内面に押目瓦。胴部は「ハ」字形に開く。	全体の摩耗
646 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(17.2)	(6.0)	-	内) ぶい褐色 外) ぶい褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部外面の縦ハ状をナブで消す。胴部は「ハ」字形に開き、底部は「ク」字形に外反し、底部は丸状に面を成る。	全体の若干摩耗
647 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(15.0)	(1.1)	-	内) ぶい黄褐色 外) 反白	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部はラック状に開き、底部は隆起気味に丸く収める。	全体の摩耗
648 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(16.0)	(6.1)	-	内) 褐色 外) 褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は横ナブによる直口状から外傾し、底部は丸く収める。	全体の摩耗
649 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(11.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。胴部外面は縦ハ状調整。外面の押目を横ハ状で消す。内面は横ハ状調整。胴部は丸みに帯びる。	外表面に僅け 全体の摩耗
650 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(15.2)	(6.7)	-	内) 黄褐色 外) 褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は外傾し、底部は丸状に面を成る。	全体の摩耗
651 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(6.7)	-	内) ぶい黄褐色 外) 褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に押目瓦。内面に粘土帯接合痕。	全体の摩耗
652 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(12.4)	(3.9)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内外面にユビオサシ。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、底部は丸状に面を成る。	全体の摩耗
653 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(10.9)	(3.2)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内面にユビオサシ。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、底部は丸状に面を成る。	全体の摩耗
654 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(14.2)	(2.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は丸状に面を成る。	全体の摩耗
655 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(16.9)	(6.3)	-	内) 反白 外) 反白	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラノガキ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は面を成る。	外表面に被熱痕 全体の若干摩耗
656 (第458回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(13.4)	(6.4)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部内面にハ状突起による圧痕。内面にユビオサシ。口縁部は直口気味に立上り、底部は丸状に面を成る。	内外面に僅け 全体の若干摩耗 取らせる。
657 (第460回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(5.9)	(5.4)	内) 褐色 外) 褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にユビオサシ。底部は平底状。	全体の若干摩耗
658 (第460回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(11.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内面の縦ハ状をユビオサシで消す。胴部内面に粘土帯接合痕。	全体の摩耗
659 (第460回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(2.0)	(3.0)	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に横ハ状調整。内面にユビオサシ。底部は平底状。	全体の若干摩耗
660 (第460回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(2.0)	(2.5)	内) ぶい褐色 外) ぶい褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。底部は平底状を成す。	全体の摩耗
661 (第460回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(12.8)	(23.0)	-	内) 浅黄褐色 外) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の押目を横ハ状で消す。口縁部内面は横ハ状調整。胴部内面は縦ハ状調整。口縁部は「ク」字形又は緩やかに外傾し、底部は面を成る。胴部中位に最大径。	外表面に僅け-被熱痕
662 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(15.4)	(27.0)	3.6	内) 反黄 外) 反黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内面にユビオサシ。外底面に叩目状圧痕。口縁部は「ク」字形に外反し、底部は凹陥状を成す。胴部中位に最大径。底部は丸底気味を指向した平底状。	内外面に僅け
663 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(17.1)	(5.0)	-	内) 黄灰 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。口縁部内面は横ハ状調整。口縁部はラック状に開き、底部は丸く収める。	内外面に僅け 全体の若干摩耗
664 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(14.2)	(5.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。口縁部内面は横ハ状調整。胴部内面は縦ハ状調整。口縁部はラック状に開き、底部は丸く収める。	全体の摩耗
665 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(16.2)	(6.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内面にユビオサシ。口縁部は緩やかに外反し、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
666 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(16.4)	(3.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。口縁部は「ク」字形に外反し、底部は丸く収める。	全体の摩耗
667 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(13.6)	(7.2)	-	内) 浅黄褐色 外) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内面に横ハ状調整。口縁部は緩やかに外反し、底部は丸く収める。	外表面に僅け-被熱痕 668と同一個体
668 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(13.4)	4.4	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の押目を横ハ状で消す。内面は横ハ状調整をユビオサシで消す。胴部は丸底気味を指向する。	内外面に僅け 667と同一個体
669 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	-	(20.9)	(1.0)	内) 黄灰 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の押目をユビオサシで消す。内面にユビオサシ。底部は丸底状を成す。	内外面に僅け
670 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(13.2)	(2.0)	-	内) ぶい褐色 外) ぶい褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、底部は丸く収める。	内外面に僅け 全体の摩耗
671 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(15.0)	(2.7)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は外傾し、底部は丸く面を成る。	全体の若干摩耗
672 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(12.4)	(2.9)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目瓦。内面は横ハ状調整。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は面を成る。	全体の摩耗
673 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(12.4)	(4.3)	-	内) ぶい黄褐色 外) ぶい黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は横ハ状調整。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、底部は丸く収める。	全体の摩耗
674 (第47回)	S T 1 (Ⅱ層下段)	赤生土器 土器	(13.1)	(4.0)	-	内) ぶい黄褐色 外) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は緩やかに外反し、底部は面を成る。	内面に僅け 全体の若干摩耗

第22表 遺物観察表 15

遺物観察表

図号 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
675 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[11.8]	(4.4)	—	内) ぶい(埋 外) ぶい(埋)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
676 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[13.7]	(2.0)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部は「く」字形に軽く開き、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
677 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	16.8	(2.2)	—	内) ぶい(埋 外) ぶい(埋)	チャート等の細-粗粒砂を含む(種差された粘土)。内面は横ハケ調製。口縁部はラッパ状に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
678 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[14.0]	(2.0)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(埋)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面はハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	
679 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[15.0]	(2.4)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(埋)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
680 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[14.0]	(3.7)	—	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を収る。	
681 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[14.4]	(3.7)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
682 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[24.0]	(3.1)	—	内) 黄灰 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は縦ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
683 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[11.4]	19.7	1.6	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面にユビナダ-粘土層被覆。口縁部は軽く外反し、端部は丸く収める。	外面に僅け
684 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[11.2]	(6.0)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は縦や斜に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗 未接合資料/復元図
685 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[12.1]	(6.5)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。粘土層被覆にユビナダ。口縁部は僅かに内反しに立上り、端部は面を収る。	全体的に摩耗
686 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[12.6]	(5.8)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を収る。	外面に僅け
687 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[13.6]	(7.2)	—	内) ぶい(黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
688 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(7.9)	—	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面に縦ハケ調製。肩部は若干肥厚す。	全体的に若干摩耗
689 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(6.0)	—	内) ぶい(黄緑 外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面にハケ調製-ユビナダ。	外面に僅け
690 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(11.3)	[1.2]	内) 黄灰 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目をユビナダで消す。内面にユビナダ。底部は丸状。	内面に僅け 全体的に摩耗
691 (第48層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(8.6)	1.6	内) 黄灰 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。底部は丸底(丸底)状を成す。	外面に僅け-被蝕痕 全体的に若干摩耗
692 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[13.1]	(16.8)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面にヘラケズリ。口縁部は縦や斜に外反し、端部は丸く収める。	外面に僅け
693 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(7.3)	—	内) 浅黄緑 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。	全体的に摩耗
694 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	[15.2]	(6.4)	—	内) ぶい(埋 外) 埋	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部外面位は横ハケ-下位は縦ハケ調製。口縁部は受け口状から直口し、端部は面を収る。	二次口縁 全体的に若干摩耗
695 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(2.1)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。	全体的に若干摩耗
696 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(2.0)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面に粘土層被覆痕。	全体的に若干摩耗
697 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(2.8)	—	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。	全体的に摩耗
698 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(3.8)	—	内) ぶい(埋 外) ぶい(埋)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。	全体的に若干摩耗
699 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(3.4)	—	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面に縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
700 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(4.1)	—	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。内面に縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
701 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(3.3)	—	内) ぶい(黄緑 外) 黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。口縁部内面は横ハケ調製。内面にユビナダ。	全体的に摩耗
702 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(2.2)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目。	全体的に摩耗
703 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(12.3)	—	内) 灰白 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面に縦ハケ調製-ユビナダ。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
704 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(5.9)	—	内) ぶい(黄緑 外) ぶい(黄緑)	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面にヘラケズリ。	外面に被蝕痕 全体的に若干摩耗
705 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(13.6)	1.6	内) 黄灰 外) 埋灰/黄灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面に縦ハケ調製。底部は丸底(丸底)状を成す。	外面に僅け
706 (第49層)	S T 1 (2層下位)	赤生土器 壺	—	(9.2)	1.4	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面にハケ調製。底部は丸状を成す。	外面に僅け

第23表 遺物観察表 16

図版 番号	出土遺構 (部位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
707 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(1.9)	(1.0)	(内) 褐色 (外) 灰黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底状。	
708 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(2.1)	2.2	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内面にヒビオサヌ。底部は丸底化を指向した平底状。	全体的に若干摩耗
709 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(3.3)	(1.6)	(内) 浅黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
710 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(1.5)	(3.6)	(内) ぶい黄緑 (外) 黄灰	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。底部は平底状。	
711 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(3.0)	(2.6)	(内) 黄灰 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。底部は丸底化を指向する。	内面に僅かに 全体的に若干摩耗
712 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(3.1)	(4.6)	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目直。内面はハケ調整。底部は平底状。	内外面に僅かに 全体的に若干摩耗
713 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 甕	-	(3.1)	(3.1)	(内) 浅黄 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面はハケ調整。底部は平底状。	外面に僅かに 全体的に摩耗
714 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(10.0)	3.9	-	(内) 褐色 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手摺無成形。	内外面に僅かに 全体的に若干摩耗
715 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	11.0	4.7	1.2	(内) ぶい黄 (外) 明灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面はハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に僅かに 被熱痕
716 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(9.8)	(4.3)	-	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミギキ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	
717 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(8.5)	(3.5)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミギキ。体部は碗状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
718 (第49回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(10.2)	(2.2)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は碗状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
719 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	12.6	7.2	4.1	(内) ぶい黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目直-線状直肌。体部は碗状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	外面に薄く 被熱痕
720 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(12.3)	6.4	3.5	(内) 灰白 (外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目を線ハケで磨す。内面はハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
721 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(14.9)	7.4	3.1	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を線ハケで磨す。内面はハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	外面に僅かに 全体的に若干摩耗
722 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	11.4	6.9	3.1	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヒビオサヌ。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
723 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(12.2)	5.9	(2.7)	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヒビオサヌ。内面はハケ調整ヘラミギキ。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸みを帯びた平底状を成す。	
724 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	14.5	6.5	4.7	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面はハケ調整ヒビオサヌ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部はヒビオサヌで成りし平底状を成す。	外面に僅かに
725 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(13.6)	(3.0)	-	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミギキ。内面は横ハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸状に面を成す。	
726 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(15.2)	(2.7)	-	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミギキ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅かに 被熱痕 全体的に摩耗
727 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(13.0)	(4.3)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目直。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に摩耗
728 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(14.2)	(3.5)	-	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に摩耗
729 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(14.4)	(3.5)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に摩耗
730 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(14.0)	(4.0)	-	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に線状直肌。口縁部は線状反り気味に丹反し、底部は丸く収める。	内面に僅かに 全体的に若干摩耗
731 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(10.1)	(3.3)	-	(内) 黄 (外) 明黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に摩耗
732 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(11.8)	2.4	(7.6)	(内) 黄 (外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手摺無成形。	
733 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(8.0)	2.4	(5.8)	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手摺無成形。	外面に僅かに
734 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(10.0)	1.9	(6.0)	(内) 浅黄 (外) 浅黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。手摺無成形。	
735 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(9.8)	1.9	(11.4)	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
736 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	(9.7)	2.9	8.0	(内) ぶい黄緑 (外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。外底面に粘土盤を貼付。体部は小皿状を呈し、口縁部は線状に内傾気味に立上る。底部は平底状を成す。手摺無成形。	
737 (第50回)	S T 1 (2層下段)	赤生土器 鉢	10.3	3.2	3.6	(内) ぶい黄 (外) ぶい黄	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内外面に指面直肌。体部は小皿状を呈し、口縁部は線状に内傾気味に立上る。底部は平底状を成す。手摺無成形。	

第24表 遺物観察表 17

遺物観察表

図版番号	出土遺物(部位)	器種器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
736 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	[8.7]	(3.9)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は形状を失い、口縁部は丸く尖らせる。	全体の摩耗
739 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	[15.7]	(7.2)	-	(内) 灰黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕-ヒヨオサニ。内外面にヘラミガキ。丸みを帯びた体部から口縁部がややかに外反し、底部は丸く尖らせる。	内外面に薄く腐け
740 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	12.4	R.0	4.0	(内) ぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部内面はへく調製。体部は杯状の体部から口縁部が内傾気味に立ち上り、底部は丸く尖らせる。底部は粘土層を露出し、丸みを帯びた平底状を成す。	全体の若干摩耗
741 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(4.1)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。体部は丸みを帯びる。	全体の摩耗
742 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(5.4)	-	(内) ぶい黄緑 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にヒヨオサニ。体部は丸みを帯びる。	外面に腐け
743 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	[6.8]	(4.2)	[4.4]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は縦へく調製。肩部は「ハ」字形を呈し、内傾気味に立ち上る。脚部は上げ底状の底部。	脚付鉢 全体の摩耗
744 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(2.8)	-	(内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。内面にヘラ状部による調製。	外面に腐け
745 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(2.0)	[6.4]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は縦へく調製。脚部は「ハ」字形に開き、底部は丸く収める。	全体の摩耗
746 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(1.9)	2.2	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内外面にヒヨオサニ。底部は平底状を成す。	全体の若干摩耗
747 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(1.8)	[3.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。底部は平底状。	全体の若干摩耗
748 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(2.4)	[3.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面はへく調製-ヒヨオサニ。底部は平底状。	外面に腐け 全体の若干摩耗
749 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(2.8)	[2.2]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に縦へく調製。内面はへく調製。底部は平底状。	全体の若干摩耗
750 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(3.5)	[4.6]	(内) ぶい黄緑 外) 緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面にヒヨオサニ。底部は平底状を成す。	全体の若干摩耗
751 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(3.9)	[3.7]	(内) ぶい黄緑 外) 緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面はへく調製。底部は平底状を成す。	全体の若干摩耗
752 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(1.3)	0.5	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に縦状。内面にヘラミガキ。底部は丸底状。	全体の若干摩耗
753 (R500)	S T 1 (2層下段)	養生土器 鉢	-	(2.0)	[10.1]	(内) ぶい黄緑 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は平底状を成す。	内外面に腐け
754 (R510)	S T 1 (白線部)	養生土器 (白線部)	[18.4]	(2.0)	-	(内) ぶい黄緑 外) 灰黄	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に開き、丸く収める。	全体の若干摩耗
755 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 (底面)	-	(3.6)	0.7	(内) 灰黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の印目を縦へくで消す。底部は丸底(矢底)状を成す。	外面に腐け 全体の摩耗
756 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 (底面)	-	(2.8)	[4.8]	(内) ぶい黄緑 外) 緑黄	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は平底状。	外面に腐け 全体の摩耗
757 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(6.3)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部は凹状を呈し、「ハ」字形に開く。脚部の内面に丸部(0.8cm)の穿孔が残存する。分刻成形。	外面に被熱腐 全体の摩耗
758 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(7.3)	[11.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部外面にヒヨオサニ。脚部外面は縦へく調製-ヘラミガキ。内面に印目痕。脚部は凹状(中弁)を呈し、「ハ」字形に開く。脚部の内面に孔径1.1cmの穿孔を有す。	全体の若干摩耗
759 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(2.2)	-	(内) 黄 外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。肩部は有縁を成す。	全体の摩耗
760 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(4.2)	-	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部外面は縦へく調製。内面に押り目痕。脚部は凹状を呈し、底部は「ハ」字形に開く。	全体の若干摩耗
761 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(2.5)	[19.6]	(内) 浅黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。脚部はラップ状に開き、細反り状の底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
762 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(1.6)	[8.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。脚部外面は縦へく調製。脚部はラップ状に開き、底部は丸く収める。	全体の若干摩耗
763 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 高弁	-	(1.5)	[14.1]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。脚部はラップ状に開き、底部は丸く尖らせる。	全体の若干摩耗
766 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 支脚	-	(4.3)	[6.6]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は中実で、脚部は上げ底状を成す。	外面に腐け-被熱腐 全体の若干摩耗
767 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 支脚	-	(2.9)	[8.4]	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内外面にヒヨオサニ。脚部は「ハ」字形に開き、底部は平底で表面に印目状を成す。	全体の若干摩耗
768 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 支脚	-	12.6	7.8	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にヒヨオサニ。体部は約3/4中実。脚部は「ハ」字形に開き、底部は平底で底面に縦状部。指状の受け筋は手挽り成形で平底。	外面に腐け-被熱腐 全体の若干摩耗
769 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 支脚	-	(34.5)	9.7 (全高)	(内) 灰黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に縦部正気。内面にヒヨオサニ。体部は平底状を呈し、約3/4中実。脚部は平頭で表面に縦状部。指状受け筋は平頭。脚部に穿孔孔の可成性。手挽り成形。	外面に腐け-被熱腐
770 (R510)	S T 1 (2層下段)	養生土器 支脚	-	15.4	(7.7) (全高)	(内) ぶい黄緑 外) ぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に縦部正気。体部は中実で、脚部は上げ底状を成す。上部は凹状(凹面)を呈し、受け筋とす。手挽り成形。	外面に腐け-被熱腐

第25表 遺物観察表 18

図版 番号	出土遺構 (部位)	器種 器形	図量			色調		特徴	備考
			口径	高さ	底径				
773 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(3.5)	(3.2)	内)	橙 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミダキ、底部は薄い粘土層を貼付し、丸底化を指向した平底状。	全体の若干摩耗
774 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(8.6)	3.8	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面にコピオナシ。	内外面に僅け
775 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(1.9)	0.6	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面にハケ調整-粘土層貼付。底部は丸底状。	全体の摩耗
776 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(13.4)	(8.8)	-	内)	灰白 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面にヘラミダキ。強出し臭味の腐部から口縁部は緩やかに外反し、端部は粘土層を貼付して玉縁状を成す。	外面に僅け 全体の若干摩耗
777 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(16.1)	(4.6)	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで滑す。内面にコピナド、胴部上位に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に僅け
778 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(3.2)	-	内)	灰 外) 灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面は横ハケ調整。	外面に僅け
779 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(5.9)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面に横ナド。	
780 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(13.2)	(3.2)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミダキ。口縁部内外面に強い横ナド。底部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収まる。	全体の若干摩耗
781 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 鉢	(10.9)	(3.0)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミダキ。底部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収まる。	全体の若干摩耗
782 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 鉢	(13.2)	7.3	5.1	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に鉢状。底部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収まる。蓋部は丸底化を指向する。	外面に僅け 全体の若干摩耗
783 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 鉢	(13.6)	5.7	3.4	内)	灰 外) 灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、口縁部外面は強い横ナドにより凹陥状を成す。底部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収まる。蓋部は丸底化を指向する。	全体の若干摩耗
784 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 鉢	(11.2)	5.1	(5.7)	内)	灰 外) 灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整-コピナド。外面に粘土層を貼付。外底部は凹陥状。底部は丸底化を呈し、口縁端部は丸く収まる。蓋部は丸底化を指向する。	内外面に僅け 全体の若干摩耗
785 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 鉢	-	(4.6)	3.8	内)	橙 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌。底部は平底状を成す。	全体の摩耗
786 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 鉢	-	(6.7)	(8.0)	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミダキ。内面にヘラミダキ状による凸出。胴部内面に横ナド。胴部はワッパ状(中実)を呈し、「ハ」字形に狭く開口した上唇状を成す。	
787 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(20.4)	(1.5)	-	内)	灰 外) 灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。口縁部はワッパ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ膨出する。	内外面に薄く僅け
788 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(21.2)	(2.1)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。口縁部内外面に強い横ナド。口縁部はワッパ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ膨出する。	全体の摩耗
789 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(17.4)	(2.6)	-	内)	橙 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を成す。	全体の若干摩耗
790 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(12.4)	(1.7)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。口縁部はワッパ状に開き、端部は面を成す。	全体の若干摩耗
791 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(16.4)	(1.9)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸底化を呈す。	全体の若干摩耗
792 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(2.5)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面は横ハケ調整。底部は若干凹陥する。	
793 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(0.7)	(3.0)	内)	橙 外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面にコピナド。底部は丸底状。	全体の摩耗
794 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(15.6)	(8.0)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面はハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸底化を成す。	外面に僅け 被熱痕
795 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(17.0)	(3.2)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌、内面は横ハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸底化を呈す。	全体の摩耗
796 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(15.5)	(4.9)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌。胴部に縦ハケ調整。口縁部は内傾気味に立上がる。	全体の若干摩耗
797 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	(14.2)	(14.5)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の叩目を横ハケで滑す。内面は横ハケ調整-粘土層貼付後にコピオナシ。口縁部は緩やかに外反し、端部は玉縁状に若干凹陥する。	内外面に薄く僅け
798 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(4.9)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌。	全体の摩耗
799 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(4.2)	-	内)	灰 外) 灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌。	全体の若干摩耗
800 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(4.0)	-	内)	灰 外) 灰	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面の叩目を横ハケで滑す。内面は横ハケ調整。	全体の摩耗
801 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(3.4)	-	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌。内面は横ハケ調整。	全体の摩耗
802 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(3.1)	(3.4)	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミダキ。底部は丸底状。	内外面に僅け 全体の摩耗
803 (R52HR)	S T 1 (R52HR)	養生土器 蓋	-	(4.8)	(4.0)	内)	灰 外) 灰	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に叩目肌。底部は平底状を成す。	内外面に僅け 全体の若干摩耗

第26表 遺物観察表 19

図版番号	出土遺構(部位)	器種器形	度量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
804 (30530)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(14.0)	(4.8)	(内) 灰 (外) 黄	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にユビナダ。底部は丸底化を指向する。	内外面に僅け 全体的に摩耗
805 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(18.2)	8.3	(2.0)	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に皸状痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を呈する。	外側に僅け・紋部も 全体的に摩耗
806 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	12.3	5.9	1.9	(内) 灰白 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を呈する。	全体的に摩耗
807 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	15.8	6.7	2.5	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にハケ調痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は僅かに凹状を呈す。底部は丸底化を指向する。	内面に被熱痕 全体的に摩耗
808 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(17.0)	(3.4)	-	(内) に近い黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にハケ調痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に摩耗
809 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(10.0)	(3.2)	-	(内) 黄 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は碗状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に摩耗
810 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(12.0)	(4.0)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミダギ。体部は鉢状を呈し、口縁部は凹状を呈す。	全体的に摩耗
811 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(14.4)	(2.2)	-	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミダギ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
812 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(15.2)	(2.9)	-	(内) 黄 (外) 黄	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面にハケ調痕。体部は碗状を呈し、口縁部は丸く収める。	
813 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(24.6)	(7.0)	-	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面に横ハケ調痕。丸みを帯びた体部から口縁が僅やかに外傾し、肩部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
814 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(8.0)	-	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナダで消す。内面にユビナダ。体部は丸みを帯びた凹形面を呈する。	全体的に若干摩耗
815 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(3.8)	-	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にハケ調痕。体部は丸みを帯びる。	
816 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(11.2)	(2.5)	-	(内) 黄 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面に横い溝ナダ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
817 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(9.2)	5.5	(3.8)	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミダギ。外底面に印目状正痕。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を呈す。	内面に僅け・僅け 全体的に摩耗
818 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(5.4)	2.8	(1.8)	(内) 黄 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に皸状痕。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸状に面を取る。底部は平底状。	全体的に摩耗
819 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(9.6)	1.6	(6.8)	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状。	
820 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	10.4	3.4	0.9	(内) 黄 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向した平底状。手挽り成形。	全体的に摩耗
821 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	(8.2)	(2.9)	(3.0)	(内) 灰白 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、底部は平底状を呈す。手挽り成形。	
822 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(2.3)	2.9	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。肩部は「ハ」字形に開き、肩部は丸く収める。手挽り成形。	外側に僅け 内面に被熱痕
823 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(1.2)	(2.8)	(内) に近い黄緑 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状。	
824 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(3.1)	4.7	(内) に近い黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目痕。底部は粘土盤を貼付した平底状を呈す。	全体的に摩耗
825 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(1.3)	(2.3)	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向する。	全体的に摩耗
826 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 鉢	-	(3.8)	4.2	(内) 浅黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に皸状痕。底部は薄い粘土盤を貼付し、丸底化を指向した平底状。	内外面に被熱痕 全体的に摩耗
827 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(2.0)	(9.8)	(内) 灰白 (外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に押目痕。杯口縁に粘土盤を貼付。肩部は「ハ」字形に開き、杯口の開口部に孔径1.3cmの穿孔を有す。手挽り成形。	全体的に若干摩耗
828 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(3.1)	-	(内) 浅黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。肩部は円柱状(中実)を呈する。	全体的に若干摩耗
829 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(1.3)	(9.0)	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミダギ。肩部はラップ状に開き、肩部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
830 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(1.3)	-	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。	
831 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(2.1)	-	(内) に近い黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミダギ。内面にハケ調痕。肩部は「ハ」字形に開き、2箇所に穿孔を保存する。	
832 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(2.0)	(13.8)	(内) に近い黄緑 (外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミダギ。肩部は大きく開き、1箇所に孔径1.0cmの穿孔を保存する。	全体的に若干摩耗
833 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 高杯	-	(2.0)	(13.2)	(内) に近い黄緑 (外) 灰黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミダギ。肩部はラップ状に開き、逆戻り状の肩部は面を取る。	
834 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 支脚	-	(2.0)	(8.4)	(内) 黄 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。側面は平底状。	全体的に若干摩耗
835 (30540)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 支脚	-	(1.8)	(6.8)	(内) に近い黄緑 (外) に近い黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面はナダ調痕により筒筒状を呈す。肩部は「ハ」字形に外傾し、肩部は逆戻り気味に開く。	

図版番号	出土遺物(部位)	器種器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
836 (図54E)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 支脚	—	06.4	[8.4]	(内) 灰青褐色 (外) 灰黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナズで消す。内面にユビナズ。縁口状(中位)の脚部は「ハ」字形に開き、底部は平底乃至丸く収める。脚部上端は丸底(黄緑・付着物)。	外面に薄くだけ 転写刷痕の可能性
837 (図54E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 支脚	—	03.3	[8.4]	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に指痕3道。残存部は中空。上端部より中央。脚部は「ハ」字形に開く。手摺り成形。	外面に擦痕
838 (図54E)	S T 1 (3層上段)	弥生土器 支脚	—	4.3	—	(内) 黄灰 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に押目直。脚部は「ハ」字形に開く。	内外面に擦け
842 (図55E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	13.5	29.6	1.4	(内) 黄 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面は縦ハケ調整。脚部外面に印目直。肩部外面の印目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ調整。胴部内面の縦ハケをナズで消す。口縁部は「ク」字形に外反し、底部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に僅け 全体の若干摩擦 847と伴出性が高い
843 (図55E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	02.8	—	(内) 黄 (外) 灰黄緑	チャート等の細粒砂を含む。外面に印目直。内面に粘土層接合痕。肩部は若干肥厚する。	全体の摩耗
844 (図55E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.0	—	(内) 黄 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁・肩部は縦ハケ調整。胴部外面に印目直。内面は縦ハケ調整。	全体の摩耗
845 (図55E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[12.7]	17.0	1.6	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。口縁部は縁中か外反し、底部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に僅け・被熱痕 全体の摩耗
846 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	14.8	24.4	1.0	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面は横ハケ調整。胴部外面の印目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ調整。胴部内面の縦ハケをナズで消す。口縁部は「ク」字形に外反し、底部は丸く収める。底部は丸底状を呈し、中位に最大径。	内外面に擦け
847 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	13.2	22.2	2.2	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面にユビナズ。口縁部は「ク」字形に外反し、底部は面を散る。胴部外面に最大径。底部は粘土層を付与し、溝状を呈して丸底状を成す。	外面に僅け
848 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[12.3]	22.7	0.7	(内) 黄灰 (外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面は横ハケ調整。口縁部は縁中か外反し、底部は丸く収める。胴部は縁中位で最大径。底部は丸底状を成す。	外面に僅け
849 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[18.2]	08.1	—	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に横ハケ調整をナズで消す。口縁部は縁中か外反し、底部は面を散る。	内外面に擦け・被熱痕
850 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[16.6]	09.9	—	(内) 黄灰 (外) 黄青	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面はハケ調整。胴部内面にユビナズ。口縁部は「ク」字形に外反し。	外面に薄くだけ 全体の若干摩擦
851 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[11.5]	[16.8]	—	(内) 黄青褐色 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナズで消す。口縁部は縁中か外反し、底部は丸く収める。胴部中下位に最大径。	全体の摩耗
852 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[14.1]	02.7	—	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。内面は横ハケ調整。口縁部は「ハ」字形に外反し。	全体の摩耗
853 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	[13.0]	[4.7]	—	(内) 黄青褐色 (外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に粘土層接合痕をナズで消す。口縁部は外反し、底部は丸く収める。	外面に僅け 全体の若干摩擦
854 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	08.7	—	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面にハケ調整。口縁部は「ク」字形に外反し。	全体の摩耗
855 (図56E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	06.7	—	(内) 灰 (外) 黄青	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。内面に粘土層接合痕をナズで消す。	内面に擦け 全体の若干摩擦
856 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.2	—	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	全体の摩耗
857 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	02.6	—	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	外面に被熱痕 全体の若干摩擦
858 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.6	—	(内) 灰黄褐色 (外) 黄青	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。	全体の若干摩擦
859 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	04.4	—	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。口縁部内面に横ハケ調整。内面に縦ハケ調整。	全体の若干摩擦
860 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	02.3	[4.8]	(内) 灰青褐色 (外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状。	全体の若干摩擦
861 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	04.0	[6.6]	(内) 黄灰 (外) 黄青	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。底部は丸底状。	全体の若干摩擦
862 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	[11.0]	—	(内) 黒褐色 (外) 黒	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナズで消す。内面にユビナズ。	内外面に擦け 全体の若干摩擦
863 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.1	[2.8]	(内) 灰青褐色 (外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目直。底部は丸底状。	外面に僅け 全体の若干摩擦
864 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.1	[3.2]	(内) 灰青褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸みを帯びた平底状。	内外面に擦け 全体の若干摩擦
865 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.3	1.2	(内) 灰 (外) 黄青	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビナズ。底部は丸底状を成す。	内面に擦け 全体の若干摩擦
866 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	03.6	[2.8]	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目をナズで消す。内面にユビナズ。底部は丸底状を帯び出す。	内外面に擦け 全体の摩耗
867 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	08.2	1.6	(内) 黄灰 (外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。底部は丸底状を成す。	外面に僅け
868 (図57E)	S T 1 (3層中段)	弥生土器 蓋	—	09.1	3.8	(内) 灰黄褐色 (外) 灰黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面は横ハケ調整。底部は丸底状を成す。	外面に僅け S 5 系 遺物と接合

第28表 遺物観察表 21

遺物観察表

図版番号	出土遺構(部位)	器種器形	図量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
860 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[3.6]	[6.2]	-	内) 明黄褐色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面の粘土帯接合面をテラで磨す。口縁部は縁やみに外反。	全体的に摩耗
870 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	11.3	7.6	3.3	内) 橙黄色) にぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。口縁部外面にハケ状原体による調製。内面にヘラミギキ。内底面に板状突起による圧痕。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は薄い粘土層を貼付し、平底状を成す。	外面に僅け
871 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[11.3]	5.6	0.2	内) 浅黄褐色) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にユビナダ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に僅け
872 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	14.3	6.2	2.9	内) 浅黄褐色) にぶい橙	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にヘラミギキ状原体による同心円状の圧痕。体部は縁状を呈し、口縁部は丸底状を成す。底部は丸底状を成す。	内外面に僅け-被熱風 内面に被熱風
873 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	10.2	5.2	3.2	内) にぶい橙黄色) にぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビナダ。口縁部内外面に強い黄ナダ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸底状を成す。底部は丸底状を成す。	内外面に僅け
874 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[13.3]	6.6	4.1	内) にぶい黄褐色) 橙	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビナダ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は薄い粘土層を貼付し、丸みを帯びた平底状を成す。	外面に薄い僅け 内面に被熱風
875 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[12.6]	7.6	4.4	内) にぶい橙黄色) にぶい橙	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。内面にハケ調製-ヘラミギキ。口縁部内外面に強い黄ナダ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸底状を呈し、口縁部は若干厚層して丸状に面を成す。底部は薄い粘土層を貼付し、平底状を成す。	内外面に丸縁状の 薄い僅け
876 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[10.4]	[4.5]	-	内) にぶい黄褐色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面にヘラミギキ。内面は丸く調製。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
877 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢/高杯	[12.2]	[5.2]	-	内) 灰黄褐色) 灰黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミギキ。体部は有縁の杯状を呈し、口縁部は丸く収める。	高杯の可能性
878 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[10.9]	5.2	4.6	内) 橙黄色) 明黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に丸く調製。内底面にハケ状原体による同心円状の圧痕。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
879 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[11.8]	[3.3]	-	内) 橙黄色) 黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に縁状。内面にヘラミギキ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
880 (357R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[11.0]	[2.7]	-	内) にぶい黄褐色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビナダ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
881 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	8.1	3.5	1.5	内) 橙黄色) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビナダ。内面にヘラミギキ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。手裡ね成底。	全体的に若干摩耗
882 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	8.7	3.6	0.2	内) 浅黄褐色) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビナダ。内面にヘラミギキ。内底面にハケ状原体による圧痕。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底(矢底)状を成す。平底状を成す。	外面に僅け
883 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	[10.2]	[4.7]	-	内) 橙黄色) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に縁状。内面にヘラミギキ。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
884 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	-	[2.2]	[4.3]	内) にぶい橙黄色) にぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は板ハケ調製。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
885 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	-	[4.1]	[4.4]	内) 浅黄褐色) にぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は薄い粘土層を貼付し、平底状を成す。	全体的に若干摩耗
886 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢	-	[2.8]	[4.3]	内) にぶい黄褐色) にぶい黄緑	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。底部は粘土層を貼付し、平底状を成す。	全体的に若干摩耗
887 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器瓶	[14.3]	11.6	4.1	内) にぶい橙黄色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は板ハケ調製。体部は縁状を呈し、口縁部は丸底状に面を成す。底部は粘土層を貼付して高台状を成し、底面穿孔孔を有する。	外面に僅け-被熱風 全体的に若干摩耗
888 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器鉢/瓶	[14.8]	[8.7]	-	内) 浅黄褐色) 浅黄褐色	チャート・雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は板ハケ調製。体部は縁状を呈し、口縁部は丸く収める。	内外面に僅け-被熱風 内面に被熱風
889 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器高杯	-	[2.0]	-	内) 橙黄色) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミギキ。杯部は有縁を成す。底部は丸く収める。	外面に僅け
890 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器高杯	-	[2.0]	[18.8]	内) にぶい黄褐色) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にヘラミギキ。杯部は低平に開き。底部は丸く収める。	内外面に僅け
891 (358R)	S T 1 (3層中位)	養生土器支脚	-	[3.6]	[10.4]	内) にぶい黄褐色) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面に指面状。底部は「ハ」字形に外傾し、底部は環状に開く。手裡ね成底。	内外面に僅け 全体的に若干摩耗
894 (358R)	S T 1 (3層下位)	養生土器壺	32.7	[17.5]	-	内) 黄褐色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面にユビナダ。口縁部は外縁気味に直口し、底部は丸底に面を成す。	全体的に摩耗
896 (358R)	S T 1 (3層下位)	養生土器壺	[16.8]	[1.4]	-	内) 明黄褐色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に開き、底部は縁から下方へ突出する。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
896 (358R)	S T 1 (3層下位)	養生土器壺	[13.7]	[2.5]	-	内) にぶい黄褐色) にぶい黄緑	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外傾し、底部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
897 (359R)	S T 1 (3層下位)	養生土器壺	[12.1]	[18.4]	-	内) 黄褐色) にぶい橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。内面は板ハケ調製-ユビナダ。肩部の粘土帯接合面をユビナダで磨す。凹状を成す。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、底部は丸く収める。	内外面に僅け-被熱風 粘土帯接合面/底面
898 (359R)	S T 1 (3層下位)	養生土器壺	[22.0]	[3.3]	-	内) にぶい黄褐色) 浅黄褐色	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に板ハケ調製。口縁部は外反し、底部は面を成す。	全体的に摩耗
899 (359R)	S T 1 (3層下位)	養生土器壺	[16.6]	[2.7]	-	内) にぶい橙黄色) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に磨削状凹文。口縁部は上下に膨出し、丸底に面を成す。	全体的に摩耗

第29表 遺物観察表 22

図版 番号	出土遺物 (部位)	器種 器形	図量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
900 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[16.2]	(2.0)	-	(内) 橙 (外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製、口縁部は僅かに肥厚して逆「ハ」字形に外傾し、肩部は丸く収める。	全体的に摩耗
901 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[19.0]	(2.6)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸状に面を成す。	全体的に摩耗
902 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[10.6]	(2.1)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸状に面を成す。	全体的に若干摩耗
903 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[13.8]	(2.4)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面はハケ調製、口縁部は逆「ハ」字形に外傾し、肩部は丸く収める。	全体的に摩耗
904 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[18.4]	(2.7)	-	(内) ぶい黄橙 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、口縁部は逆「ハ」字形に外傾し、肩部は丸く収める。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
905 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[17.8]	(20.7)	[1.6]	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面はハケ調製、ユビオエ。口縁部は緩やかに外反し、肩部は丸く収める。肩部中央に最大径、底部は丸底状を成す。	内外面に僅け 全体的に若干摩耗
906 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[14.6]	(12.5)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面はハケ調製をナゲで消す。口縁部は「く」字形に外反し、肩部は丸く収める。	外面に薄く僅け 全体的に若干摩耗
907 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(3.1)	-	(内) 黄黄 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	全体的に摩耗
908 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[12.2]	16.4	1.6	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面はハケ調製をナゲで消す。口縁部は「く」字形に外反し、肩部は小さく面を成す。肩部中央に最大径、底部は丸底状を成す。	外面に僅け 内外面に磨蝕痕 全体的に若干摩耗
909 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[14.6]	(6.7)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面はハケ調製、口縁部は外傾し、肩部は丸く収める。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	全体的に摩耗
910 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[11.8]	(6.3)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、口縁部外面にユビオエ。口縁部は緩やかに外反し、肩部は玉縁状を成す。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	全体的に若干摩耗
911 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[15.6]	(6.0)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、口縁部内面は横ハケ-内面に横ハケ調製、口縁部は「く」字形に外反し、肩部は丸状に面を成す。	全体的に摩耗
912 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(4.4)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面は横ハケ調製。	全体的に若干摩耗
913 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(4.3)	-	(内) 黄黄 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面は横ハケ調製。	全体的に摩耗
914 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(3.6)	-	(内) 橙 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	外面に僅け 全体的に摩耗
915 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(3.8)	-	(内) 黄黄 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。	全体的に摩耗
916 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(6.2)	-	(内) 橙 (外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、底部は丸みを帯びる。	外面に僅け 全体的に摩耗
917 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(8.6)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕。	外面に僅け 全体的に摩耗
918 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(2.3)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。	全体的に若干摩耗
919 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(2.2)	[1.6]	(内) ぶい黄橙 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。底部は丸底(尖底)状。	外面に僅け 全体的に摩耗
920 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(1.9)	[2.0]	(内) 黄黄 (外) 黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に印目痕、内面はハケ調製、底部は平底状を成す。	内外面に僅け
921 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	-	(1.8)	[5.6]	(内) 黄黄 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。	外面に僅け-磨蝕痕 全体的に摩耗
922 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 壺	[16.1]	(12.3)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート-雲母片等の細-粗粒砂を含む。外面は横ハケ調製、内面にユビオエ。口縁部は「く」字形に外反し、肩部は上方へ傾き上がる。	内外面に薄く僅け 黄黄製土器
923 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	14.8	9.1	5.4	(内) 黄黄 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面の横ハケをヘラミギキで消す。内面にヘラミギキ。口縁部は外面に横ハケ。底部は逆「ハ」字形に開き、口縁部は丸く収める。底部は平底を成す。	ほぼ完全 外面に僅け
924 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	[10.8]	[5.7]	[1.2]	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面に横ハケ調製、内面にヘラミギキ。底部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部はナゲ状に丸底(尖底)状を成す。	外面に僅け 全体的に摩耗
925 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	[12.3]	(6.0)	-	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内外面にユビオエ。内面はハケ調製-ヘラミギキ。底部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	外面に僅け 全体的に摩耗
926 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	[9.6]	5.3	3.4	(内) ぶい黄橙 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。外面は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は粘土帯を貼付し、丸みを帯びた平底状を成す。	全体的に摩耗
927 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	-	(3.8)	-	(内) 橙 (外) 橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面にヘラミギキ。底部は丸みを帯びる。	全体的に摩耗
928 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	[16.8]	(3.4)	-	(内) 黄黄 (外) ぶい黄橙	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製、外部は鉢状を呈し、口縁部は丸底状を成す。	全体的に若干摩耗
929 (R399E)	S T 1 (3層下段)	赤生土器 鉢	[21.2]	(3.8)	-	(内) 黄黄 (外) 黄黄	チャート等の細-粗粒砂を含む。内面はハケ調製-ヘラミギキ。外部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸底状を成す。	全体的に若干摩耗

第30表 遺物観察表 23

遺物観察表

図版番号	出土遺構(部位)	器種器形	図量			色調	特徴	備考
			口径	高さ	底径			
900 (360A)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	[16.4]	(2.2)	-	内) ぶい黄緑外) 浅黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調整。底部は浅鉢状を呈し。口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
901 (360B)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	[12.8]	(2.1)	-	内) 浅黄外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は小皿状を呈し。口縁端部は丸く収める。	
902 (360C)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	[10.8]	(2.1)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は縦ハケ調整。底部は鉢状を呈し。口縁端部は丸状に面を取る。	
903 (360D)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	-	(4.2)	1.5	内) 橙外) ぶい黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調整。底部は丸底化を指向する。	
904 (360E)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	-	(2.2)	(2.7)	内) 緑黄外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
905 (360F)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	-	(1.0)	[3.2]	内) ぶい黄緑外) 黄	チャート等の細粒砂を含む。底部は平底状。	
906 (360G)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	-	(3.3)	[4.4]	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は丸底化を指向する。	
907 (360H)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	[9.8]	(3.2)	-	内) 灰白外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。分割成形。	脚付鉢
908 (360I)	ST 1 (360下段)	養生土層鉢	-	(1.4)	[9.6]	内) 浅黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は「ハ」字形に開き。端部は平皿上を成す。	全体的に若干摩耗
909 (360J)	ST 1 (360下段)	養生土層高坪	-	(2.2)	19.0	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調整。側面は僅かに凹状を成す。	全体的に摩耗
940 (361A)	ST 1 (361下段)	養生土層支脚	-	7.8	5.6	内) 黄外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に指摺凹。底部は内柱状(中実)を呈する。上端は内傾し。僅かに凹状を呈して受付部と成す。手摺成形。	外面に僅け・被動低脚土製支脚
942 (361B)	ST 1 (361下段)	養生土層蓋	-	(3.9)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。	
943 (361C)	ST 1 (361下段)	養生土層蓋	-	(3.4)	-	内) 黄灰外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面に粘土帯接合面。	全体的に若干摩耗
944 (361D)	ST 1 (361下段)	養生土層鉢	[13.0]	(3.3)	-	内) 橙外) 黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は鉢状を呈し。口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
961 (363A)	ST 1 (363中央土)	養生土層蓋	[14.0]	(2.7)	-	内) ぶい黄緑外) 反黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面は横ハケ調整。口縁部は外傾し。端部は面を取る。	全体的に若干摩耗
962 (363B)	ST 1 (363中央土)	養生土層蓋	[14.6]	(1.7)	-	内) ぶい黄緑外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にハケ調整。口縁部は外反し。端部は丸状に面を取る。	
963 (363C)	ST 1 (363中央土)	養生土層鉢	[11.0]	(2.8)	-	内) 橙外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。口縁部は縁やかに外反し。端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
964 (363D)	ST 1 (363中央土)	養生土層蓋	-	(2.3)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面は縦ハケ調整。	
965 (363E)	ST 1 (363中央土)	養生土層蓋	[16.4]	(5.0)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラッパ状に開き。端部は面を取る。	内面に僅け
966 (363F)	ST 1 (363中央土)	養生土層鉢	[13.0]	5.0	[4.6]	内) ぶい黄緑外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。粘土帯を貼付した体部は鉢状を呈し。底部は丸底化を指向した平皿状を成す。	
967 (363G)	ST 1 (363中央土)	養生土層蓋	-	(14.1)	3.4	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目を縦ハケで滑す。内面上部は縦ハケ調整。下部はコビナダ・指摺凹。底部は丸底化。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
968 (363H)	ST 1 (363中央土)	養生土層蓋	-	(10.0)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目をナダで滑す。内面にコビナダ。	外面に僅け
969 (363I)	ST 1 (363中央土)	養生土層鉢	-	(3.2)	[7.0]	内) 橙外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は「ハ」字形に開き。端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
960 (363J)	ST 1 (363中央土)	養生土層支脚	-	(5.5)	[8.0]	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目をナダで滑す。脚部に片状の指摺凹。底部は中実で、脚部は上反状。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
961 (364A)	ST 1 P2	養生土層蓋	[15.5]	(7.0)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面は横ハケ調整。内面にコビナダ。口縁部は「ハ」字形に開き。端部は丸く収める。脚部は球形状を呈し。中位に最大径。底部は底状を成す。	内面に僅け
962 (364B)	ST 1 P2	養生土層蓋	[15.7]	31.0	2.5	内) 灰外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面にコビナダ。口縁部は「ハ」字形に開き。端部は丸く収める。脚部は球形状を呈し。中位に最大径。底部は底状を成す。	内外面に僅け 外面に被動低脚
963 (364C)	ST 1 P2	養生土層鉢	[13.4]	11.1	3.1	内) 灰黄外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にコビナダ。丸みを帯びた体部から口縁部は「く」字形に外反し。底部は丸底化を成す。	外面に僅け 全体的に若干摩耗
964 (364D)	ST 1 P4	養生土層蓋	16.0	(9.8)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面は縦ハケ調整。外面に印目面。内面は縦ハケ調整・コビナダ。口縁部は「ハ」字形に外反し。端部は底状に丸く収める。	全体的に若干摩耗
965 (364E)	ST 1 P4	養生土層蓋(底面)	-	(2.1)	[2.8]	内) 緑黄外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面にコビナダ。内底面に粘土帯を貼付。外底面に印目状凹。底部は平底状。	外面に被動低脚 内面に僅け
966 (364F)	ST 1 P4	養生土層鉢	[11.6]	(13.4)	-	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面にコビナダ。口縁部内面に横ナダ。丸みを帯びた体部から口縁部は縁やかに外反し。端部は丸く収める。	外面に被動低脚 全体的に摩耗
967 (364G)	ST 1 P4	養生土層蓋	14.3	19.4	1.4	内) ぶい黄緑外) ぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目面。内面は横ハケ調整・コビナダ。粘土帯接合面。口縁部は縁やかに外反し。端部は丸く収める。側面に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に僅け 全体的に摩耗

第31表 遺物観察表 24

図号 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	質量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
968 (第68図)	S T 1 P 4	養生土器 鉢	[11.4]	16.4	2.5	内) にぶい黄緑 外) 浅黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目横ハケケズリ。内面にユビオサヌ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。胴部中央に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に僅け 外面に被熱痕
970 (第69図)	S T 1 P 9	養生土器 鉢	[11.9]	3.2	[4.2]	内) にぶい黄 外) にぶい黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサヌ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。	
971 (第67図)	S T 1 P 12	養生土器 鉢	[16.0]	0.5	-	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
972 (第67図)	S T 1 P 13	養生土器 高杯	-	(1.2)	[18.2]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面に横ナガ。胴端部は面を取って縁から下方へ張出す。	
973 (第67図)	S T 1 P 13	養生土器 (底部)	-	(1.5)	1.1	内) にぶい黄 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は丸底状。	全体的に若干摩耗
974 (第68図)	S T 1 S K 1	養生土器 鉢	[14.4]	1.6	[10.8]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にユビオサヌ。内面にヘウミガキ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手取ね成形。	
975 (第68図)	S T 1 S K 1	養生土器 (胴部)	-	(0.6)	-	内) 暗灰 外) にぶい黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の印目を縦ハケで消す。内面はハケ調製。	
976 (第68図)	S T 1 S K 2	養生土器 壺	[14.0]	0.1	-	内) 灰黄褐 外) にぶい黄緑	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に印目横。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	
977 (第68図)	S T 1 S K 2	養生土器 鉢	[16.8]	0.4	-	内) にぶい黄緑 外) にぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に印目横。内面は横ハケ調製。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
978 (第68図)	S T 1 S K 2	養生土器 鉢	10.2	5.4	1.0	内) にぶい黄 外) にぶい黄	チャート等の粗粒砂を含む。口縁部内外面に横ナガ。内面にヘウミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	
979 (第68図)	S T 1 S K 2	養生土器 (底部)	-	0.4	[3.0]	内) 浅黄 外) にぶい黄緑	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面は縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
980 (第7図)	表探	石製品	[13.9]	(4.4)	-	内) 灰 外) 灰	砂刃。内面に線条痕。	
981 (第7図)	表探	石製品	[5.7] 上端	4.3	[6.2] 下端	内) 灰 外) 灰	砂刃。上端が僅かに凹状を成す。(磨えるなら筒柱状を呈する低脚石製矢筈であるが、ほぼ通う海解・用途の製品と思われる。)	

第32表 遺物観察表 25

遺物観察表

図版番号	出土遺構(層位)	器種	質量 (g)				色調	特徴	備考
			全長	全幅	全厚	重量			
188 (第490)	T R 1 S H 2 P 4	礫石器	19.3	13.5	5.3	1,727g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。平坦面及び両縁部に最打痕。	若干風化
335 (第395)	S T 1 (1層下段)	弥生土器 支脚	7.0	3.5	-	-	(内) (外)	にぶい黄褐色にぶい黄褐色 チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指痕正。手ねね成形。	外面に僅け・被熱成 部状の受け部
510 (第375)	S T 1 (1層下段)	礫石器	10.1	9.1	3.1	419g	(内) (外)	細粒砂岩。脚状円錐。	
511 (第375)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	16.1	(5.8)	5.6	705g	(内) (外)	細・粗粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	
512 (第375)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	13.9	7.9	5.5	772g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	
513 (第375)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	10.5	8.7	2.1	288g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。平坦面に最打痕。端部に打削痕。	
514 (第375)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	14.6	6.2	4.1	545g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	
515 (第375)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	13.6	7.6	5.2	709g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	被熱成 若干風化
516 (第385)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	16.1	12.9	3.6	1,088g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。端部に最打痕。	僅け・被熱成
517 (第385)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	13.7	9.1	7.4	1,376g	(内) (外)	緑色岩。棒状円錐。端部に最打痕。	
518 (第385)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	19.5	8.7	5.4	1,491g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	
643 (第435)	S T 1 (1層下段)	弥生土器 土製品	(6.6)	(3.9)	(2.1)	-	(内) (外) 埋	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。内外面に指痕正。上部は扁平状の面を成し。匙状を呈する。手ねね成形。	外面に僅け 匙状土器の可能性
644 (第435)	S T 1 (1層上段)	礫石器 砥石	12.0	6.5	1.2	166g	(内) (外)	頁岩(燧石系)。扁平状円錐。平坦面に研削(使用痕)され、匙状の磨痕を認める。	
645 (第435)	S T 1 (1層上段)	硯石	(7.7)	(6.7)	(4.3)	3.4g	(内) (外)		
764 (第335)	S T 1 (1層下段)	弥生土器 支脚	(3.9)	(2.3)	(1.6)	-	(内) (外)	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指痕正。手ねね成形。	部状の受け部 全体的に磨耗
765 (第335)	S T 1 (1層下段)	弥生土器 支脚	(5.8)	(3.1)	(2.0)	-	(内) (外)	黄灰 チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指痕正。手ねね成形。	外面に僅け 全体的に若干磨耗
771 (第335)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	16.7	14.5	11.4	4,200g	(内) (外)	細粒砂岩。主上面は僅かに平直。	欠損
772 (第335)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	14.5	13.5	3.5	1,035g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。端部に最打痕。	
839 (第335)	S T 1 (1層上段)	礫石器 叩石	13.3	7.8	5.6	685g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	
840 (第335)	S T 1 (1層上段)	礫石器	11.0	7.9	2.7	323g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。	僅け
841 (第335)	S T 1 (1層上段)	石材	19.6	10.8	8.4	1,718g	(内) (外)	チャート	
892 (第385)	S T 1 (1層中段)	礫石器 叩石	16.6	8.1	4.6	968g	(内) (外)	細粒砂岩。小判状円錐。両縁部に最打痕。	
893 (第385)	S T 1 (1層中段)	礫石器 叩石	13.8	11.0	5.8	1,222g	(内) (外)	細粒砂岩。脚状円錐。端部に最打痕。	被熱成
941 (第415)	S T 1 (1層下段)	礫石器 叩石	16.3	8.1	5.8	1,023g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。端部に最打痕。	若干風化
945 (第415)	S T 1 (不明)	礫石器 叩石	13.8	8.6	4.2	701g	(内) (外)	細粒砂岩。小判状円錐。端部に最打痕。	
946 (第415)	S T 1 (不明)	礫石器 叩石	17.3	13.1	4.1	1,279g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。	僅け・被熱成
947 (第425)	S T 1 (不明)	礫石器 叩石	16.6	11.4	3.5	906g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平(大判)状円錐。両平坦面及び両縁部に最打痕。側方に鋭り状。	若干風化
948 (第425)	S T 1 (不明)	礫石器	11.8	8.9	3.1	450g	(内) (外)	細粒砂岩。扁平状円錐。	僅け・被熱成
949 (第425)	S T 1 (不明)	礫石器	20.1	8.1	7.0	1,609g	(内) (外)	細粒砂岩。棒状円錐。	僅け・被熱成
950 (第435)	S T 1 中央土成	礫石器 砥石	10.4	6.2	1.2	126g	(内) (外)	頁岩(燧石系)。扁平状円錐。平坦面に研削(使用痕)。	
969 (第445)	S T 1 P 4	礫石器	17.6	13.7	9.9	3,077g	(内) (外)	細粒砂岩。	僅け

第33表 遺物観察表 26

写真図版



図版1
調査対象地



東扶岡道跡 遠景(南: 調査対象地)
※『射場原歌道跡』高岡市教育委員会 2016 年 所収写真より複製



大八幡宮 (2017.3.16)



調査対象地: 西 (2017.3.16)



調査対象地: 北 (2017.3.16)



調査対象地: 東 (2017.3.17)

TR 1



試験坑設定状況



試験坑北壁 土層断面状況



遺構検出状況



完掘状況

TR 2



試験坑設定状況



試験坑西壁 土層断面状況

TR 3



試験坑設定状況



試験坑西壁 土層断面状況

图版 3
TR 4



试掘坑位置状况



P169 土层断面状况



SD 2 土层断面状况



P175 土层断面状况



完整状态

TR 5



試掘坑設置状況



試掘坑北壁 土層断面状況



SX 3 遺物出土状態：192



SD 2 土層断面状況



完掘状態

図版 5
TR 6



試掘坑設定状況



試掘坑南壁 土層断面状況



遺構検出状態



包含層 遺物出土状態: 1



完掘状態



SD 1 土層断面状況



SB 5 P1 土層断面状況



SD 1 遺物出土状態：203



P211 土層断面状況

TR 7



試掘坑設定状況（当初）



遺構検出（拡張部分）



遺構検出状態



遺構検出状態



ST 1 遺構検出状態



P217 遺構検出状態



P219 遺構検出状態



集石遺構 4 線群検出状態



ST 1 上面 遺物出土状態 : 212



ST 1 礫群検出状態



ST 1 礫群検出状態



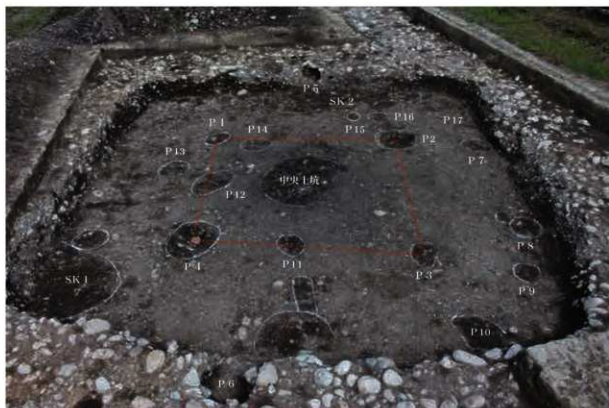
ST 1 上層剥除状態



ST 1 礫群検出状態



ST 1 十字畦 (バンク) 設定状態



ST 1 床面 遺構検出状態



ST 1 完掘状態

壺形土器



ST 1 遺物出土状態：356・371(小型丸底壺)



ST 1 遺物出土状態：373(小型丸底壺)



ST 1 遺物出土状態：526



ST 1 遺物出土状態：527



ST 1 遺物出土状態：842



ST 1 遺物出土状態：891



ST 1 中央土坑 遺物出土状態：955-壺



ST 1 P4 遺物出土状態：964/967(壺)

図版 11
 甕形土器



ST 1 遺物出土状態：271(東阿波型土器)・他



ST 1 遺物出土状態：381・845



ST 1 遺物出土状態：386



ST 1 遺物出土状態：387



ST 1 遺物出土状態：388



ST 1 遺物出土状態：390



ST 1 遺物出土状態：432(東阿波型土器)



ST 1 遺物出土状態：543-555/631(高坏)・他



ST 1 遺物出土状態: 544



ST 1 遺物出土状態: 551/594・595(鉢)他



ST 1 遺物出土状態: 552



ST 1 遺物出土状態: 551



ST 1 遺物出土状態: 661



ST 1 遺物出土状態: 847/842(蓋)



ST 1 遺物出土状態: 906



ST 1 遺物出土状態: 908

图版 13
钵形土器



ST 1 遺物出土状態：272



ST 1 遺物出土状態：273-274



ST 1 遺物出土状態：279



ST 1 遺物出土状態：293



ST 1 遺物出土状態：295



ST 1 遺物出土状態：305



ST 1 遺物出土状態：306



ST 1 遺物出土状態：315



ST 1 遺物出土状態：433(クニチヤア土器)



ST 1 遺物出土状態：434



ST 1 遺物出土状態：435



ST 1 遺物出土状態：440



ST 1 遺物出土状態：441



ST 1 遺物出土状態：442



ST 1 遺物出土状態：443



ST 1 遺物出土状態：446



ST 1 遺物出土状態: 430



ST 1 遺物出土状態: 451



ST 1 遺物出土状態: 474



ST 1 遺物出土状態: 591



ST 1 遺物出土状態: 592



ST 1 遺物出土状態: 593



ST 1 遺物出土状態: 594-595



ST 1 遺物出土状態: 596



ST 1 遺物出土状態：613



ST 1 遺物出土状態：617



ST 1 遺物出土状態：715



ST 1 遺物出土状態：720



ST 1 遺物出土状態：723/609(變)



ST 1 遺物出土状態：721



ST 1 遺物出土状態：734



ST 1 遺物出土状態：740



ST 1 遺物出土状態：743(脚付鉢)



ST 1 遺物出土状態：744(脚付鉢)



ST 1 遺物出土状態：786(脚付鉢)



ST 1 遺物出土状態：807



ST 1 遺物出土状態：870



ST 1 遺物出土状態：872



ST 1 遺物出土状態：873



ST 1 遺物出土状態：874



ST 1 遺物出土狀態：875



ST 1 遺物出土狀態：878



ST 1 遺物出土狀態：881



ST 1 遺物出土狀態：882



ST 1 遺物出土狀態：886



ST 1 遺物出土狀態：887(破)



ST 1 遺物出土狀態：923



ST 1 P 2 遺物出土狀態：963

图版 19
高环形土器



ST 1 遺物出土状態: 332



ST 4 遺物出土状態: 333



ST 1 遺物出土状態: 628



ST 1 遺物出土状態: 630



ST 1 遺物出土状態: 631(坏部)



ST 1 遺物出土状態: 631(脚部)/543-555(巻)・他



ST 1 遺物出土状態: 639



ST 1 遺物出土状態: 738

支脚形土器



ST 1 遺物出土状態 : 352



ST 1 遺物出土状態 : 508



ST 1 遺物出土状態 : 509



ST 1 遺物出土状態 : 768



ST 1 遺物出土状態 : 769



ST 1 遺物出土状態 : 770



ST 1 遺物出土状態 : 830



ST 1 遺物出土状態 : 940

図版 21
礫石器



ST 1 遺物出土状態：644(砥石)



ST 1 遺物出土状態：645(軽石)



ST 1 遺物出土状態：841(チャート)



ST 1 遺物出土状態：893(卵石)

津波避難タワー



(2018. 12. 12)

— 調査日誌抄 —



図版 22

3月17日(金)1日目 TR1 遺構検出作業・遺構掘削作業/他



重機・仮設トイレ搬入



TR1 重機掘削作業

3月22日(水)2日目 TR2 遺構検出作業・遺構掘削作業/TR3 遺構検出作業・遺構掘削作業/他



TR2 重機掘削作業



TR3 重機掘削作業

3月23日(木)3日目 TR4 遺構検出作業・遺構掘削作業/他



TR4 重機掘削作業



TR4 遺構掘削作業

3月24日(金)4日目 TR4 遺構掘削作業/TR5 重機掘削作業/TR6 重機掘削作業/他



TR5 重機掘削作業



TR6 重機掘削作業

3月27日(月)5日目 TR4 遺構掘削作業/TR5 遺構検出作業/他



TR4 遺構掘削作業



TR5 遺構検出作業

3月28日(火)6日目 TR6 遺構検出作業/他



TR6 遺構検出作業



TR6 遺物出土状態:1

3月29日(水)7日目 TR5 遺構掘削作業/TR6 遺構検出作業/他



TR5 遺構掘削作業



TR6 遺構検出作業

3月30日(木)8日目 TR6 遺構掘削作業/他



TR6 遺構掘削作業



TR6 SD1 遺物出土状態:200

図版 24

4月3日(月)9日目 TR5 遺構掘削作業/TR6 遺構掘削作業/香南市文化財センター職員視察/他



TR5 遺構掘削作業



TR6 遺構掘削作業

4月4日(火)10日目 TR5 遺構掘削作業/TR6 遺構掘削作業/他



TR5 遺構掘削作業



TR6 遺構掘削作業

4月5日(水)11日目 TR5 遺構掘削作業/県埋蔵文化財センター職員視察/他



TR5 遺構掘削作業



作業風景

4月12日(水)12日目 TR5 遺構掘削作業/他



TR5 遺構掘削作業

4月13日(木)13日目 県文化財課職員視察/他



県文化財課職員視察

4月14日(金)14日目 TR7 遺構検出作業/他



TR7 重機掘削作業



TR7 遺構検出作業

4月19日(水)15日目 TR7 遺構検出作業/他



TR7 遺構検出作業



TR7 ST1 遺物出土状態:297

4月20日(木)16日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 P144 土層断面状況

4月21日(金)17日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 ST1 遺物出土状態:271-272・他

図版 26

4月24日(月)18日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 集石遺構4 礎群検出状態

4月25日(火)19日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 ST1 遺物出土状態:391・451・他

4月27日(木)20日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 ST1 遺物出土状態:315・374・409・440・841・842

4月28日(金)21日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 ST1 遺物出土状態:376・387・479・508

5月1日(月)22日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



TR7 ST1 遺物出土状態:804-807-828

5月2日(火)23日目 TR7 遺構掘削作業/他



TR7 ST1 遺構掘削作業



おつかれさまでした

現場写真1



図版 28
現場写真 2



報 告 書 抄 録

ふりがな	ひがしはざまいせき							
書名	東狭間遺跡							
副書名	緊急避難塔整備に伴う試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	宮地啓介							
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）							
所在地	〒781-5453 高知県香南市香我美町山北 1553-1 TEL 0887-54-2296							
発行年月日	2021年3月22日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
ひがしはざまいせき 東狭間遺跡	こうちけんこうなんし 高知県香南市 としのわかとよまじしよん 吉川町吉原	39211	230009	33° 32′ 37″	133° 41′ 26″	平成29年 3月17日 { 5月2日	約170㎡	緊急避難塔 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東狭間遺跡	集落跡	弥生後期 古代 / 中世	竪穴住居状遺構 掘立柱建物跡 土坑状遺構 溝状遺構 性格不明遺構 ピット状遺構	弥生土器 須恵器 土師質土器 石器 / 土製品				

高知県香南市発掘調査報告書第18集

東狭間遺跡

緊急避難塔整備に伴う試掘調査報告書

2021年3月

発行 高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター
〒781-5453 高知県香南市香我美町山北1553-1
TEL 0887-54-2296

印刷 高知県香南市野市町西野 45
半田印刷